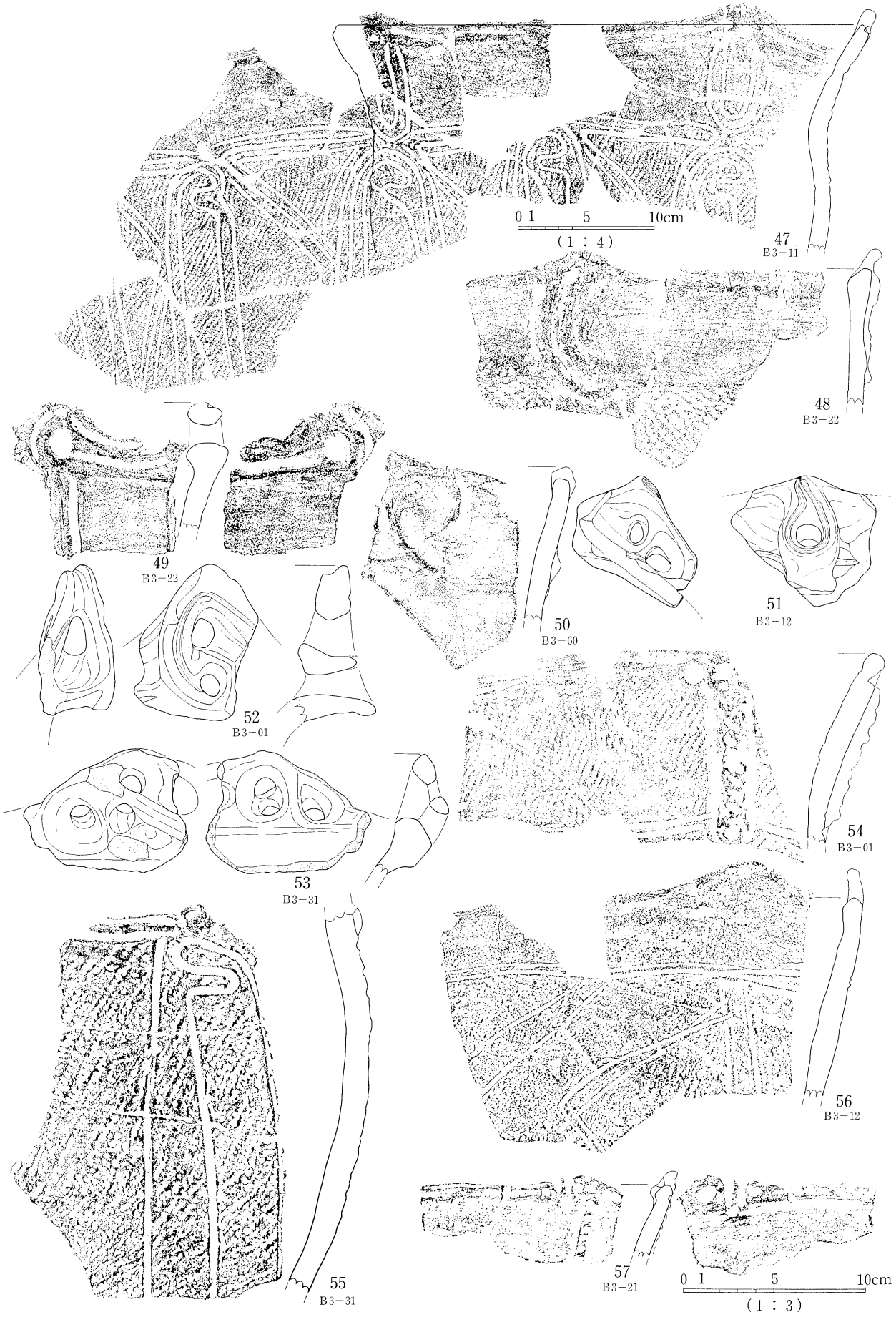
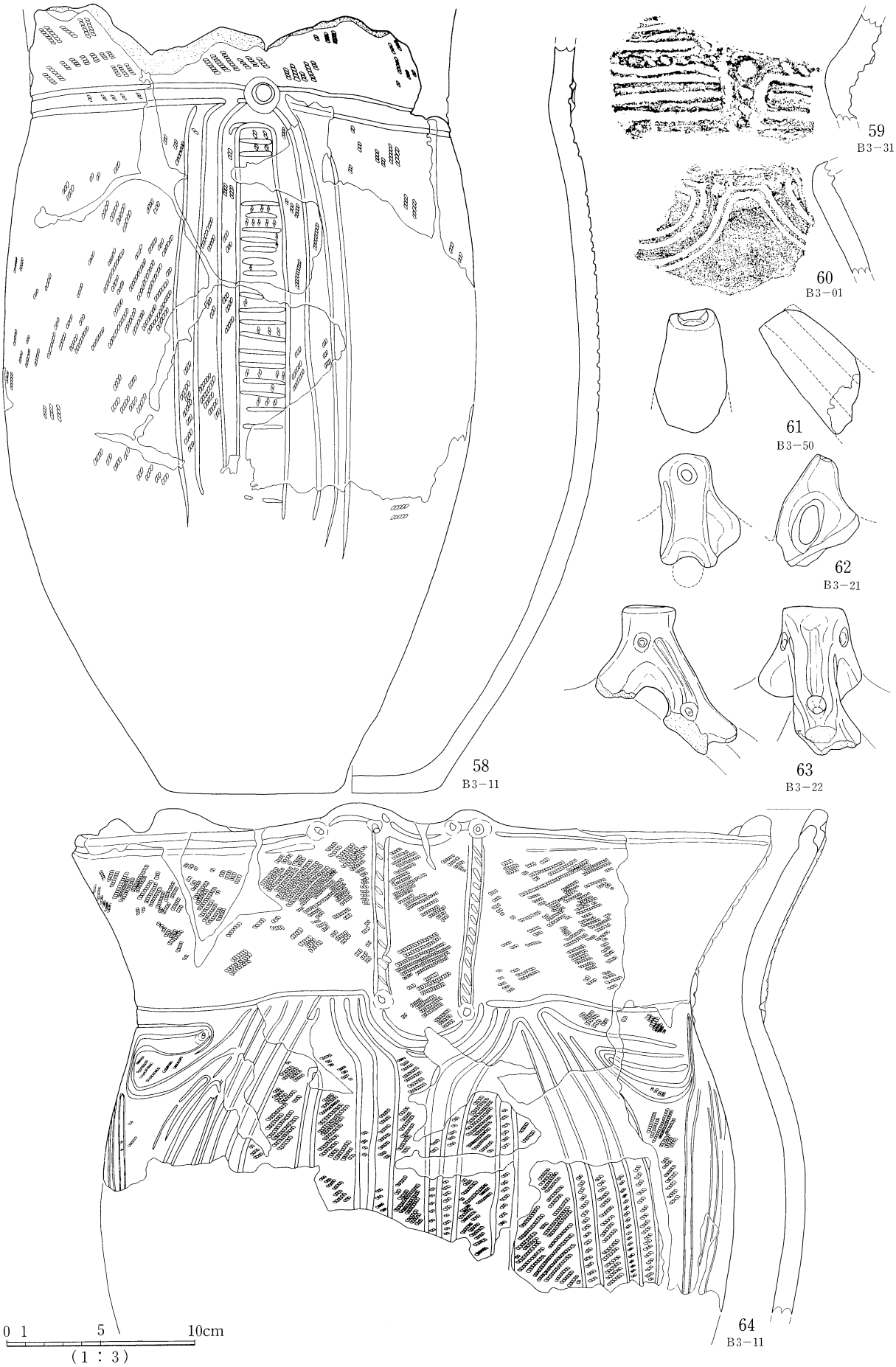


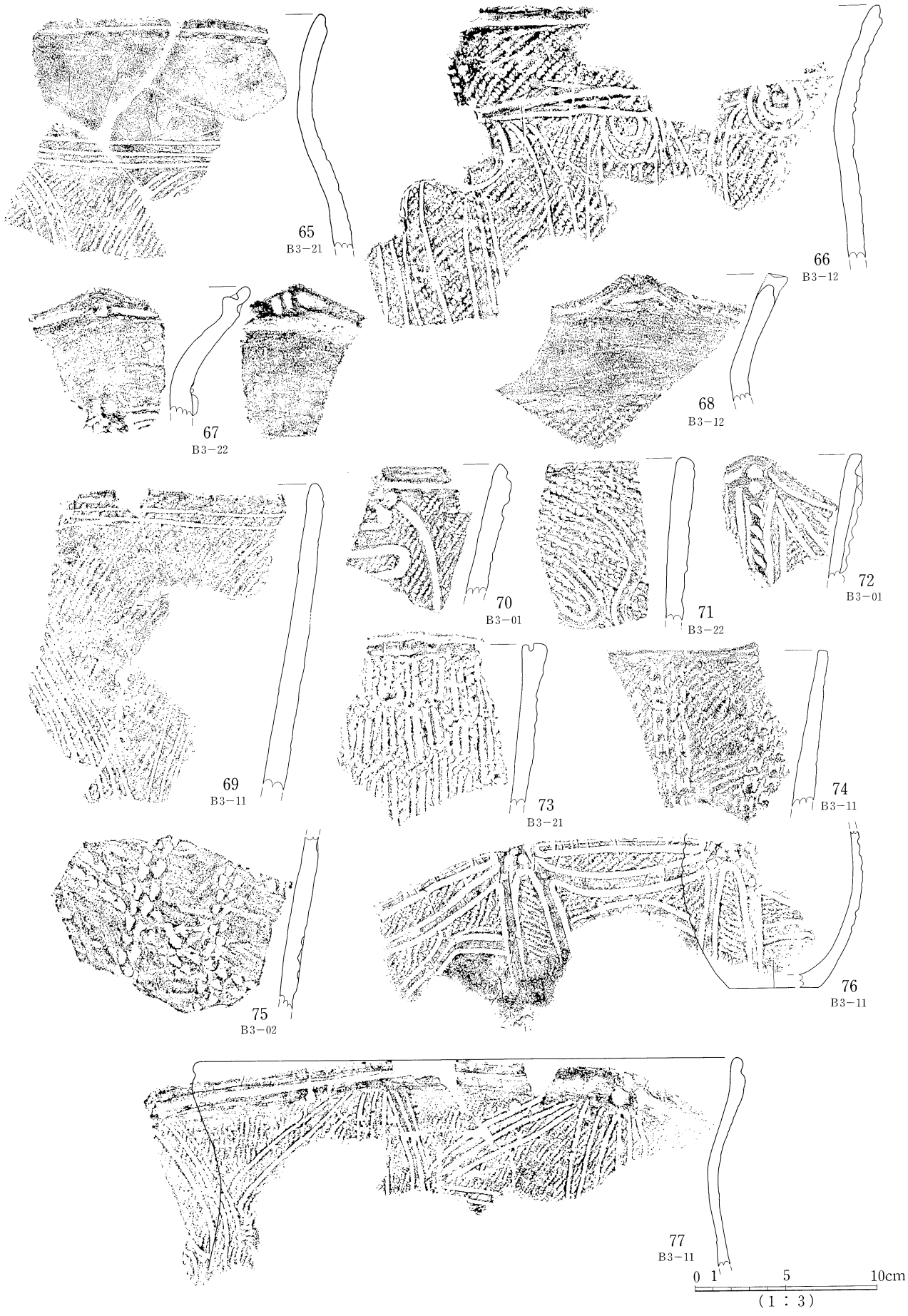
第565図　包含層出土土器−Ｂ３・Ｂ４区−(2)



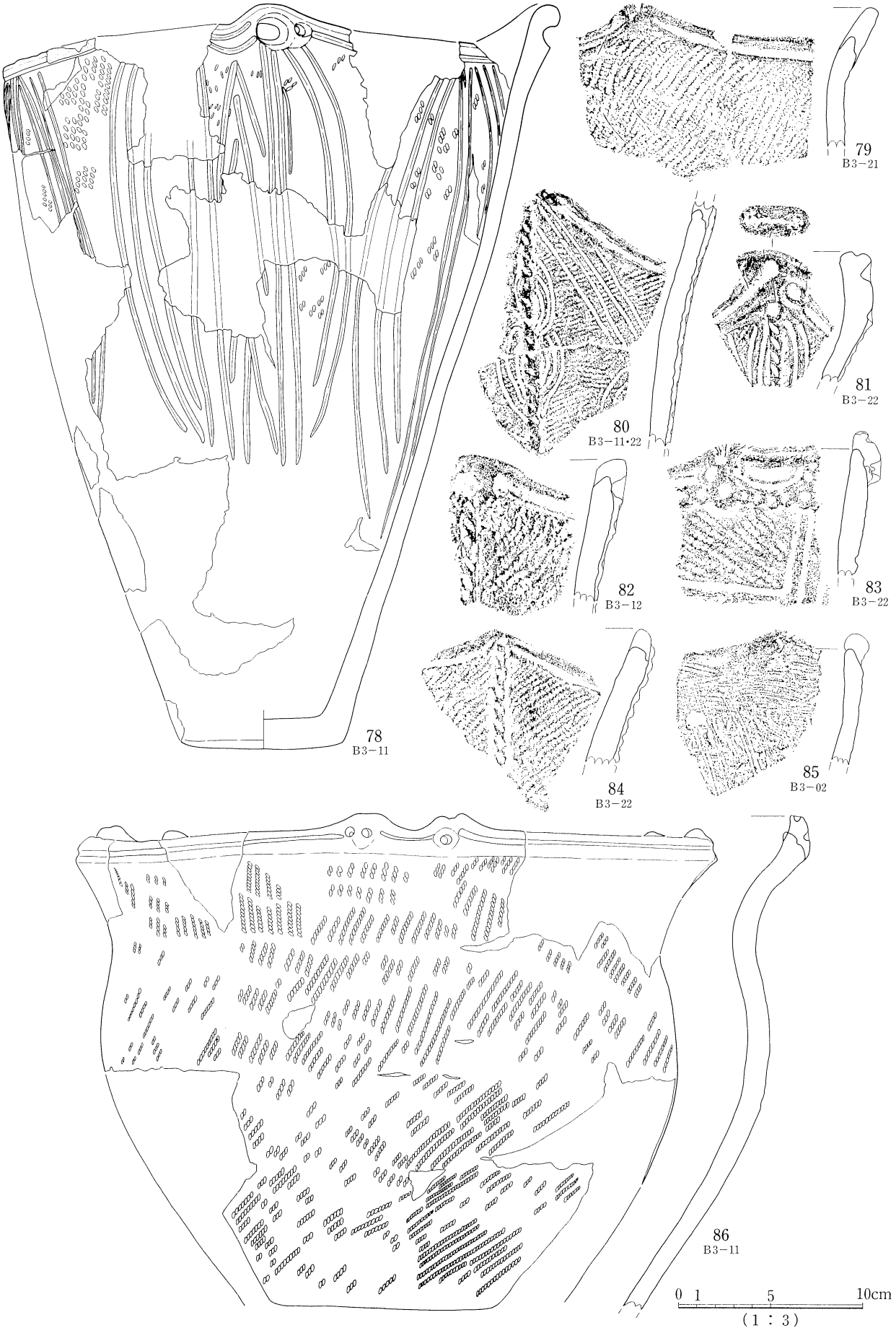
第566図　包含層出土土器−Ｂ３・Ｂ４区−(3)



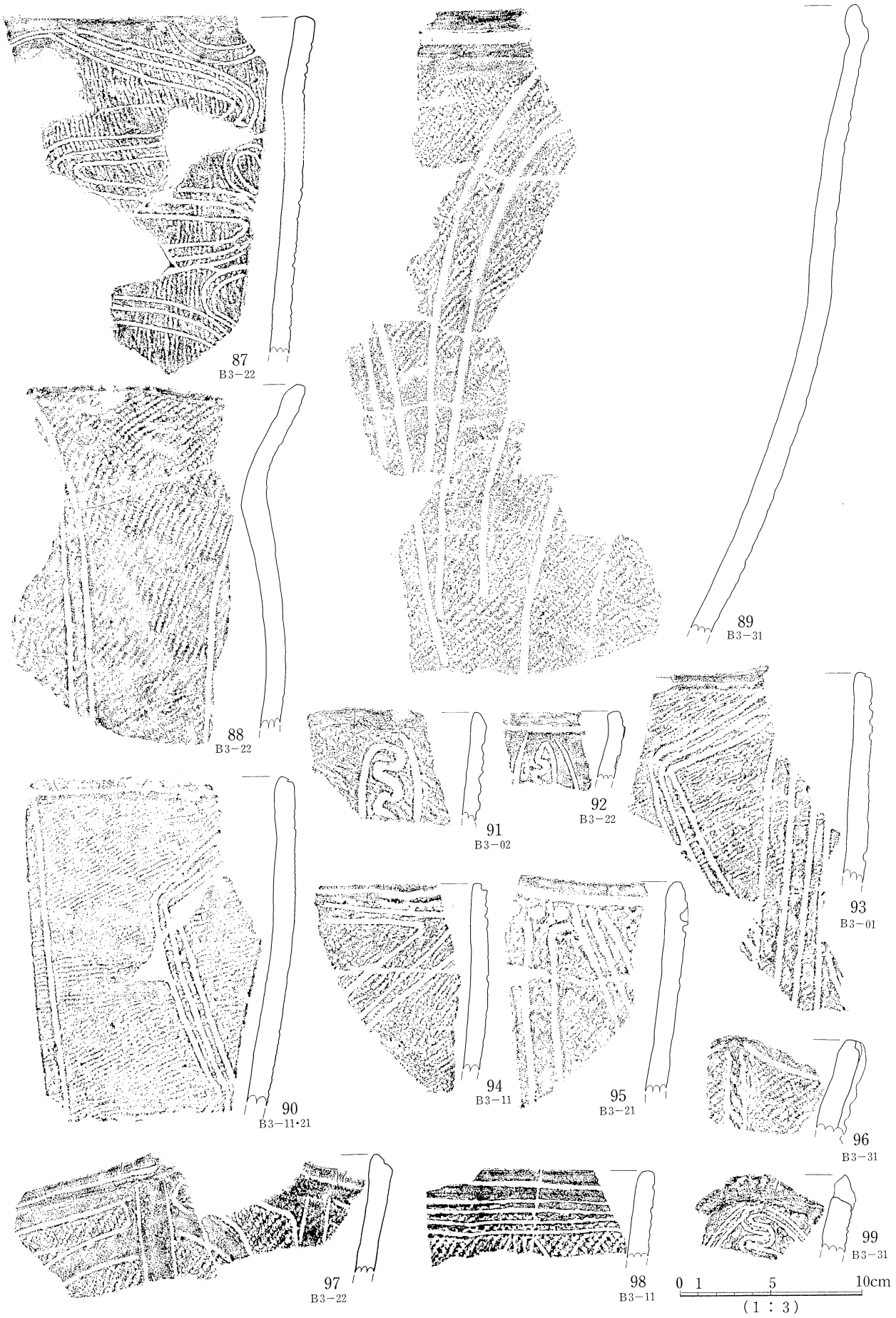
第567図　包含層出土土器-B 3 ・ B 4 区-(4)



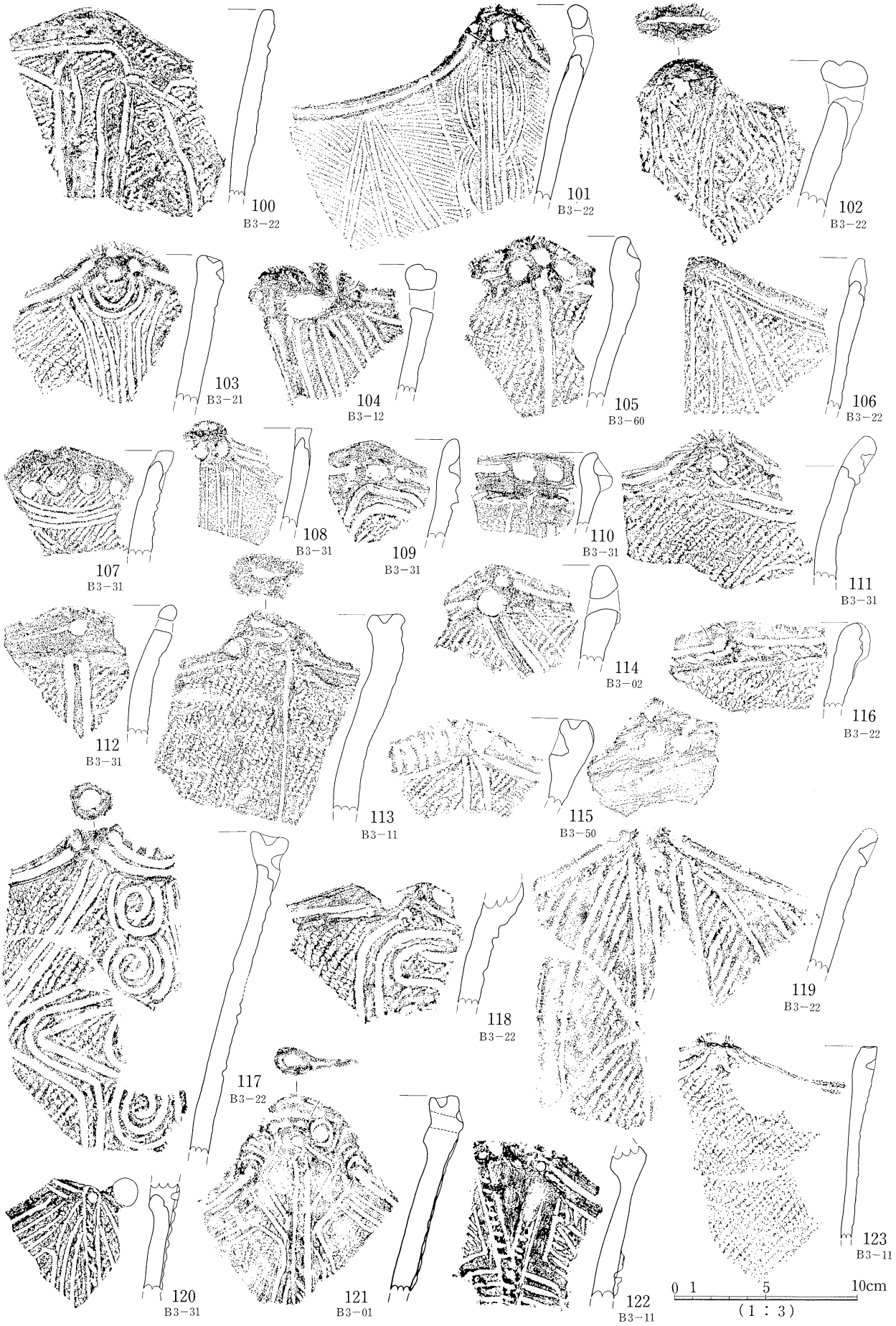
第568図　包含層出土土器−Ｂ３・Ｂ４区−(5)



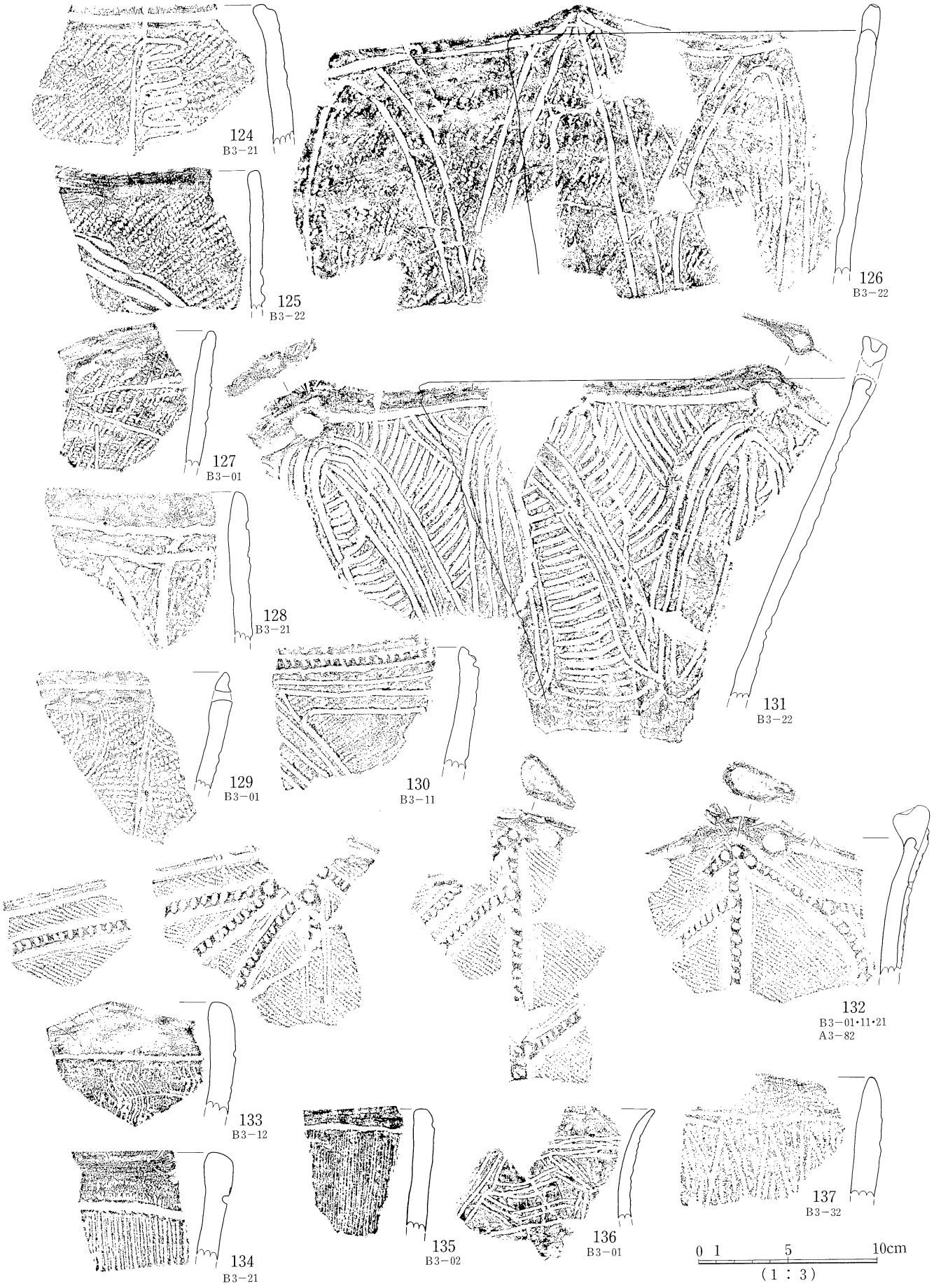
第569図　包含層出土土器-Ｂ３・Ｂ４区-(6)



第570図　包含層出土土器−Ｂ３・Ｂ４区−(7)



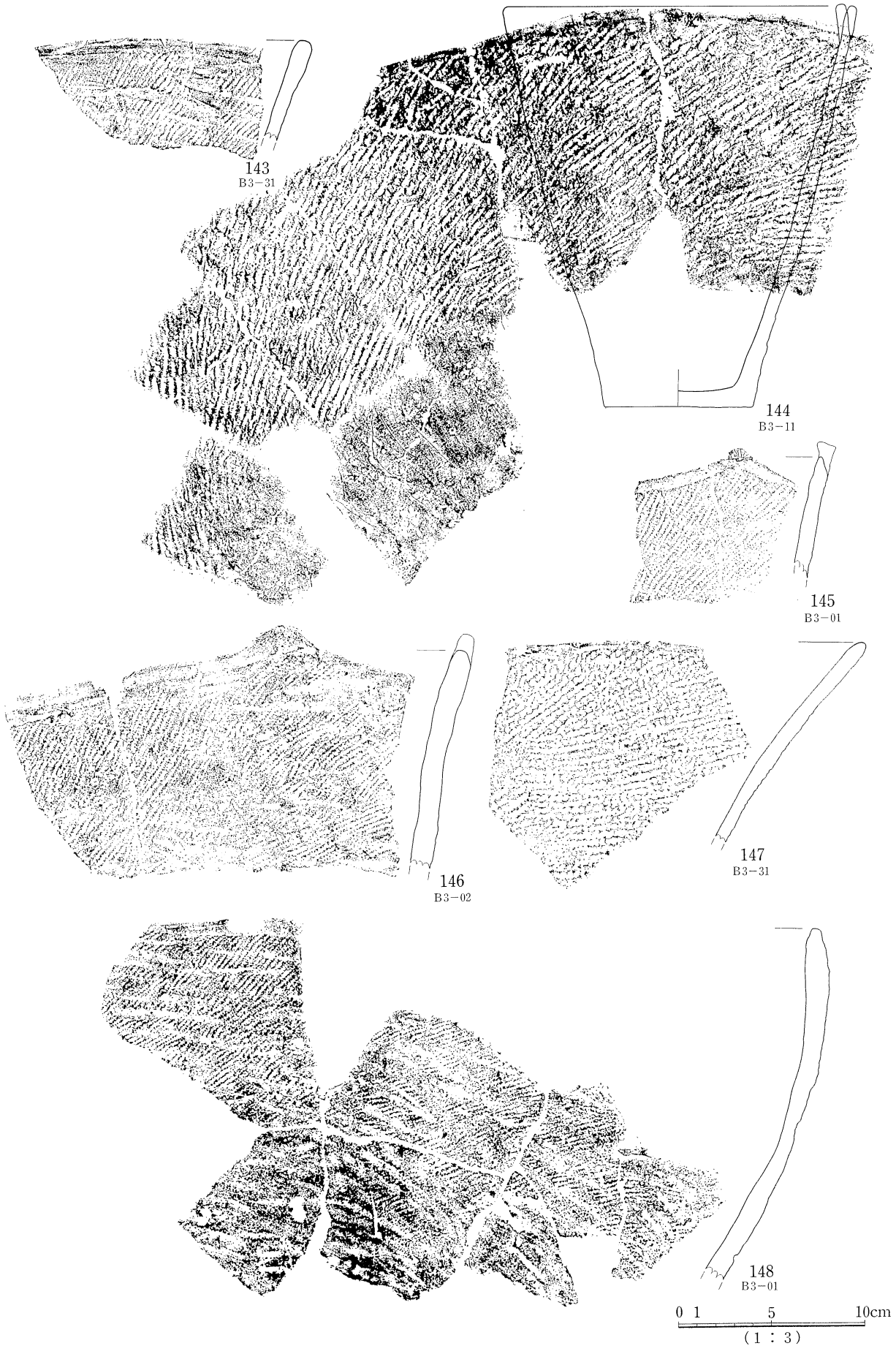
第571図　包含層出土土器-Ｂ３・Ｂ４区-(8)



第572図　包含層出土土器−Ｂ３・Ｂ４区−(9)



第573図　包含層出土土器−Ｂ３・Ｂ４区−(10)



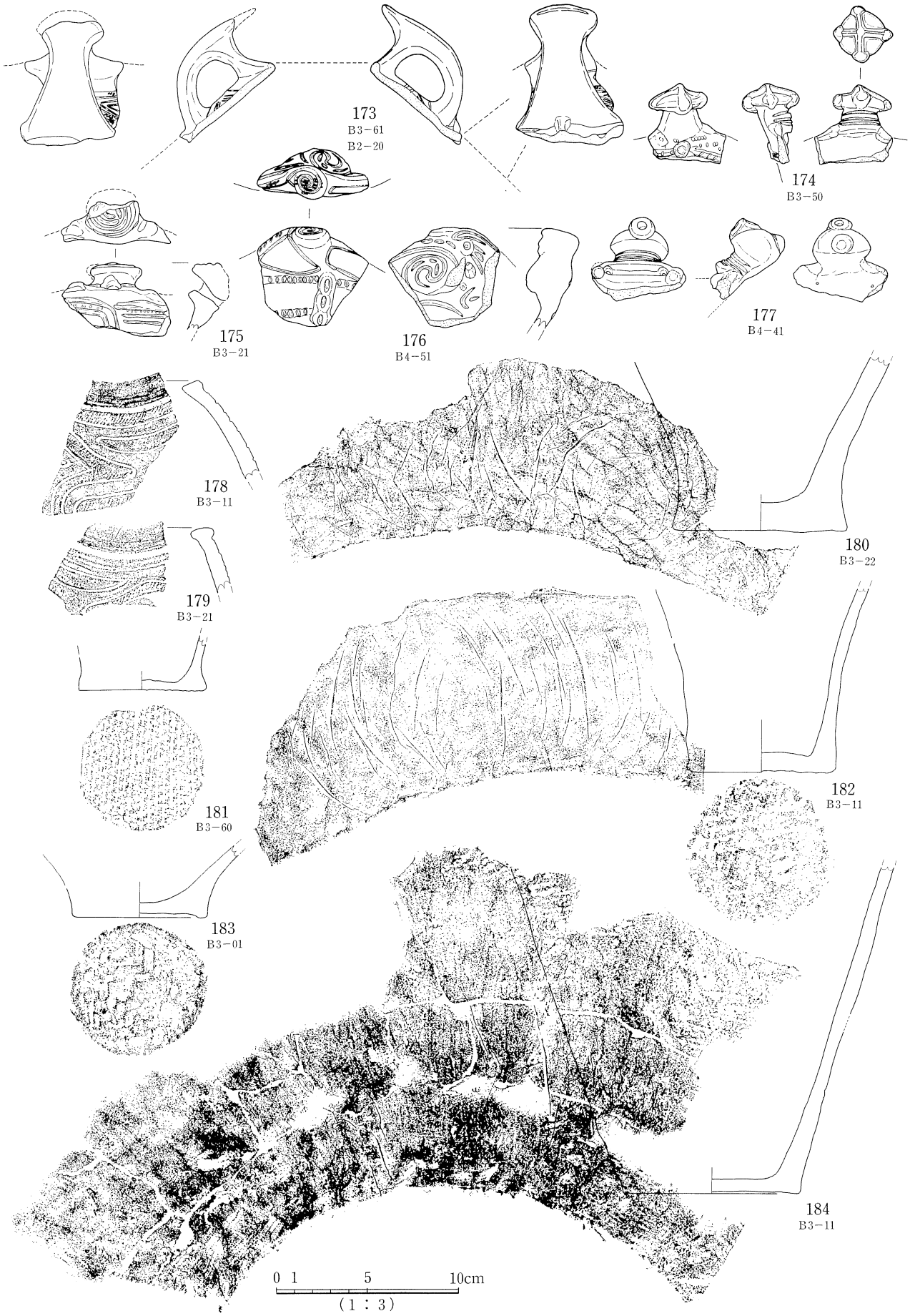
第574図　包含層出土土器-Ｂ３・Ｂ４区-(11)



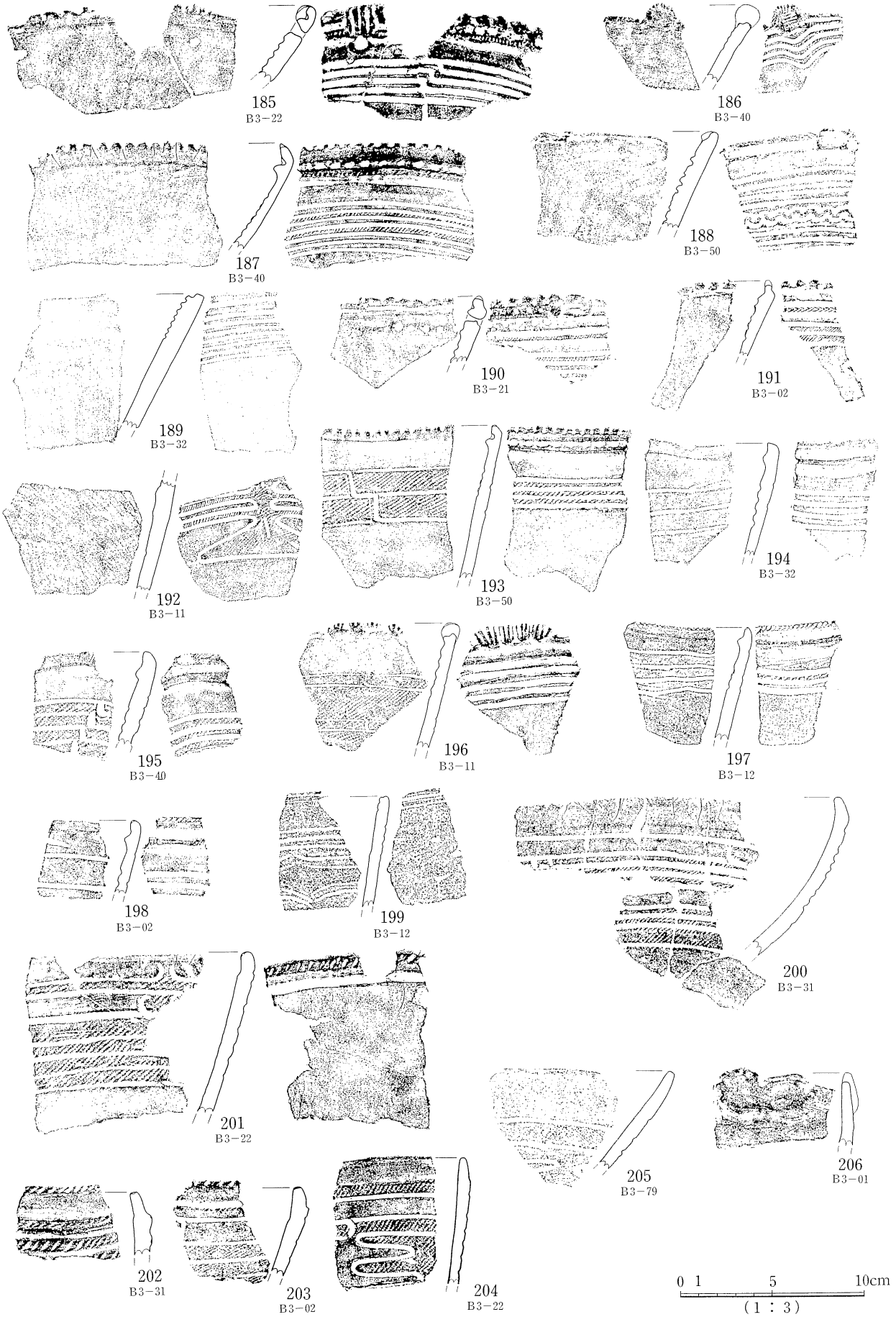
第575図　包含層出土土器−B 3 ・ B 4 区−(12)



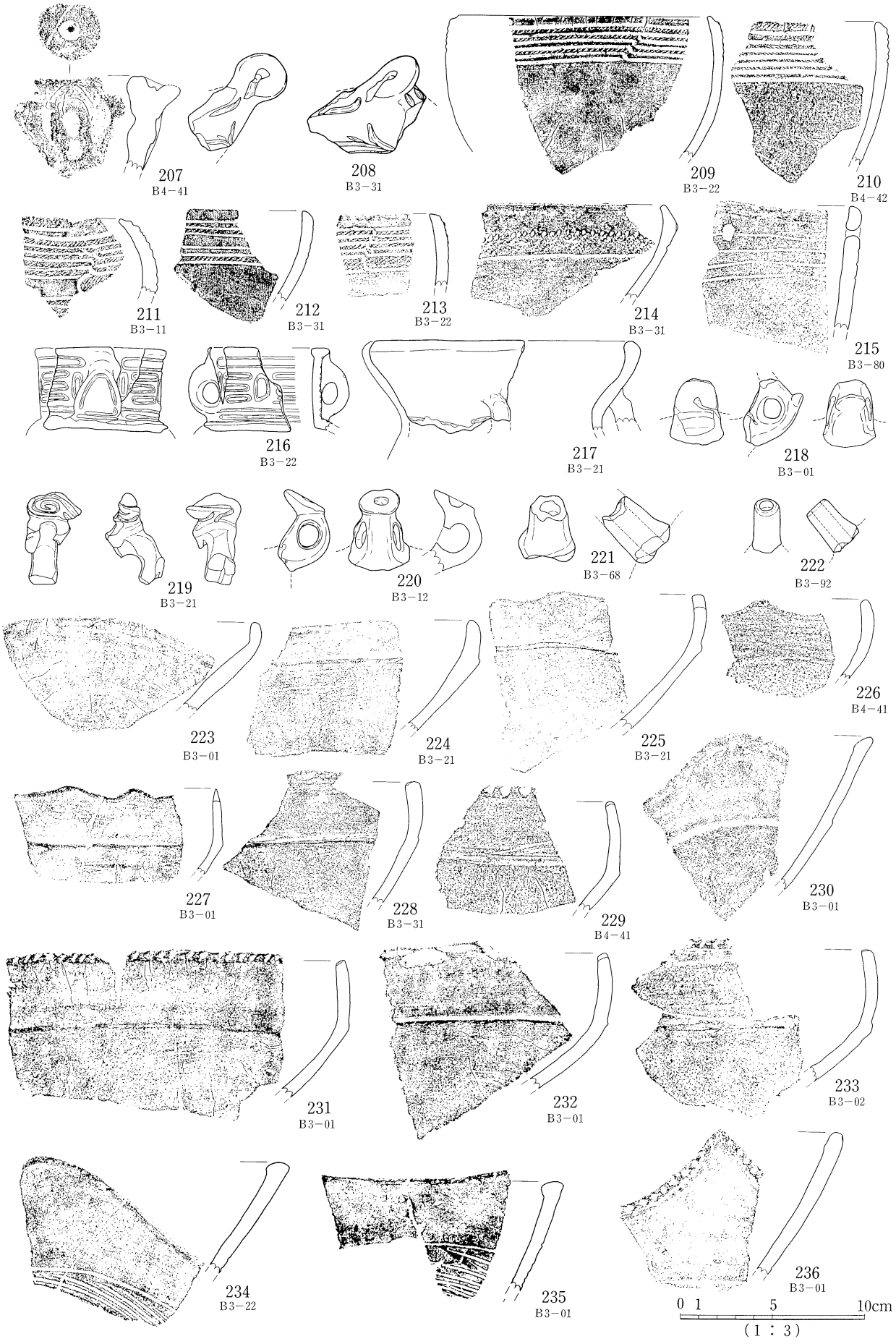
第576図　包含層出土土器-B 3 ・ B 4 区-(13)



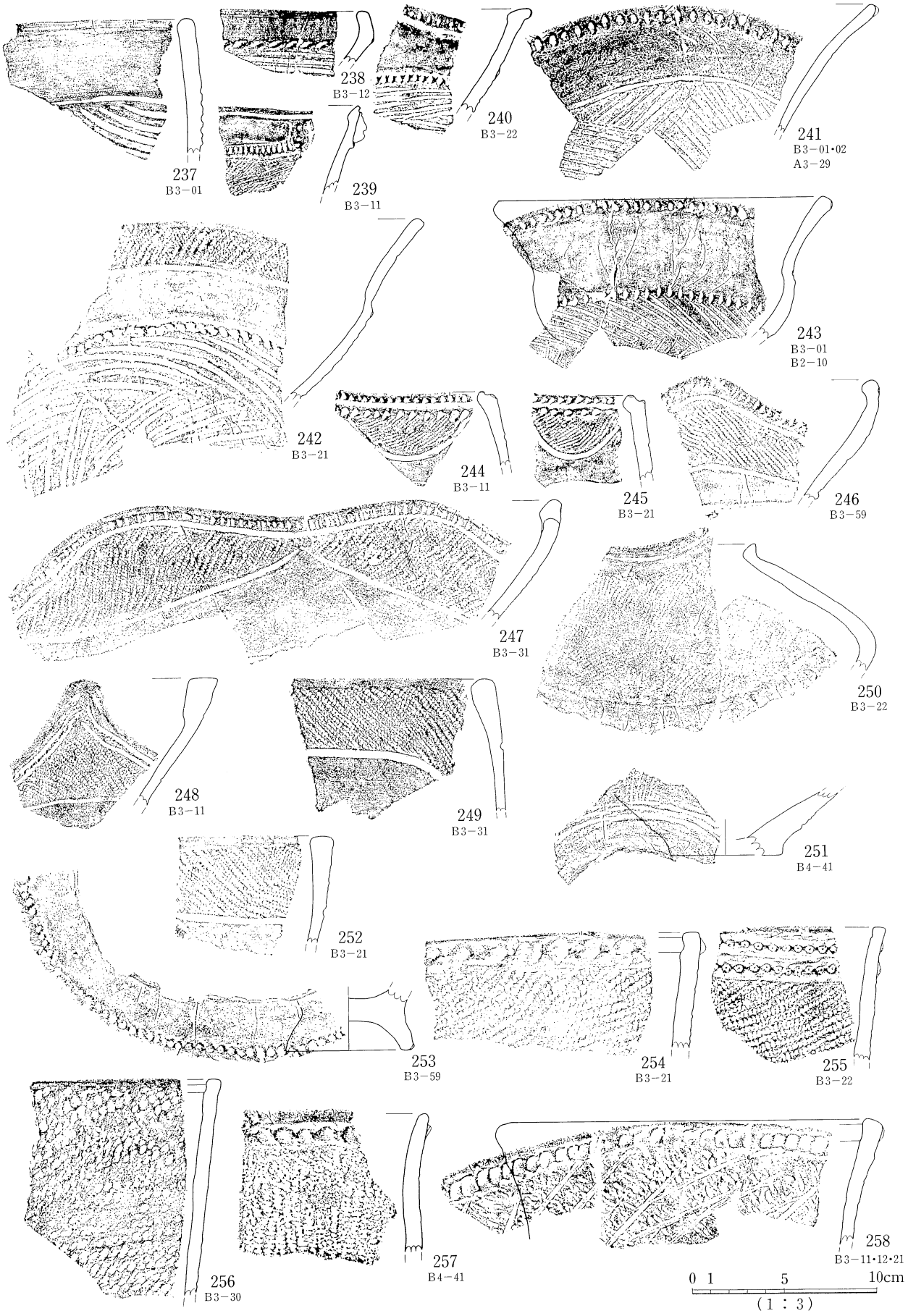
第577図　包含層出土土器−Ｂ３・Ｂ４区−(14)



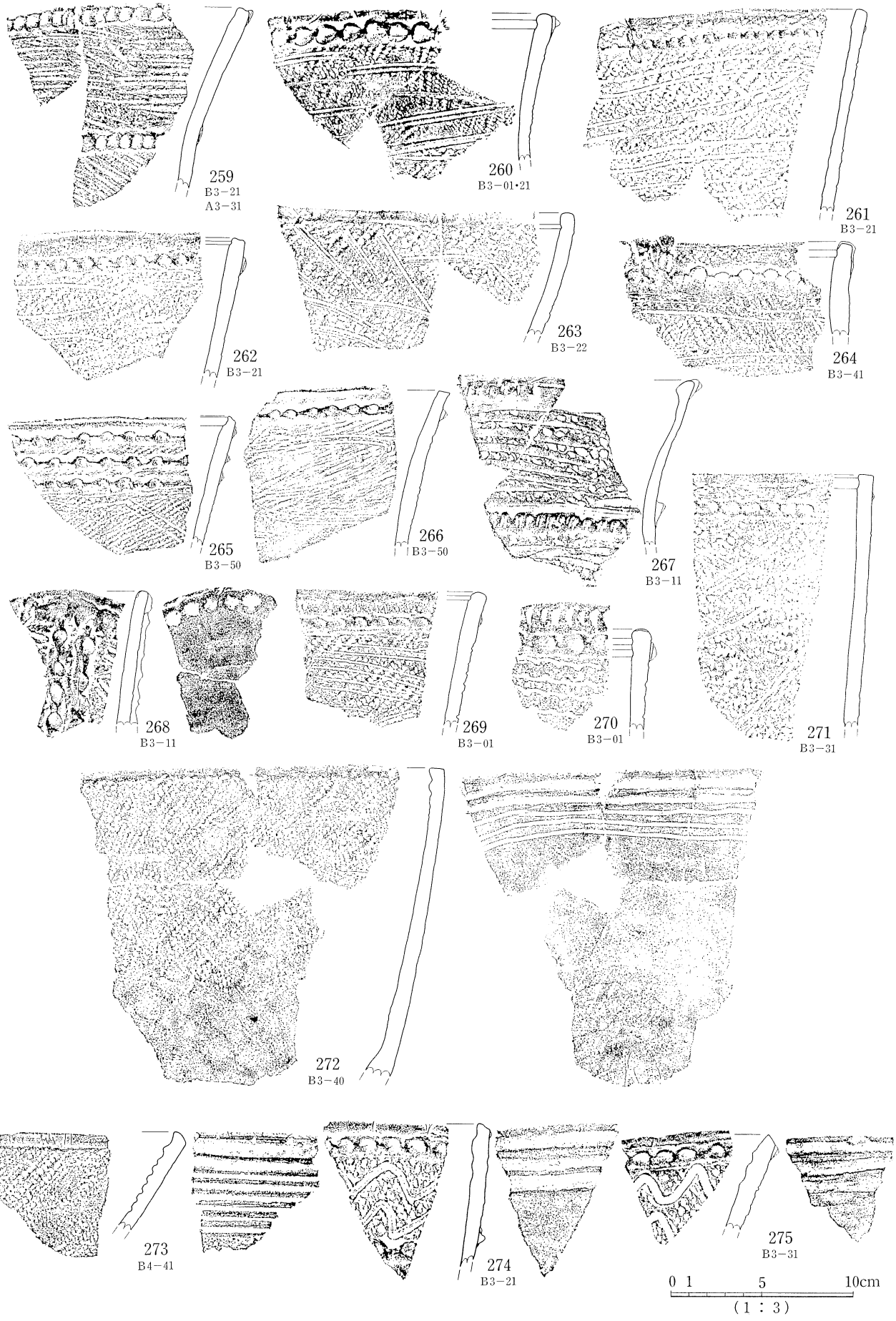
第578図　包含層出土土器-B 3 ・ B 4 区-(15)



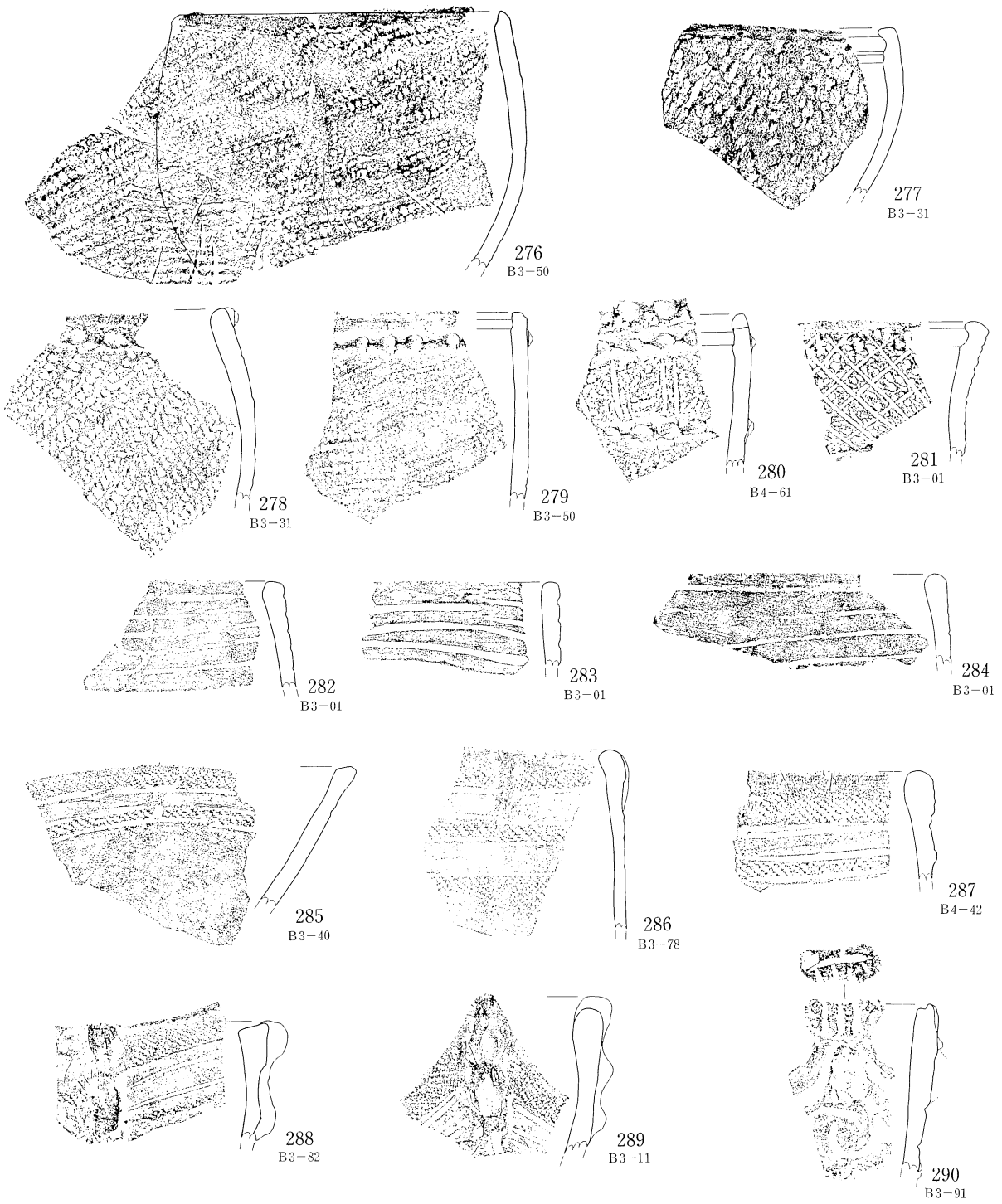
第579図　包含層出土土器−Ｂ３・Ｂ４区−(16)



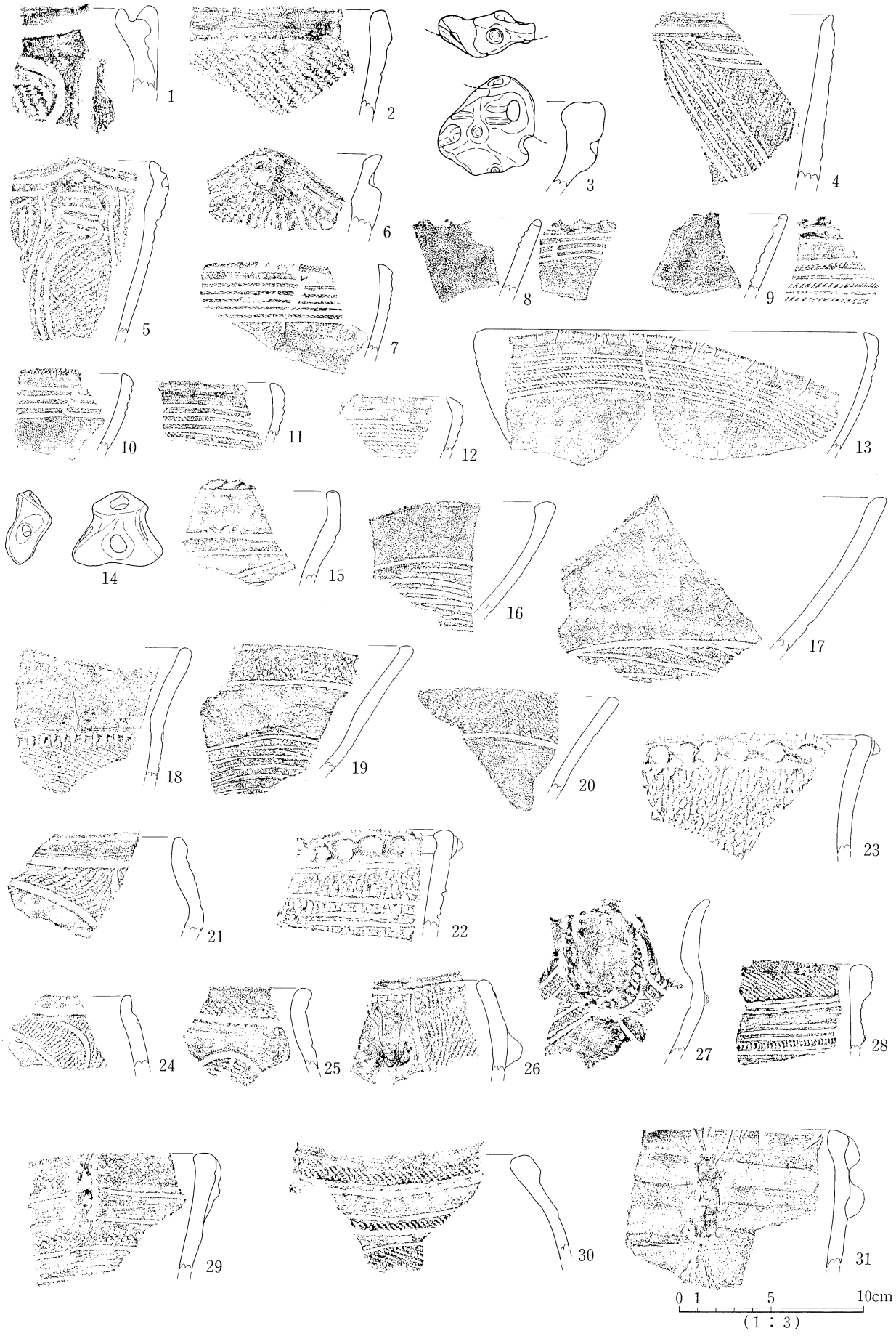
第580図　包含層出土土器-B 3 ・ B 4 区-(17)



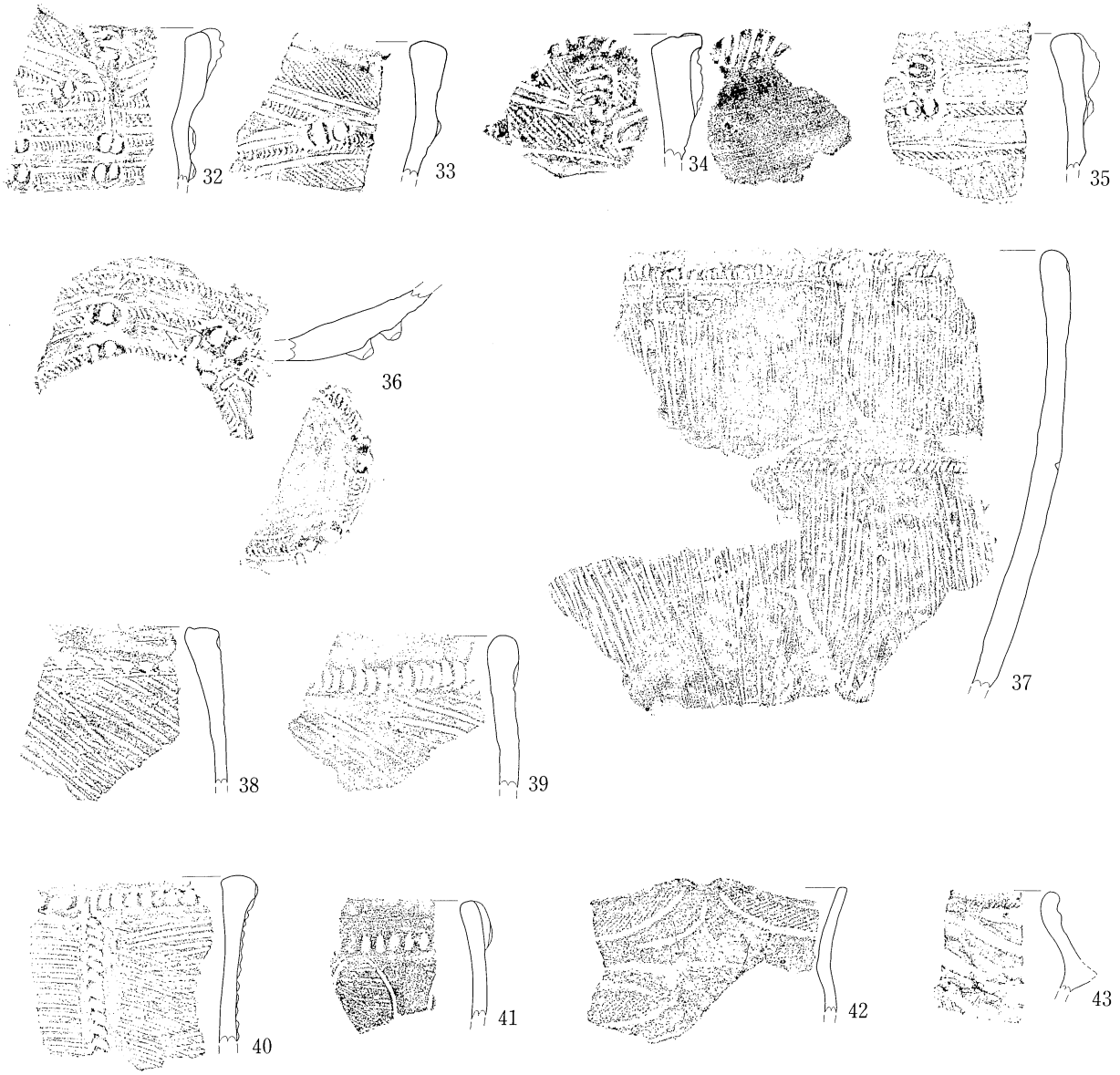
第581図　包含層出土土器-Ｂ３・Ｂ４区-(18)



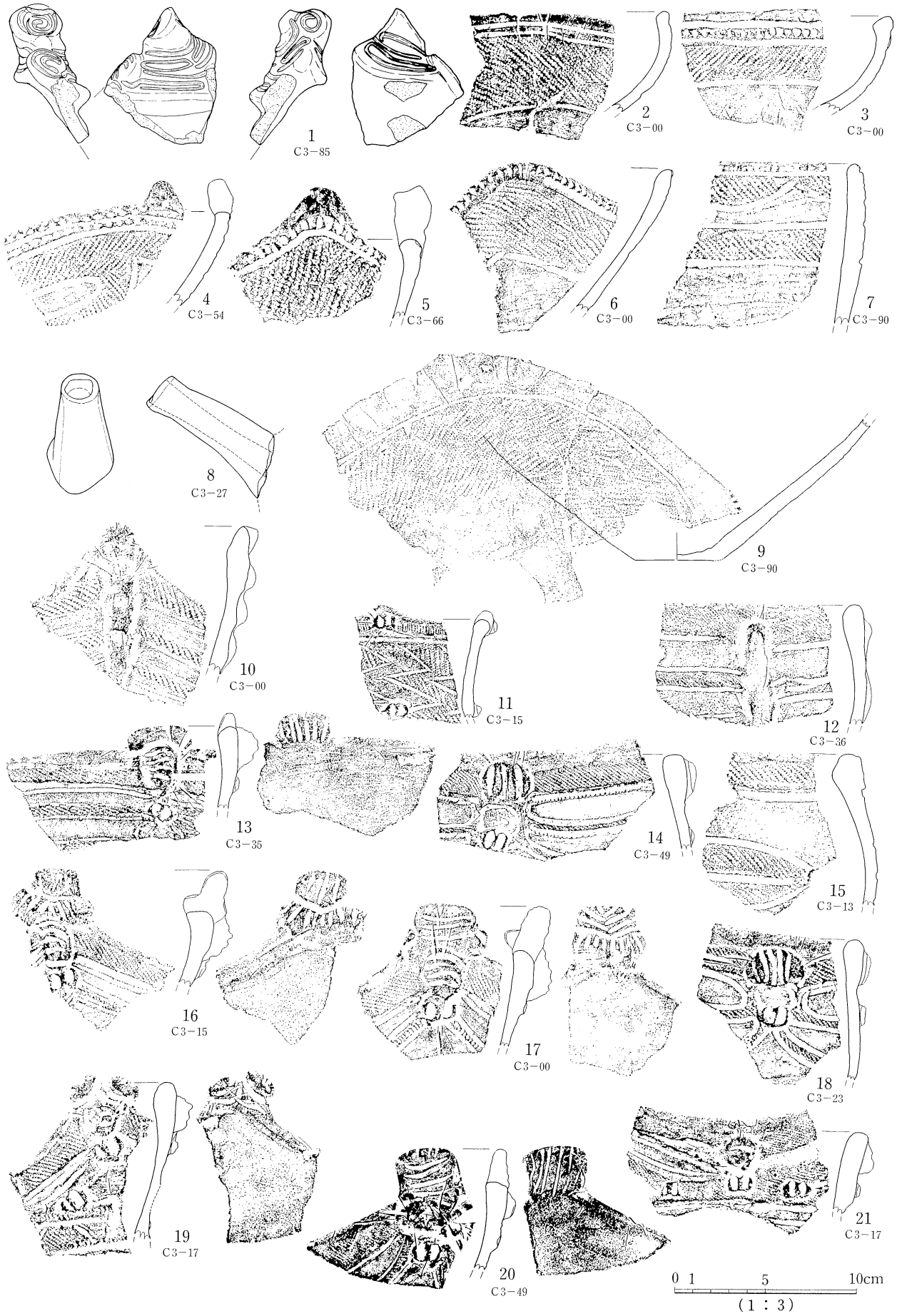
第582図　包含層出土土器-Ｂ３・Ｂ４区-(19)



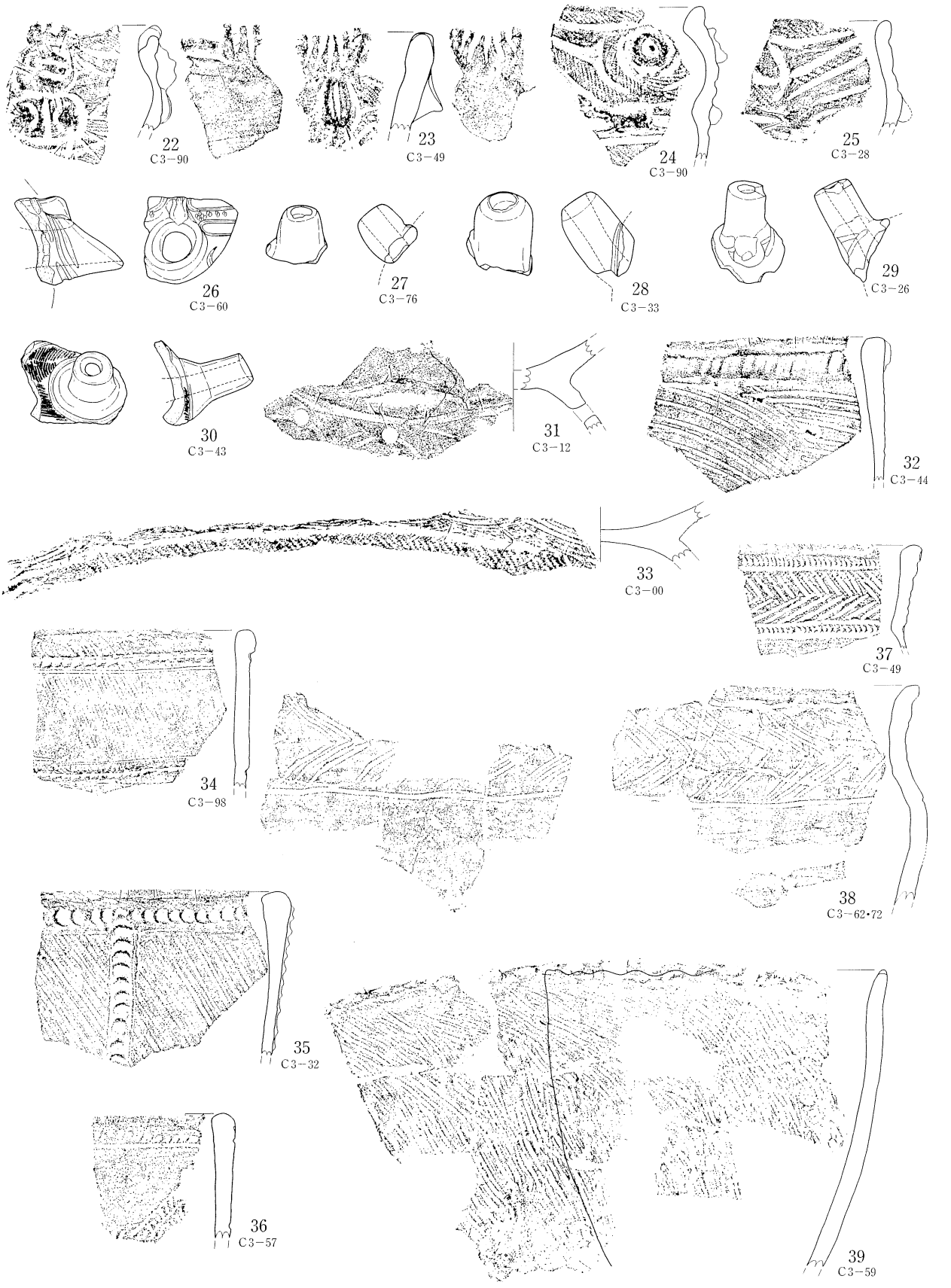
第583図　包含層出土土器-上総国分尼寺調査分　B 3 ・ B 4 区-(1)



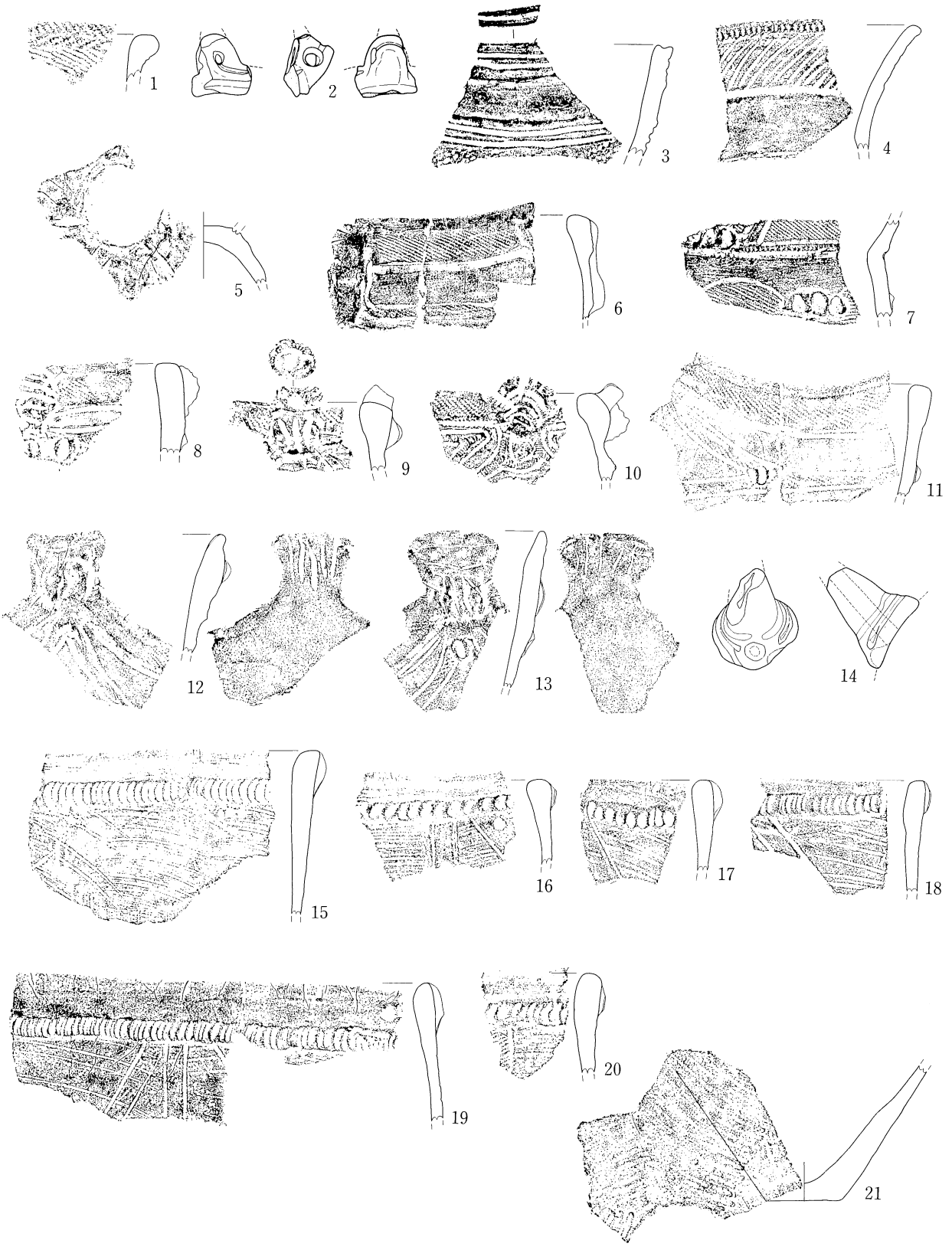
第584図　包含層出土土器-上総国分尼寺調査分　Ｂ３・Ｂ４区-(2)



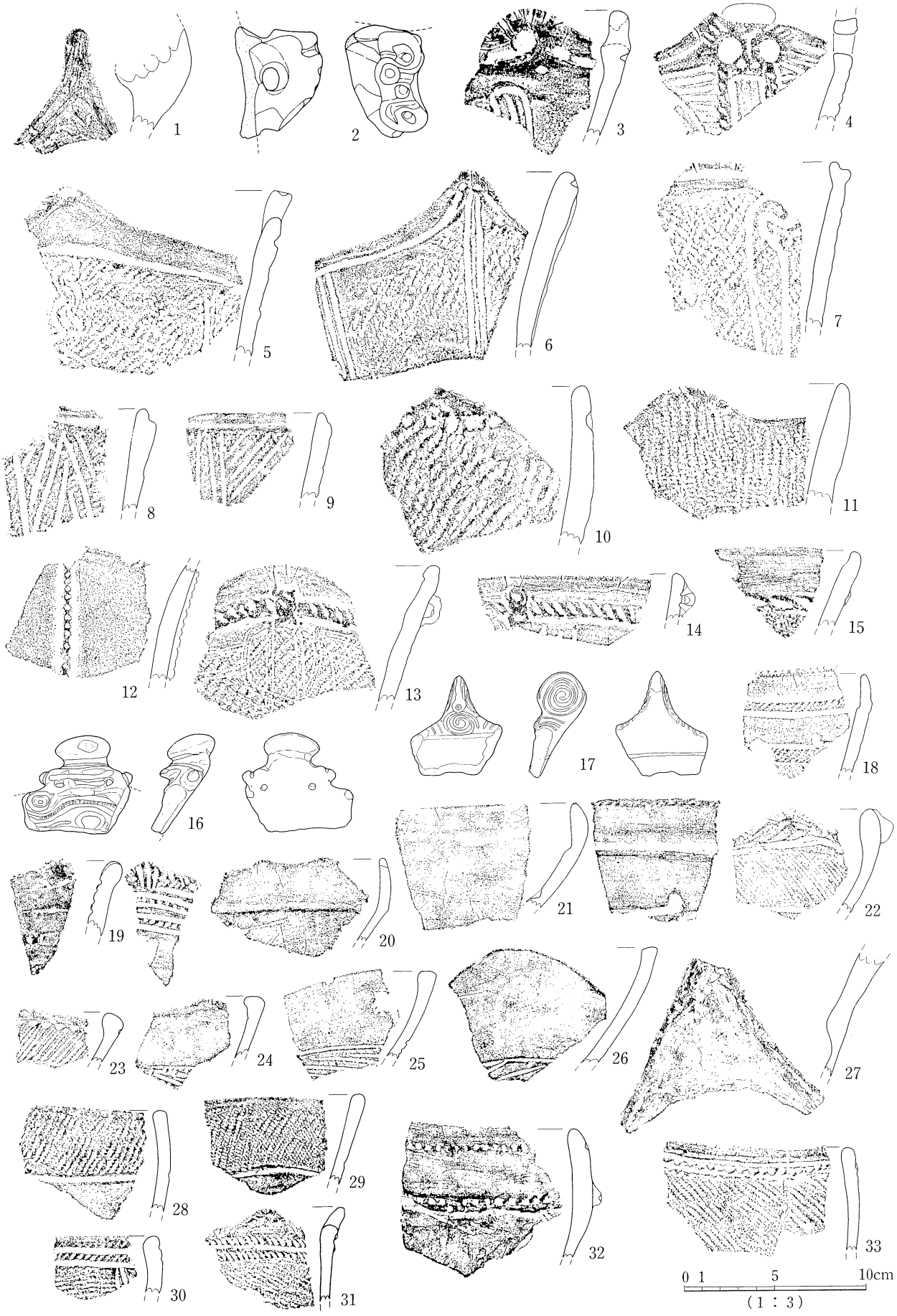
第585図　包含層出土土器−C 3 区−(1)



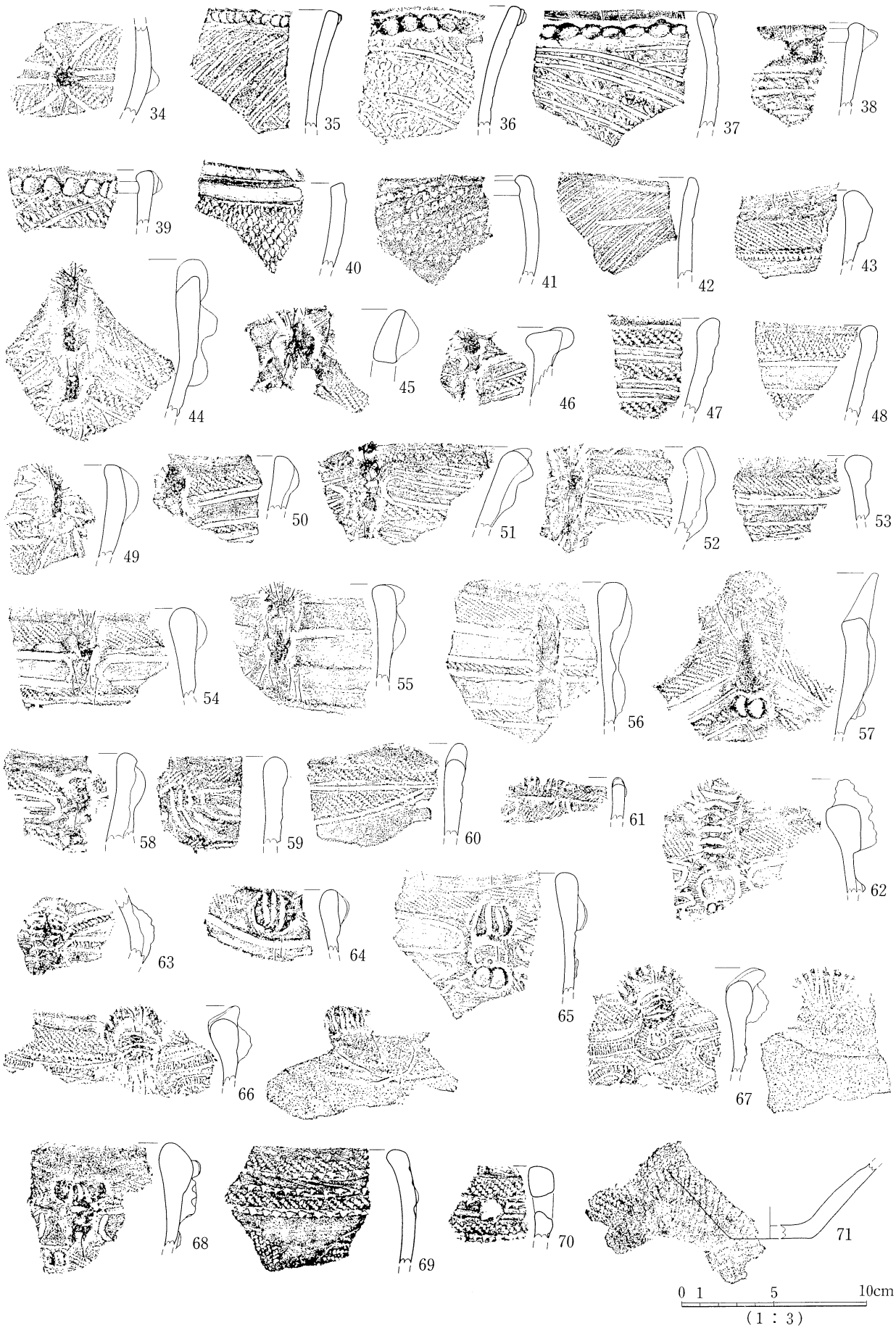
第586図　包含層出土土器-C 3 区-(2)



第587図　包含層出土土器-上総国分尼寺調査分　C 3 区-



第588図　包含層出土土器-上総国分尼寺調査分　B 3 ・ B 4 ・ C 3 区-(1)



第589図　包含層出土土器-上総国分尼寺調査分　B 3 ・B 4 ・C 3 区-(2)

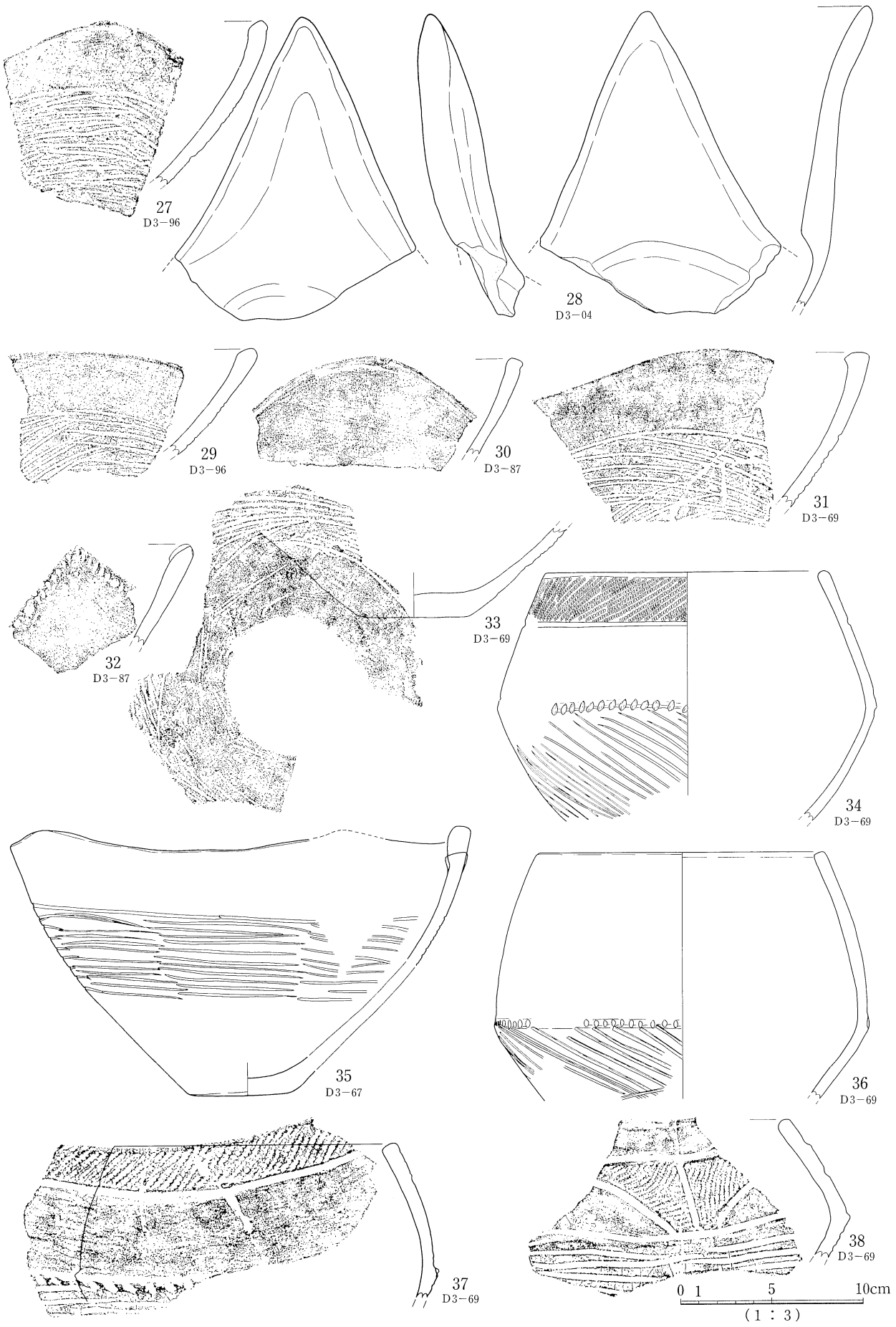


0 1 5 10cm
(1 : 3)

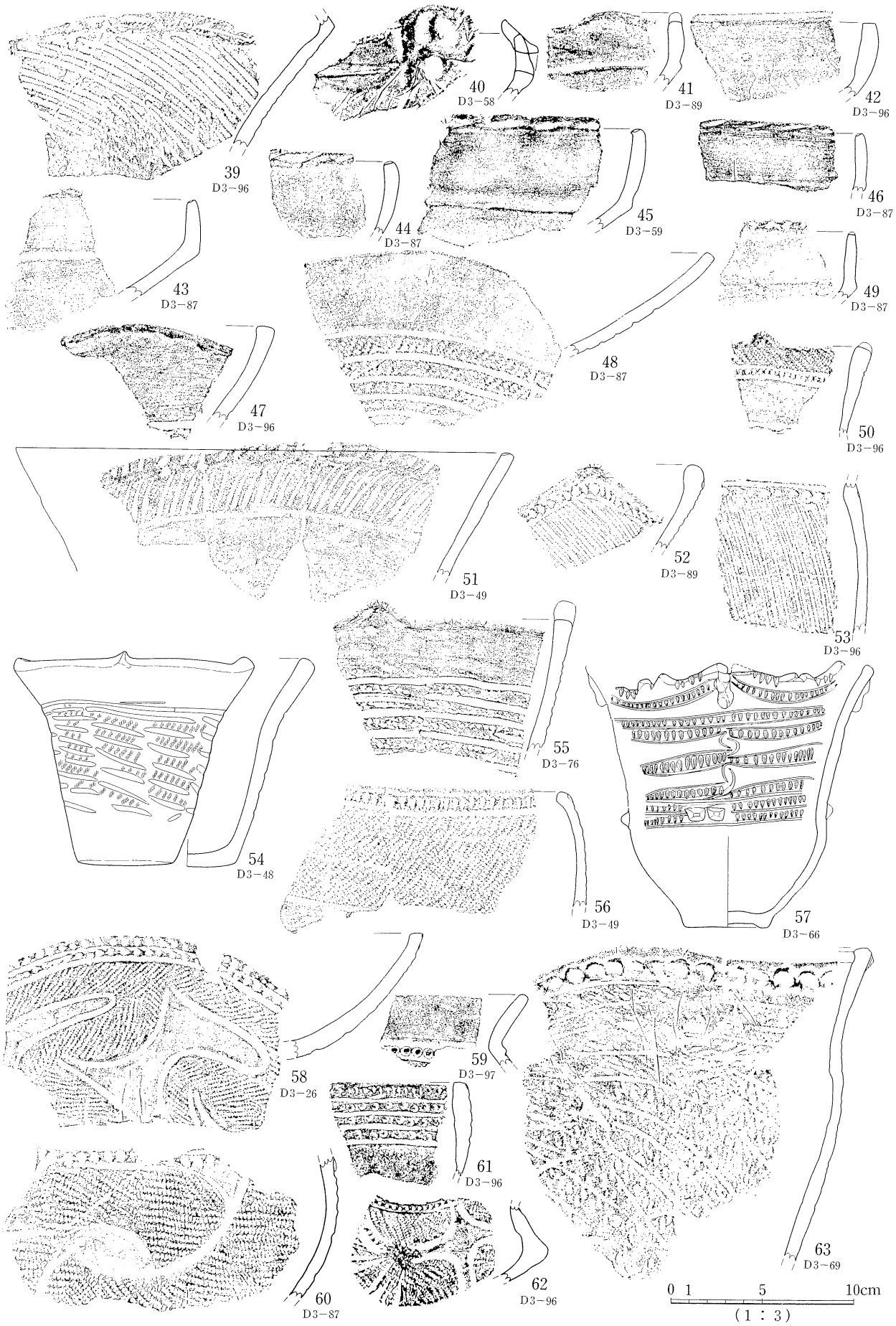
第590図　包含層出土土器-上総国分尼寺調査分　Ｂ３・Ｂ４・Ｃ３区-(3)



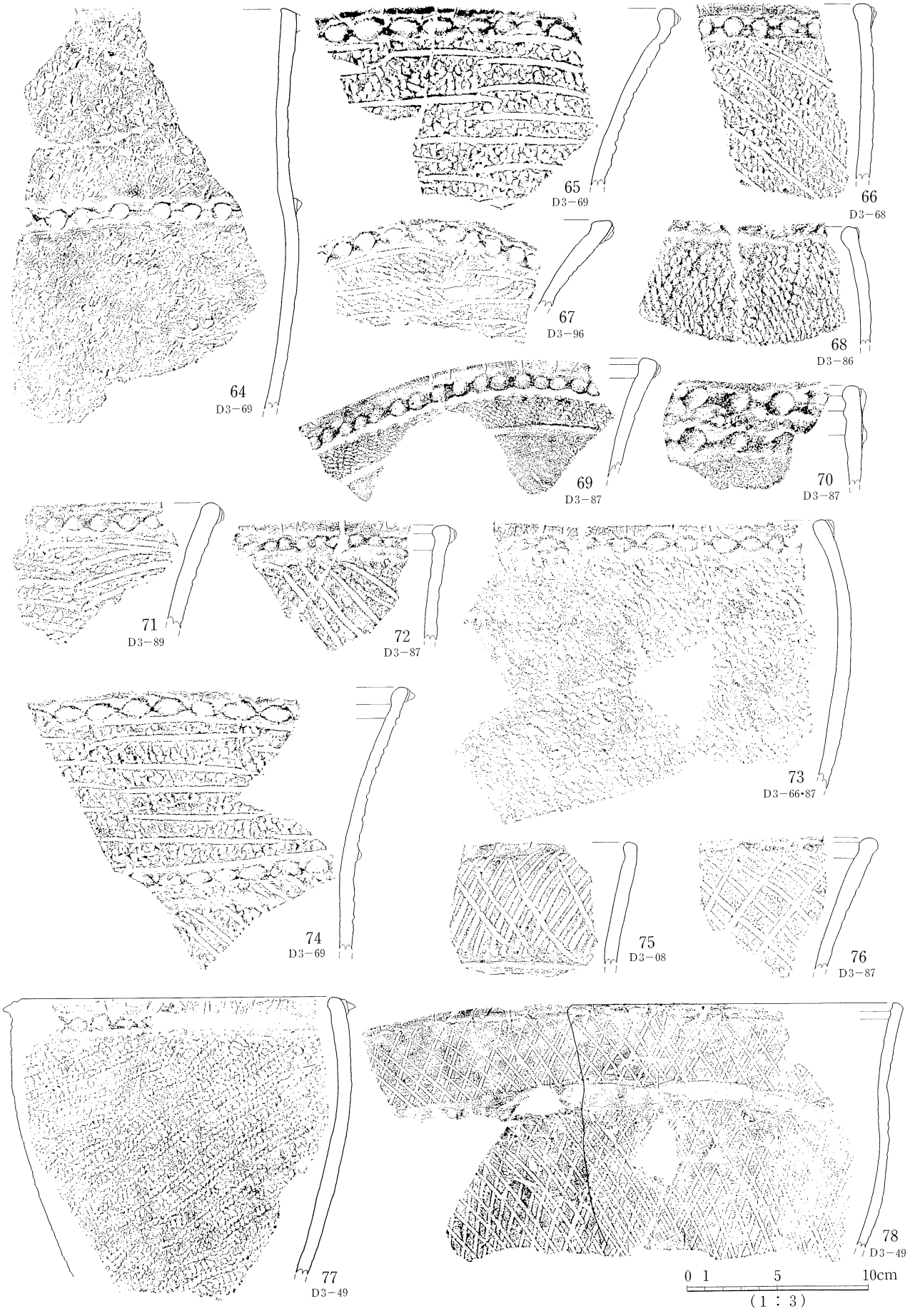
第591図　包含層出土土器-D 3 区-(1)



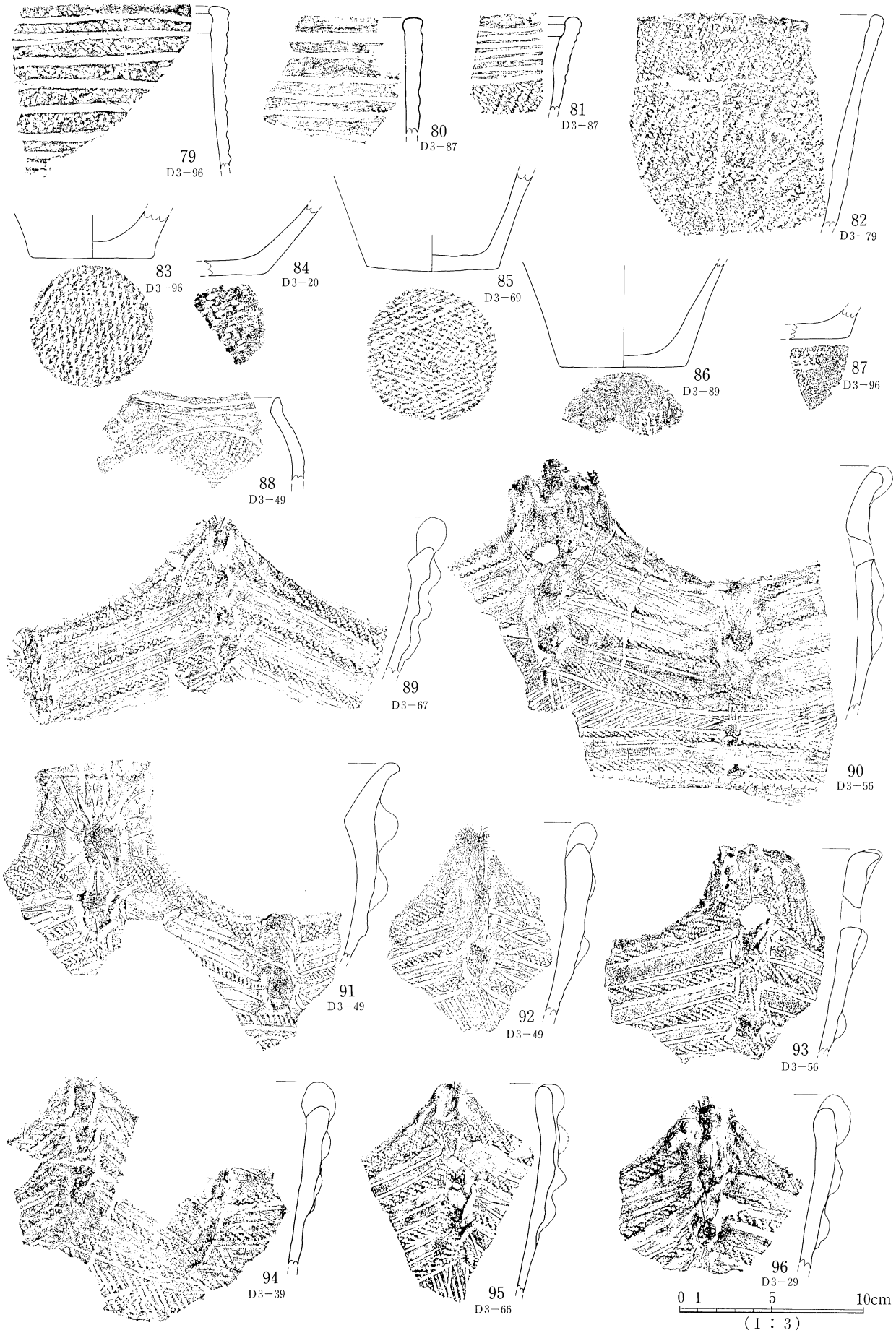
第592図　包含層出土土器-D 3 区-(2)



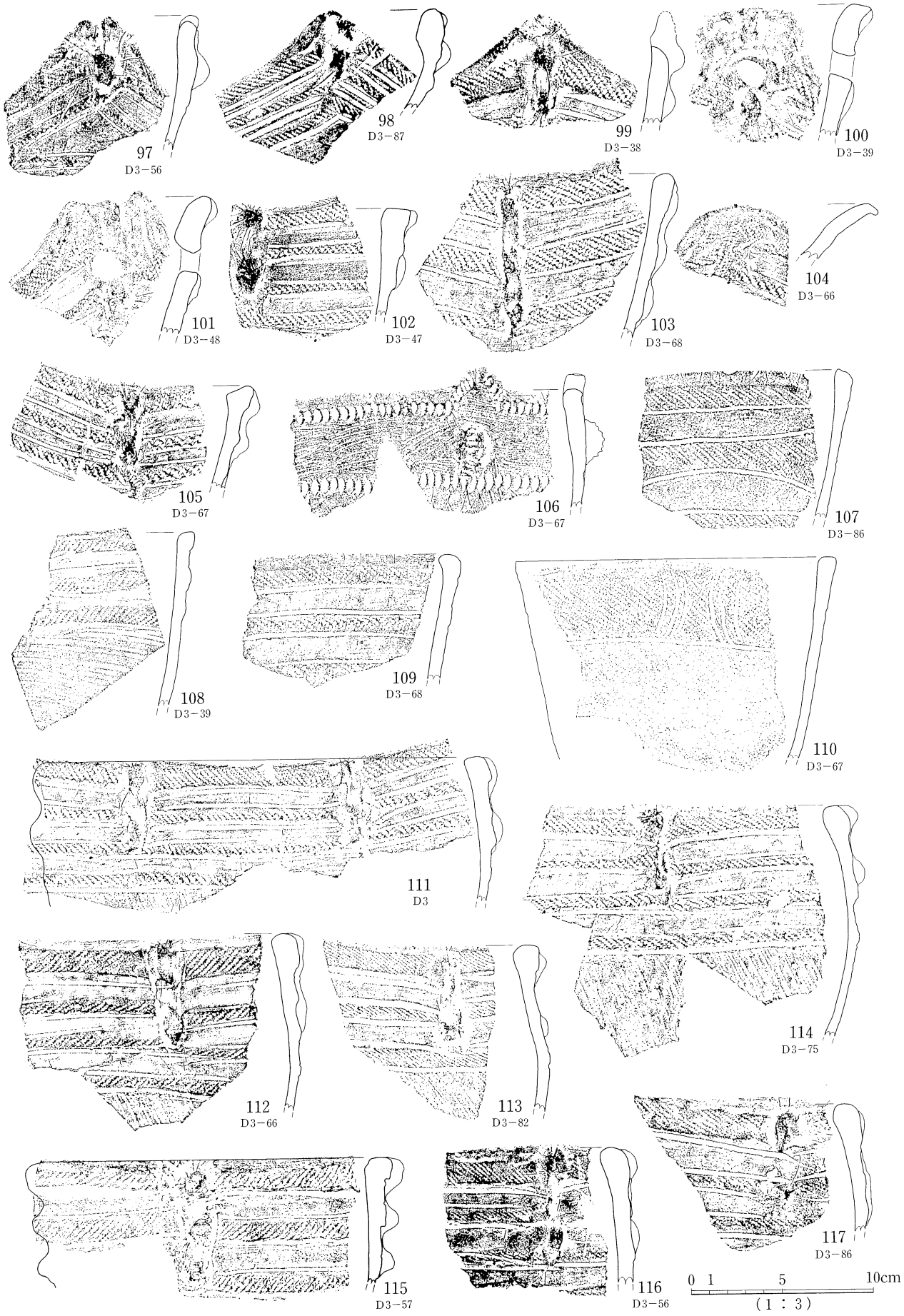
第593図　包含層出土土器−D 3 区−(3)



第594図　包含層出土土器-D 3 区-(4)



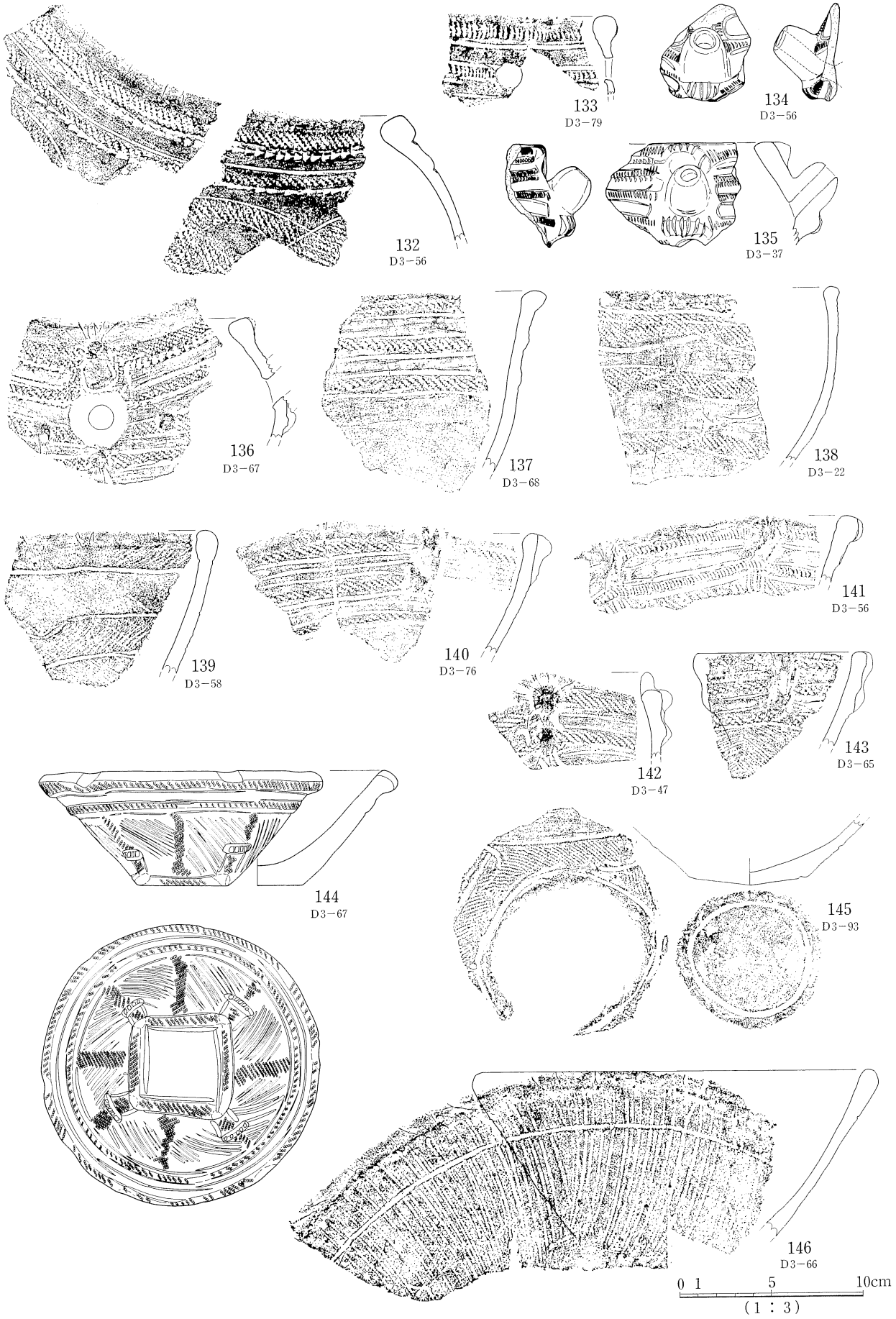
第595図　包含層出土土器-D 3 区-(5)



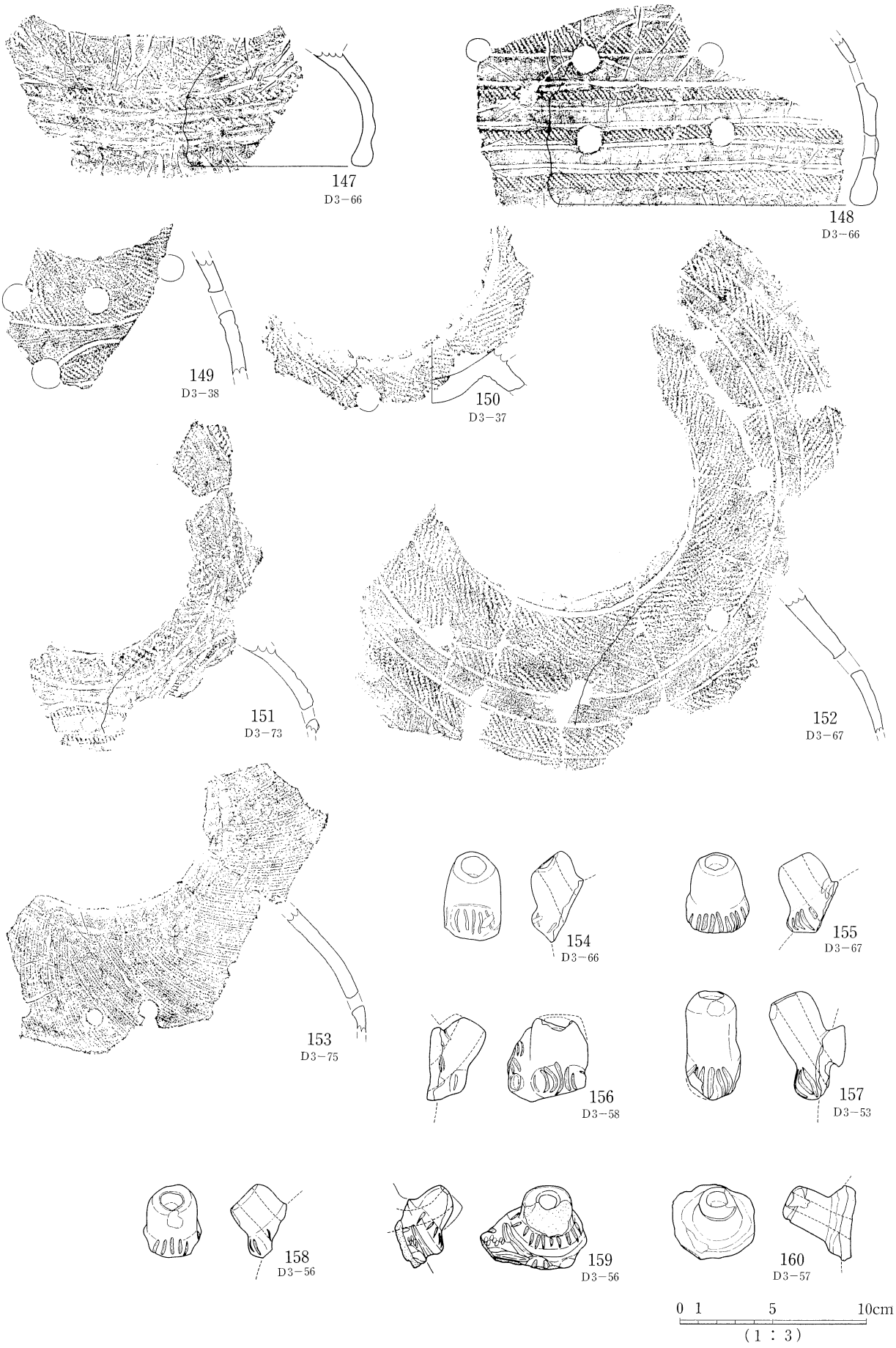
第596図　包含層出土土器-D 3 区-(6)



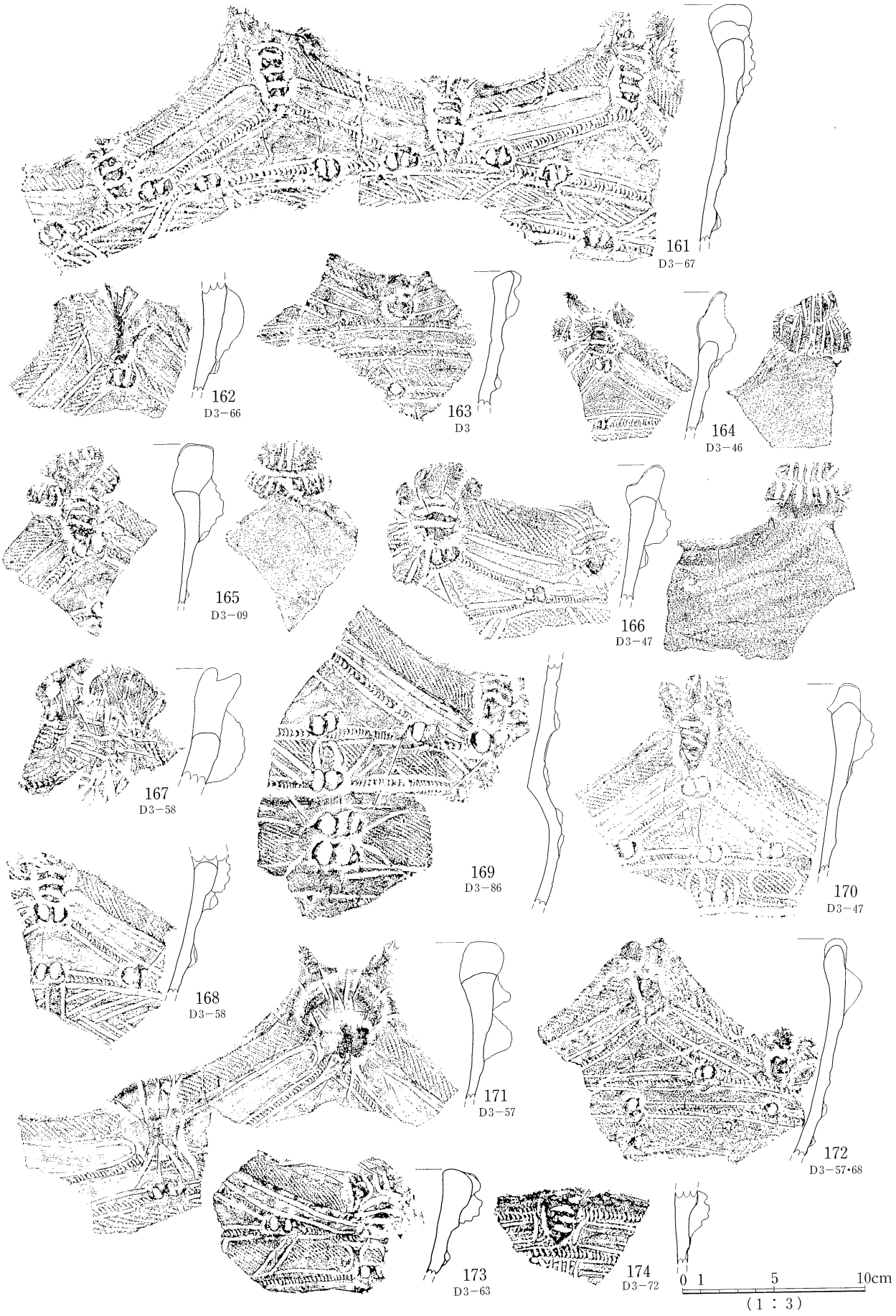
第597図　包含層出土土器-D 3 区-(7)



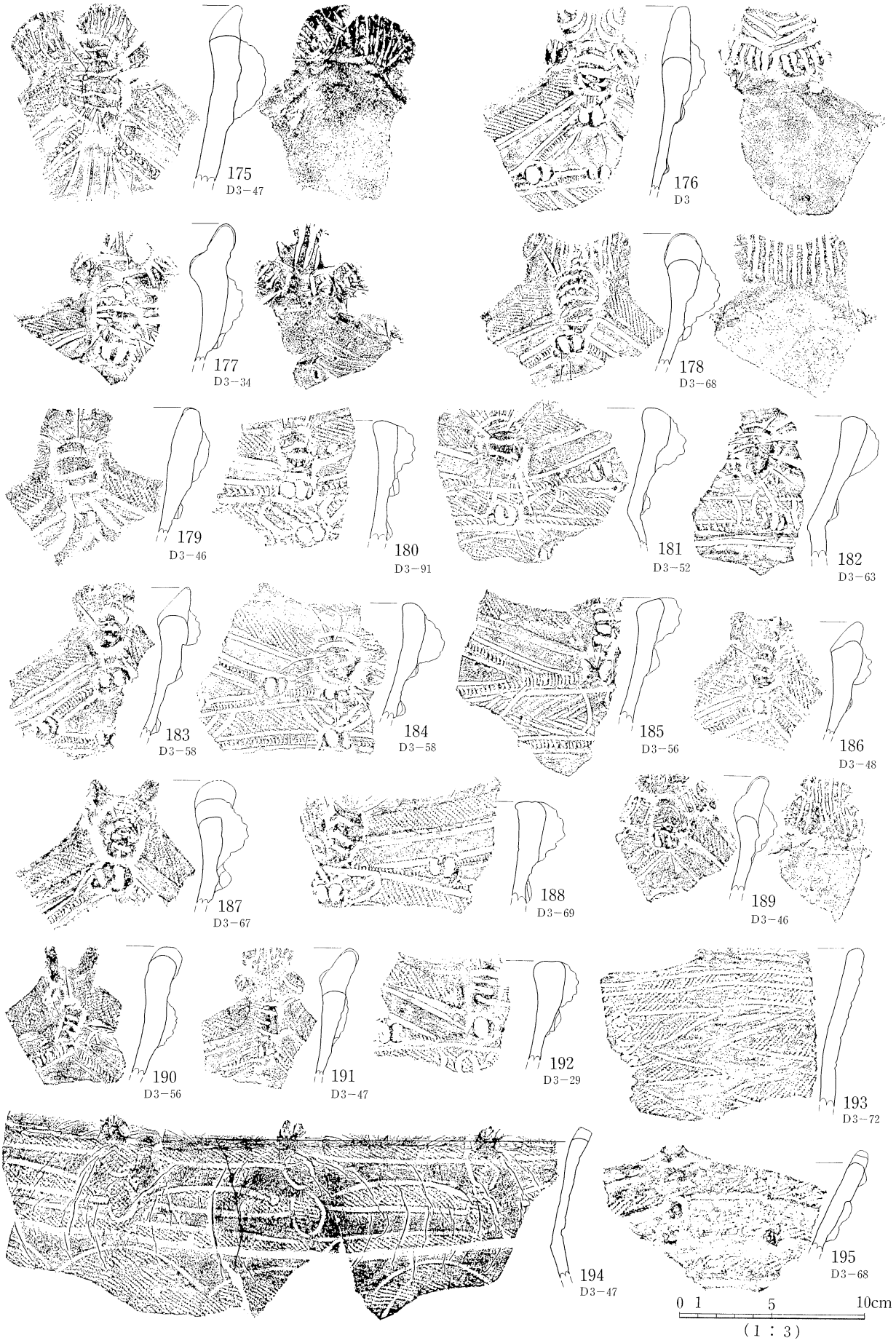
第598図　包含層出土土器-D 3 区-(8)



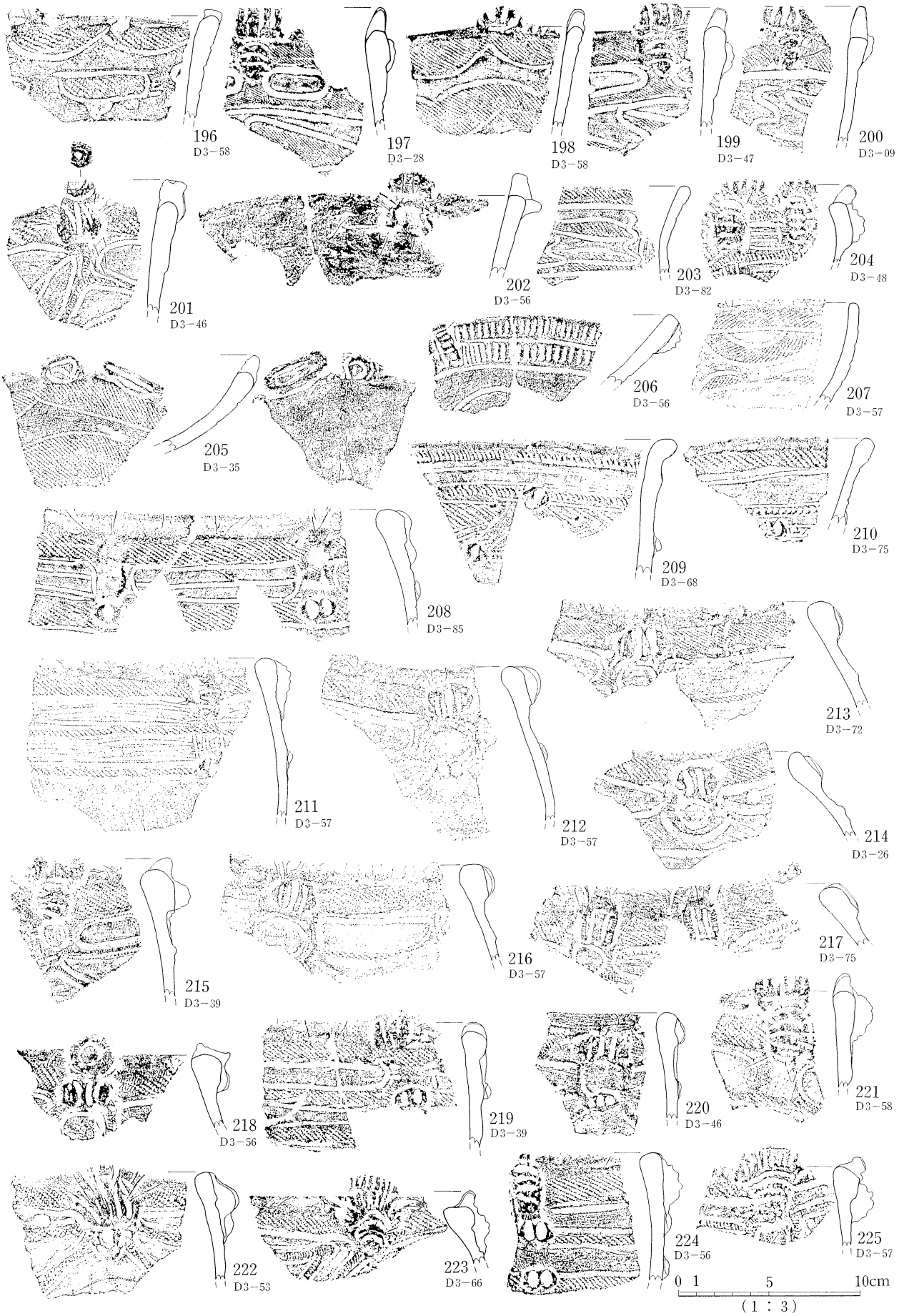
第599図　包含層出土土器-D 3 区-(9)



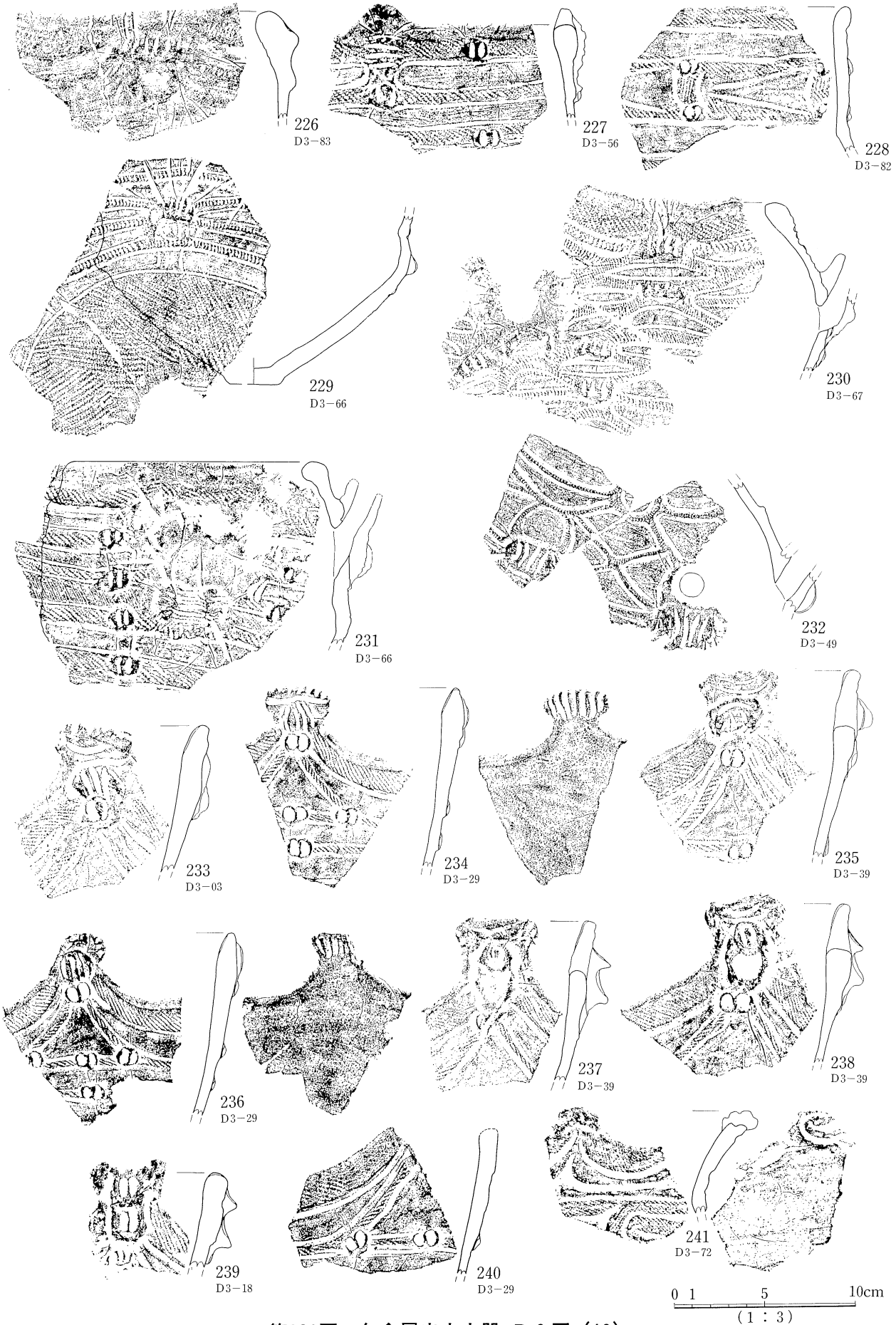
第600図　包含層出土土器−D 3 区−(10)



第601図　包含層出土土器-D 3 区-(11)



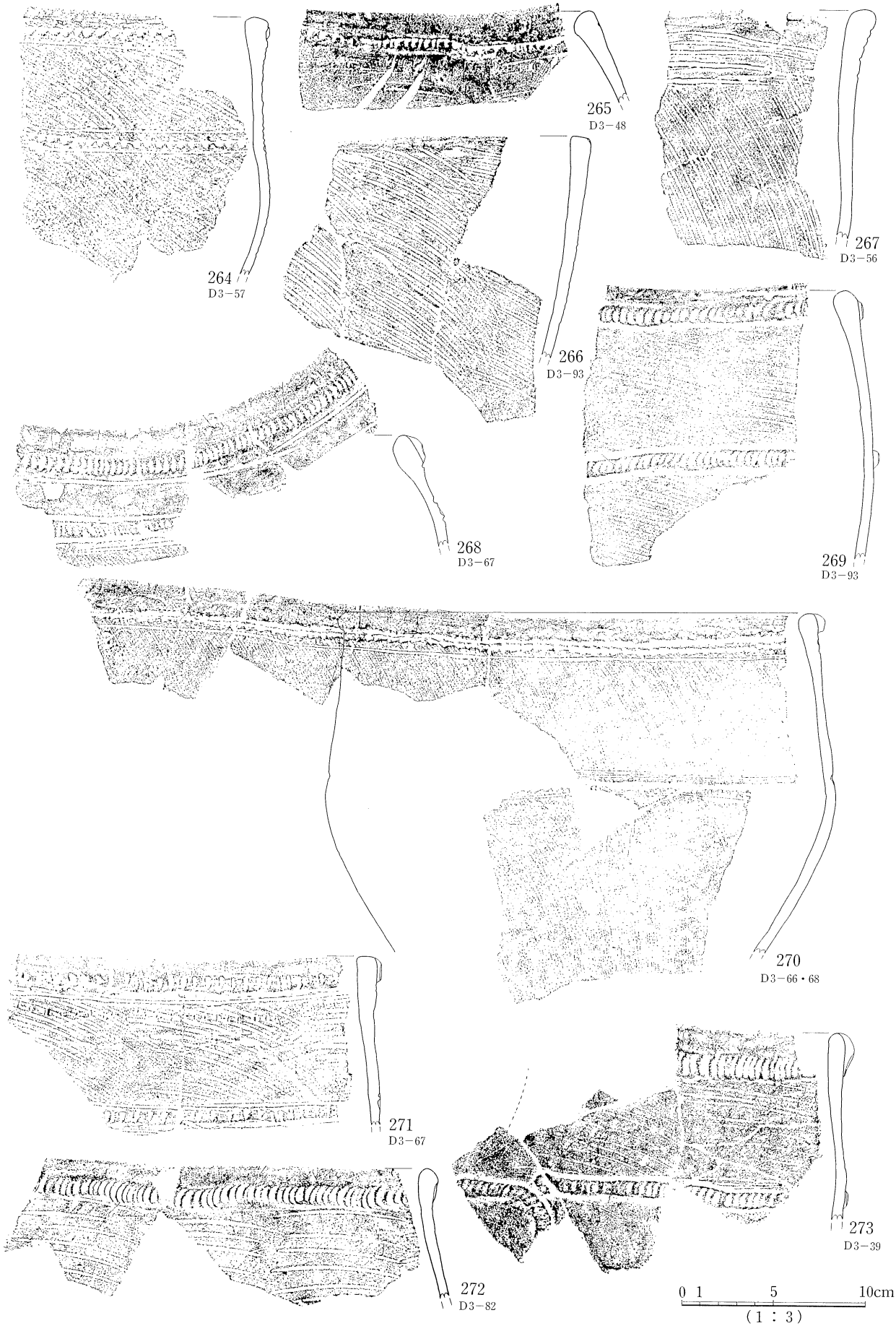
第602図　包含層出土土器-D 3 区-(12)



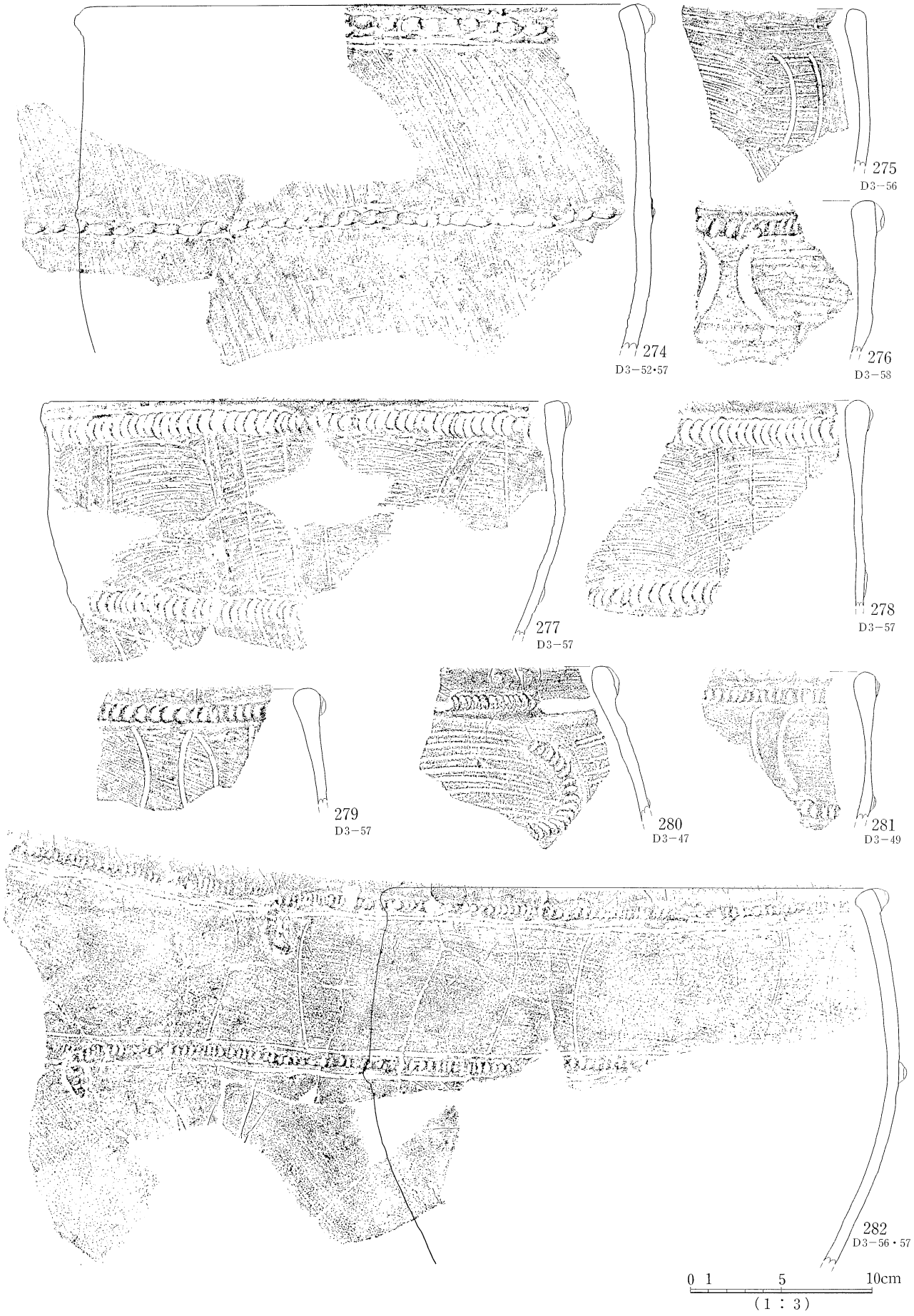
第603図　包含層出土土器-D 3 区-(13)



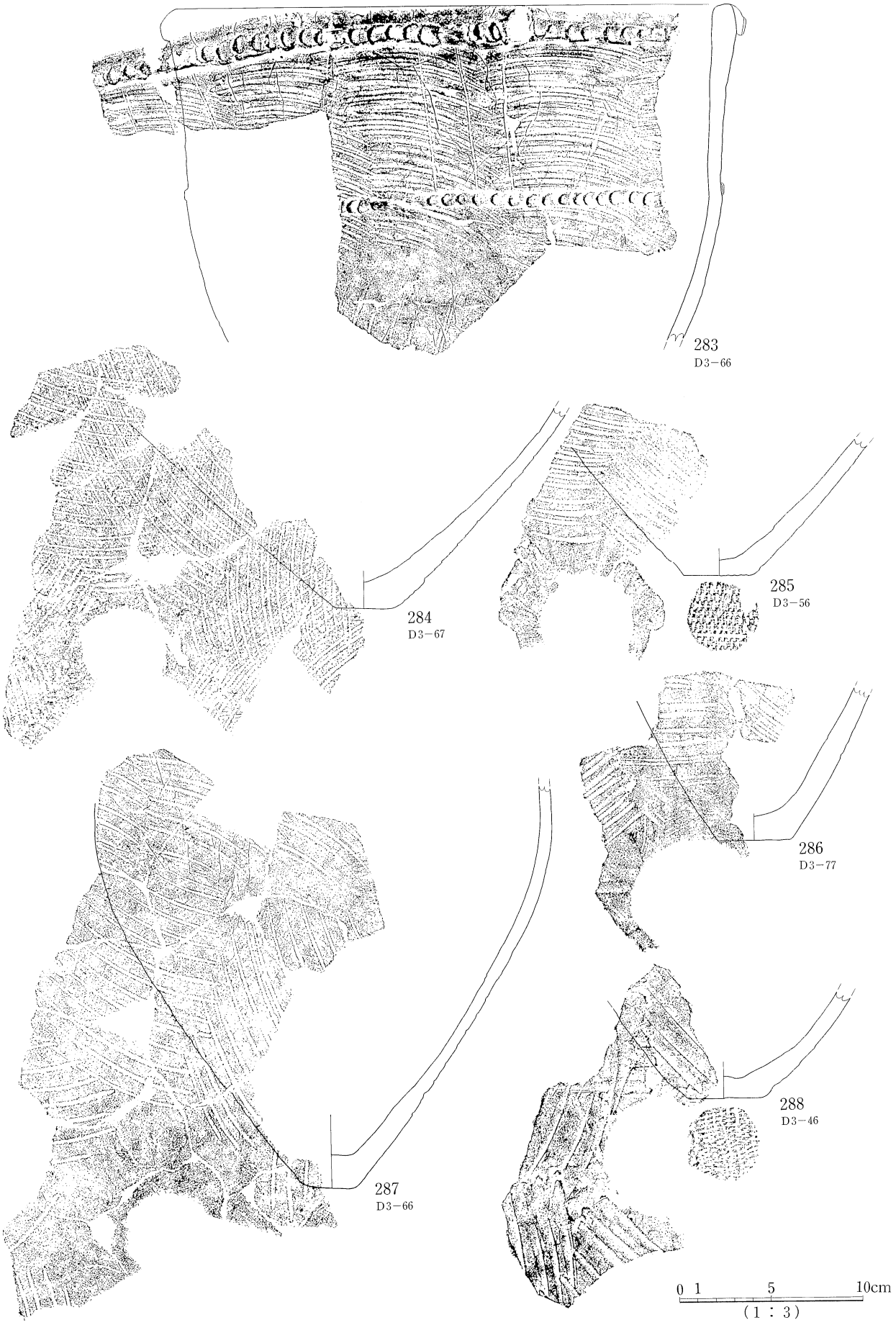
第604図　包含層出土土器-D 3 区-(14)



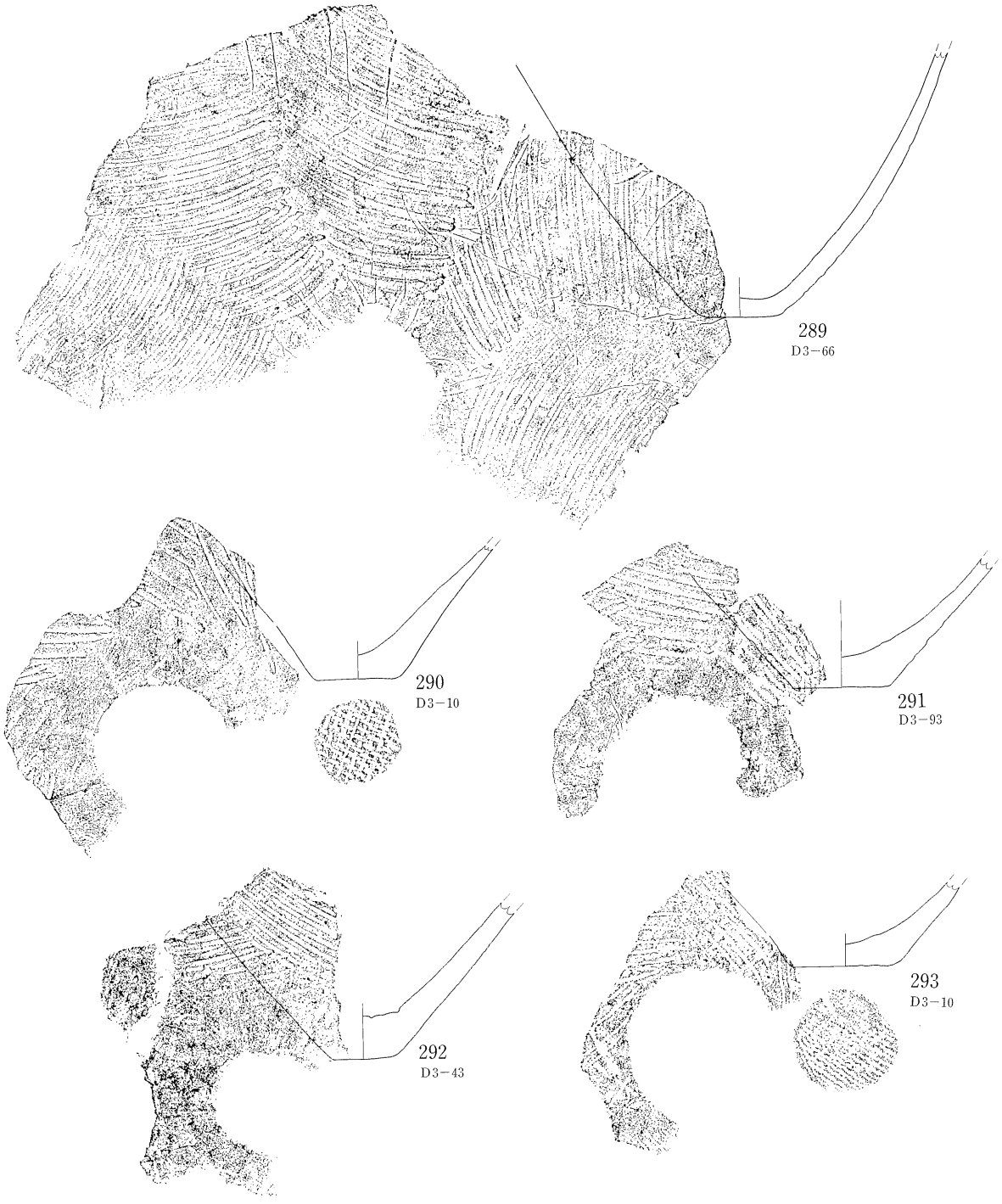
第605図　包含層出土土器−D 3 区−(15)



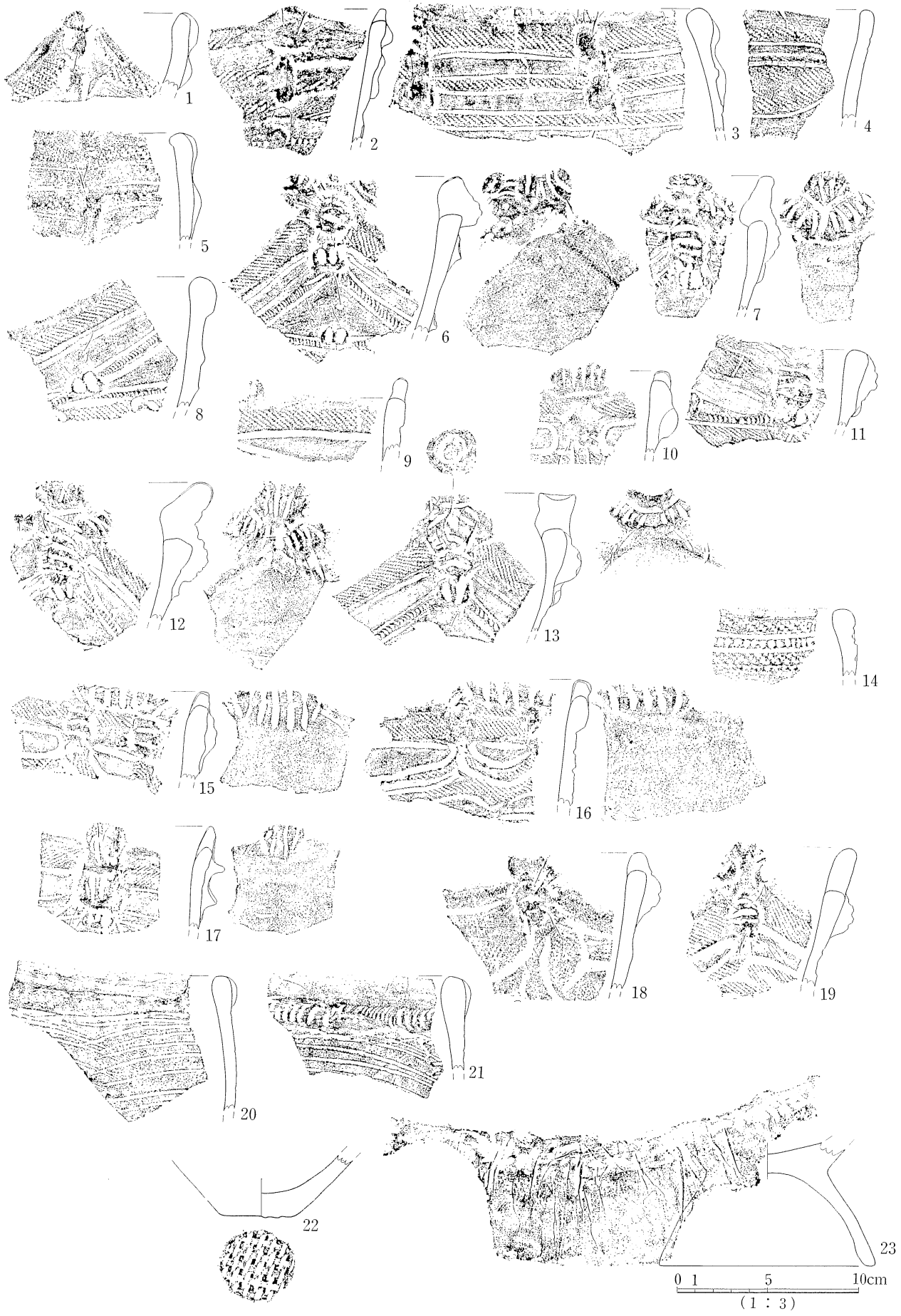
第606図　包含層出土土器-D 3 区-(16)



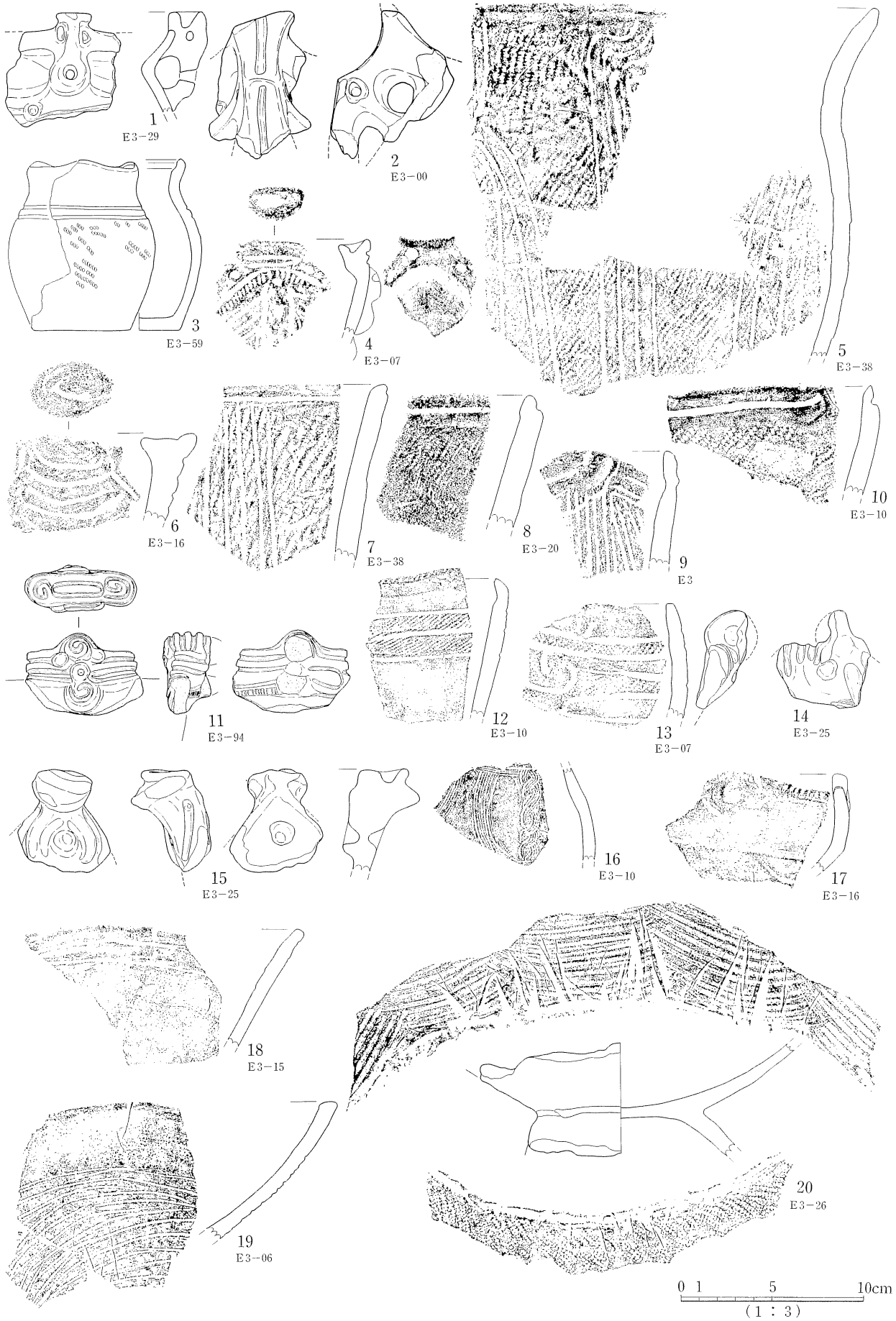
第607図　包含層出土土器-D 3 区-(17)



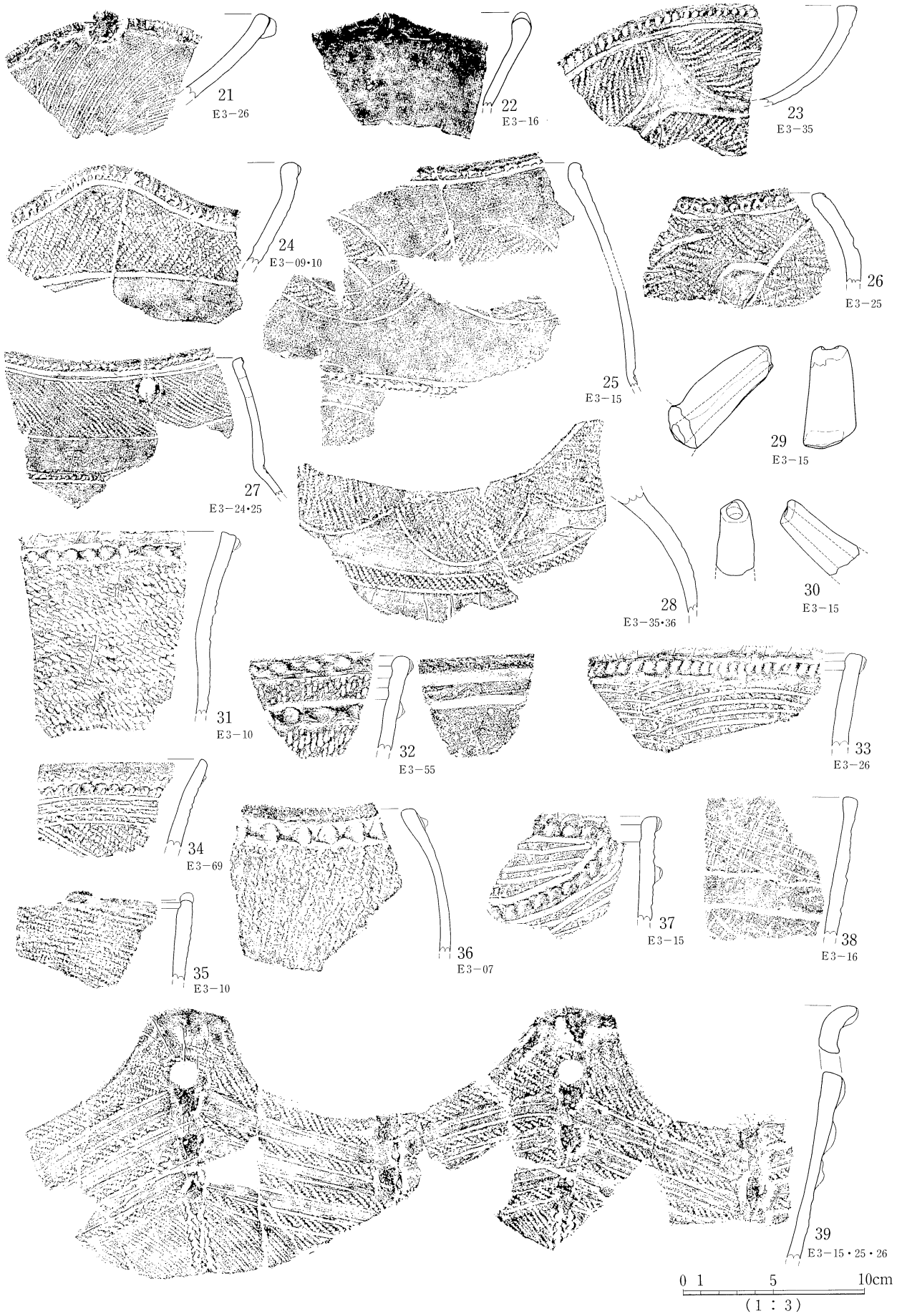
第608図　包含層出土土器−D 3 区−(18)



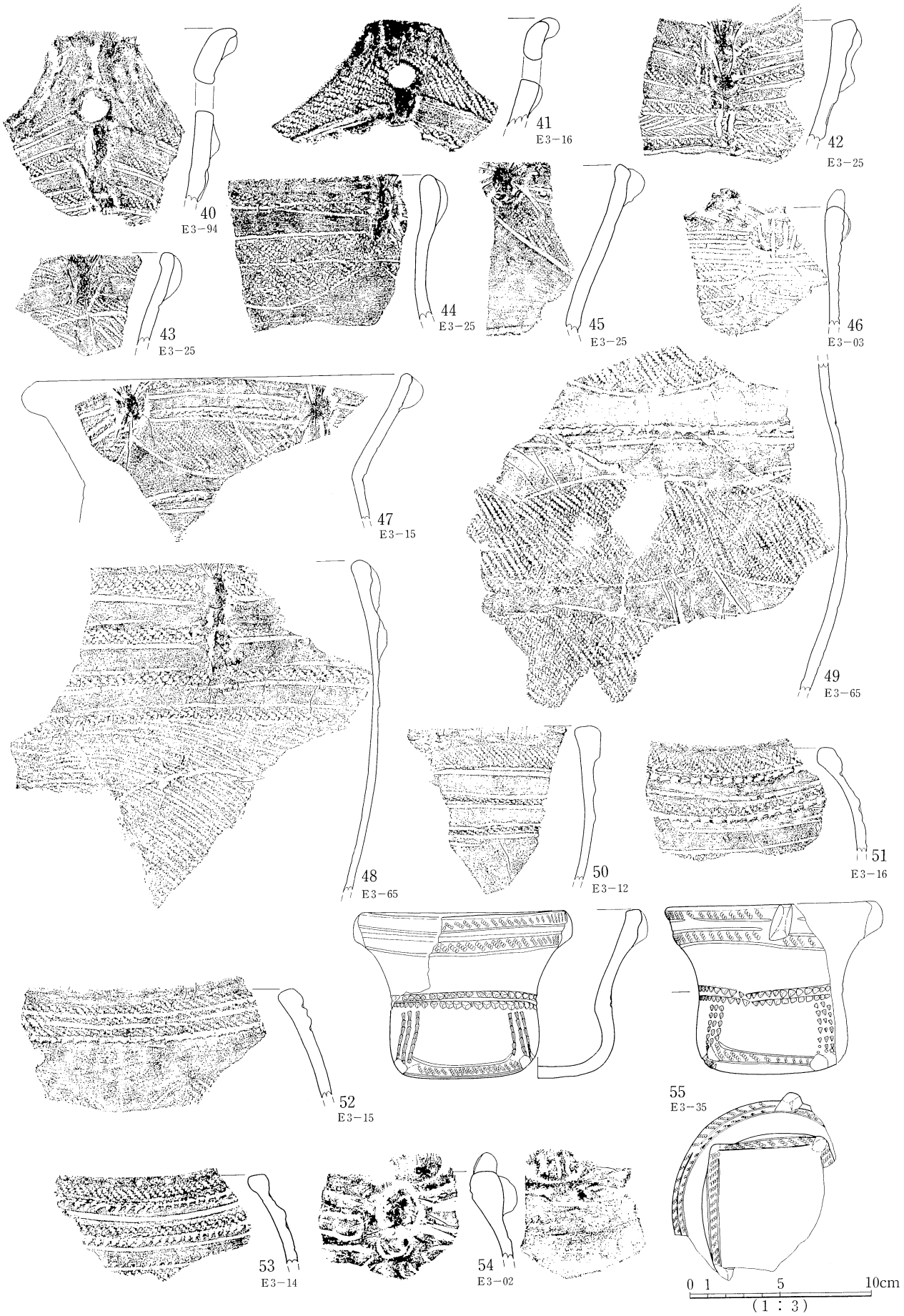
第609図　包含層出土土器-C 3 ・ D3区-



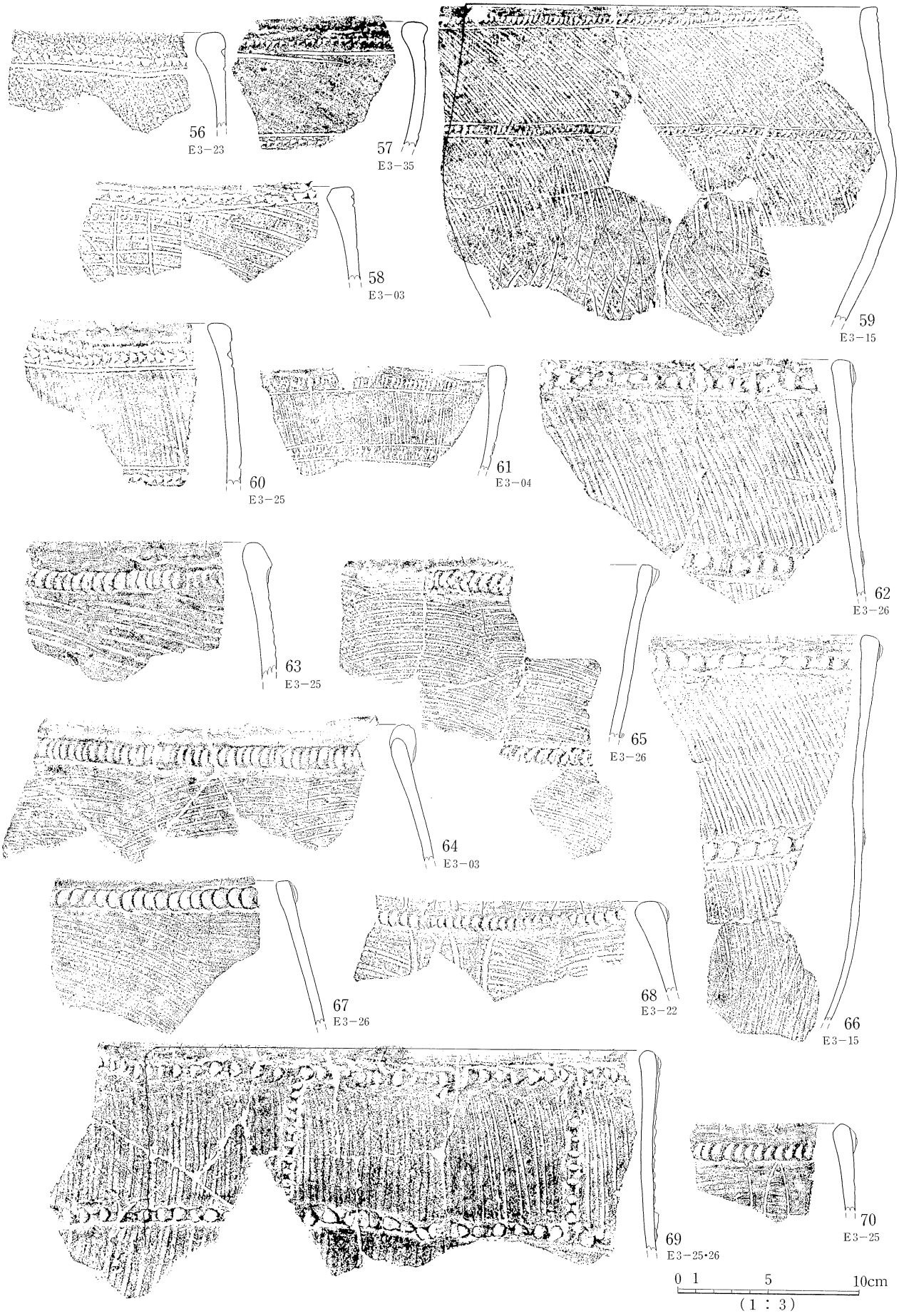
第610図　包含層出土土器−Ｅ３・Ｆ3区−(1)



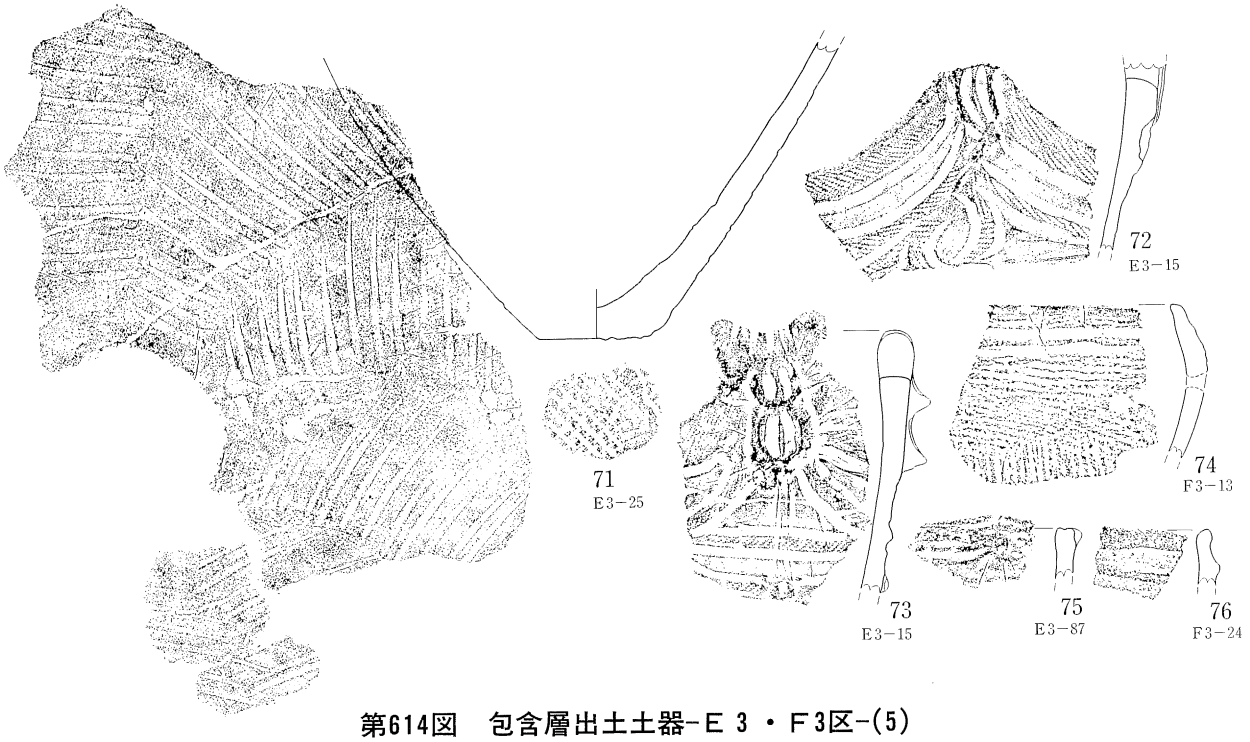
第611図　包含層出土土器-Ｅ３・Ｆ3区-(2)



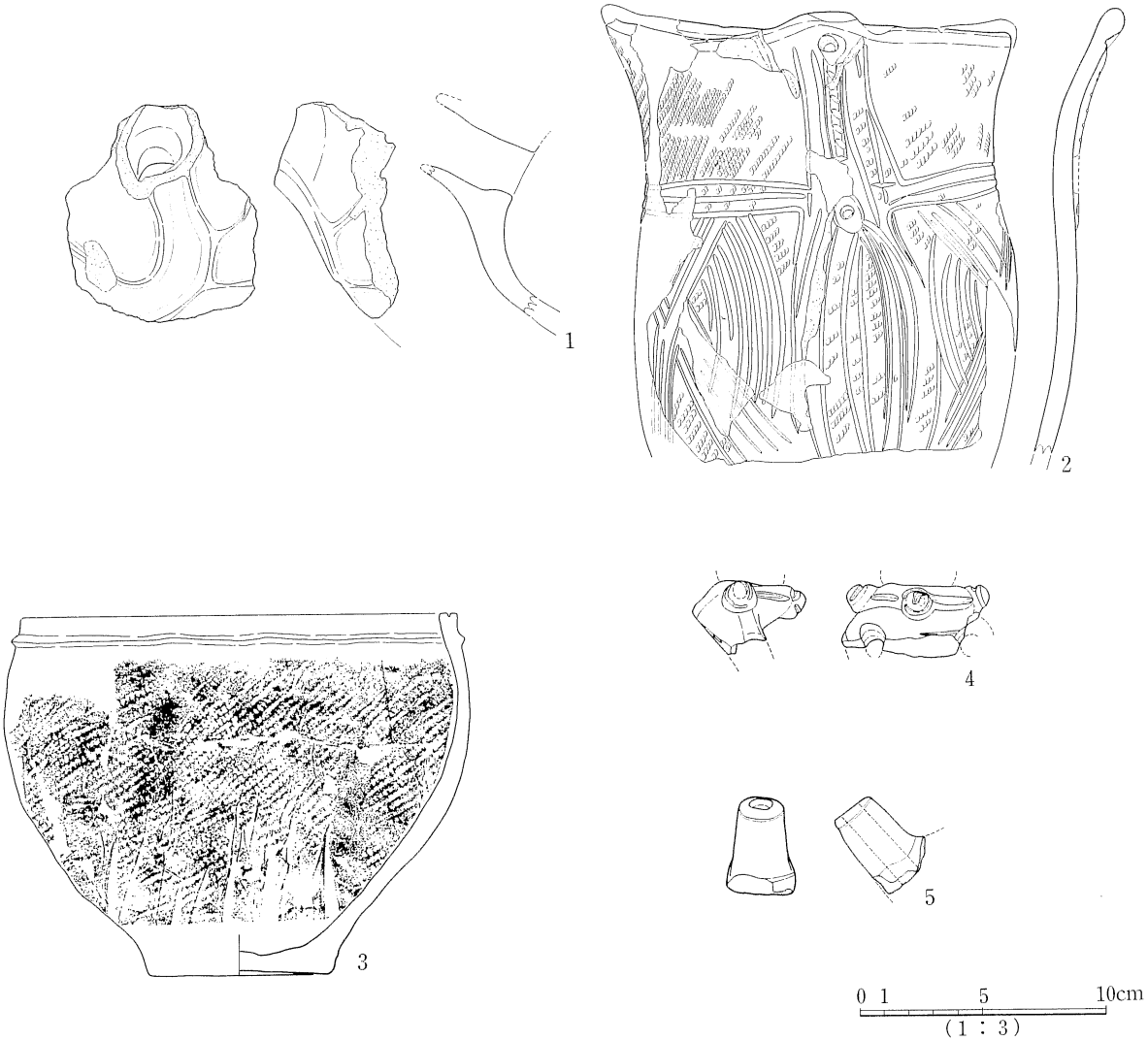
第612図　包含層出土土器-Ｅ３・Ｆ3区-(3)



第613図　包含層出土土器−Ｅ３・Ｆ３区−(4)



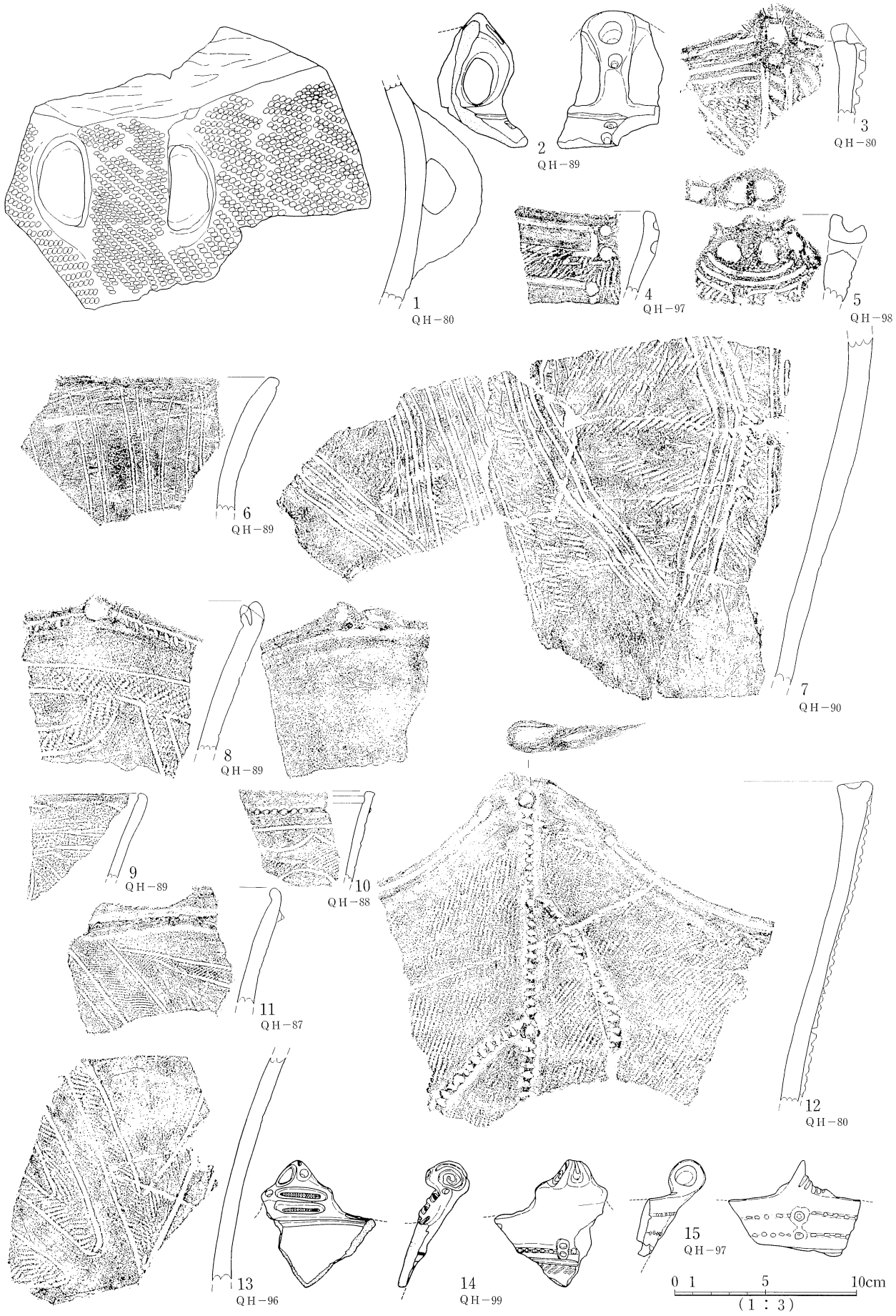
第614図　包含層出土土器-Ｅ３・Ｆ3区-(5)



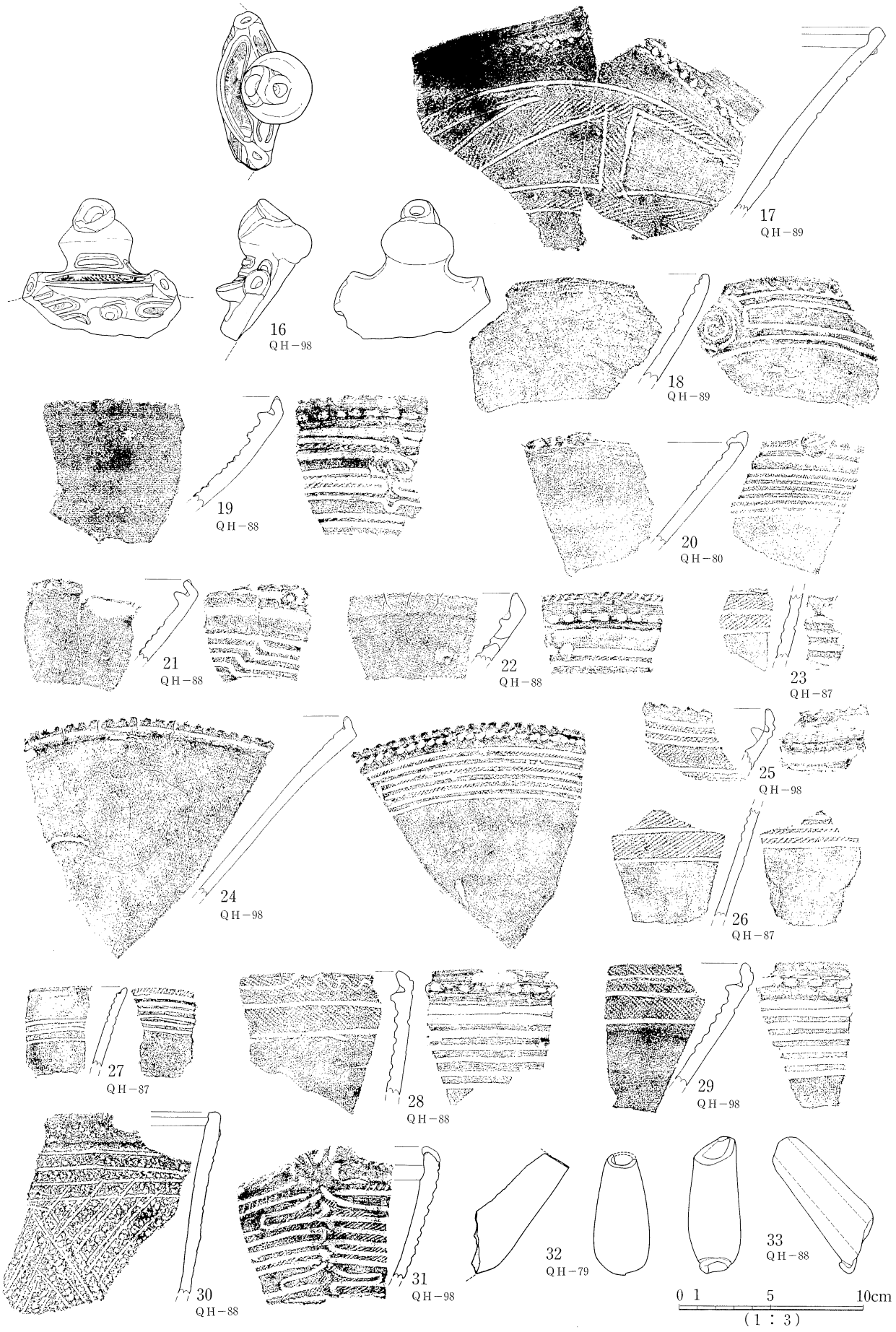
第615図　包含層出土土器-１・２次調査出土地区不明-(1)



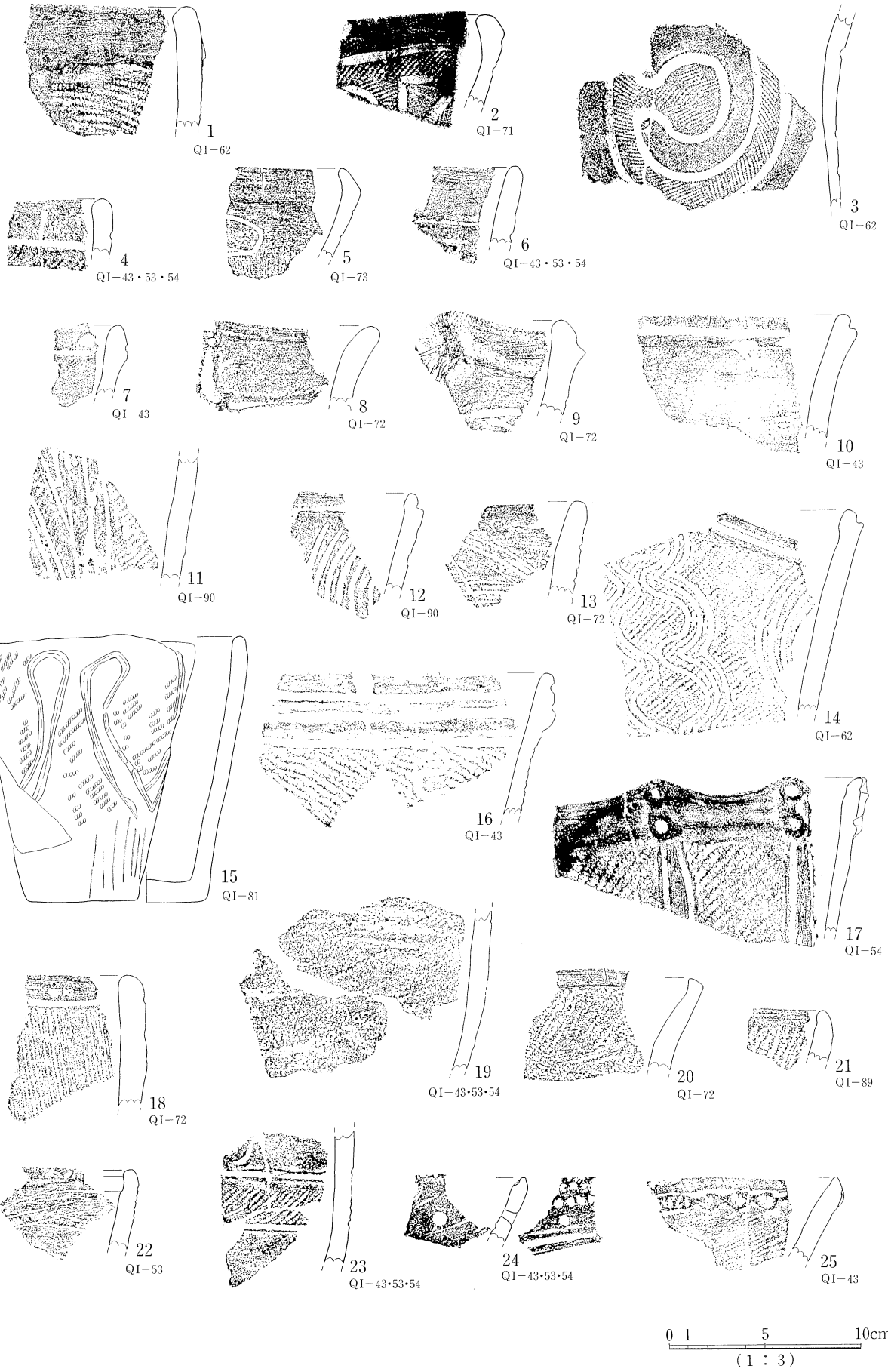
第616図　包含層出土土器-1・2次調査出土地区不明-(2)



第617図　包含層出土土器-ＱＨ区-(1)



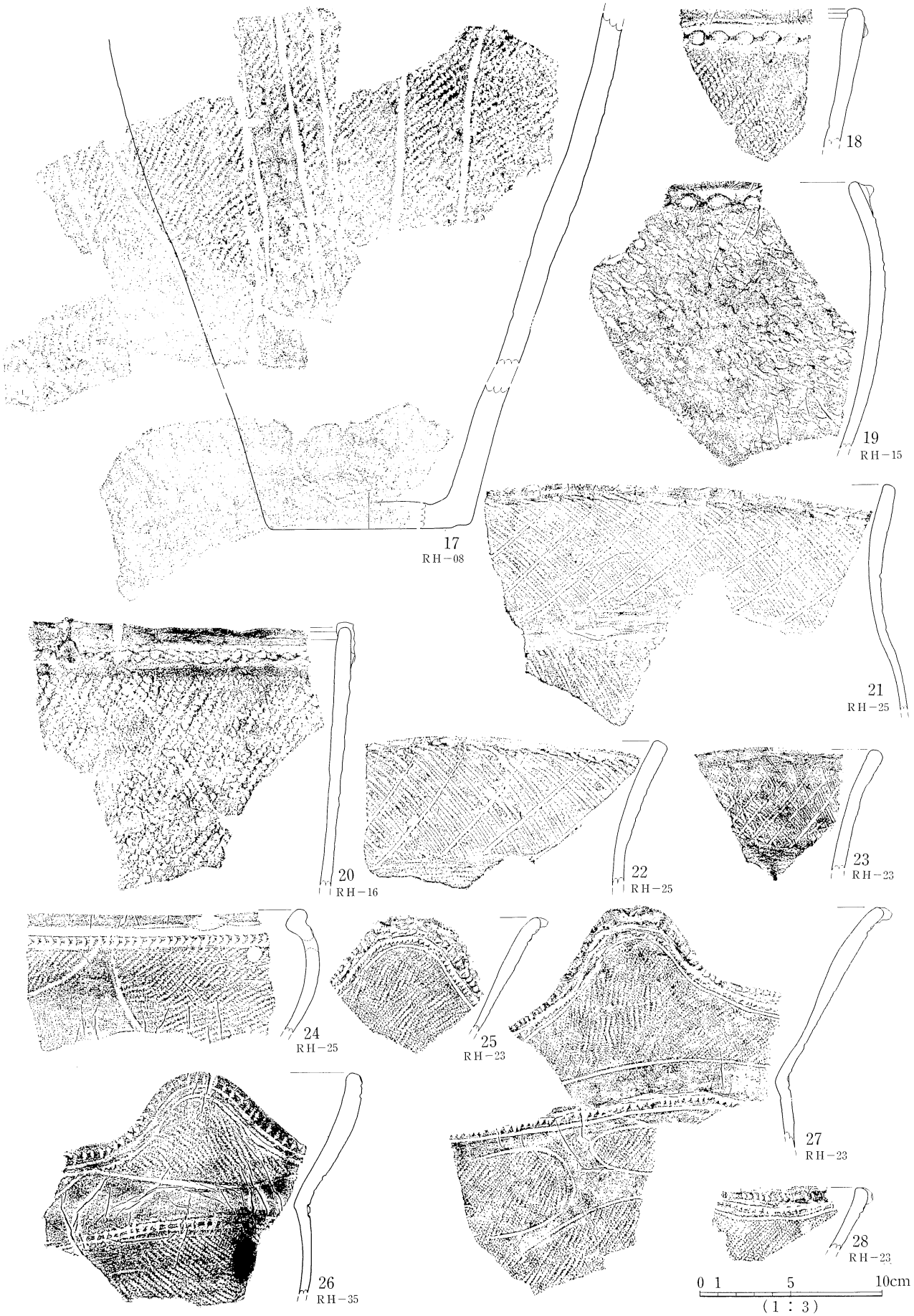
第618図　包含層出土土器-ＱＨ区-(2)



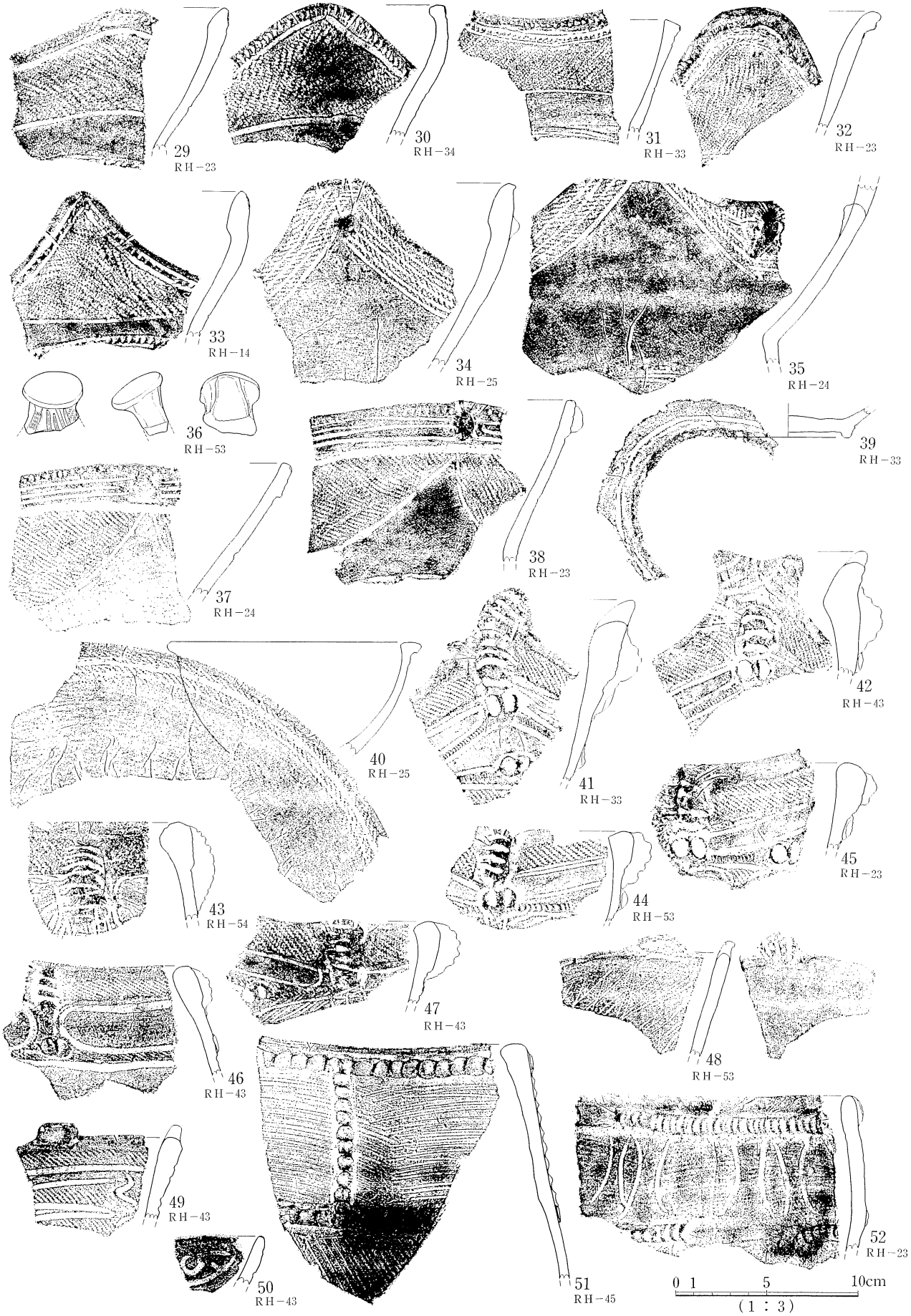
第619図　包含層出土土器-ＱＩ区-



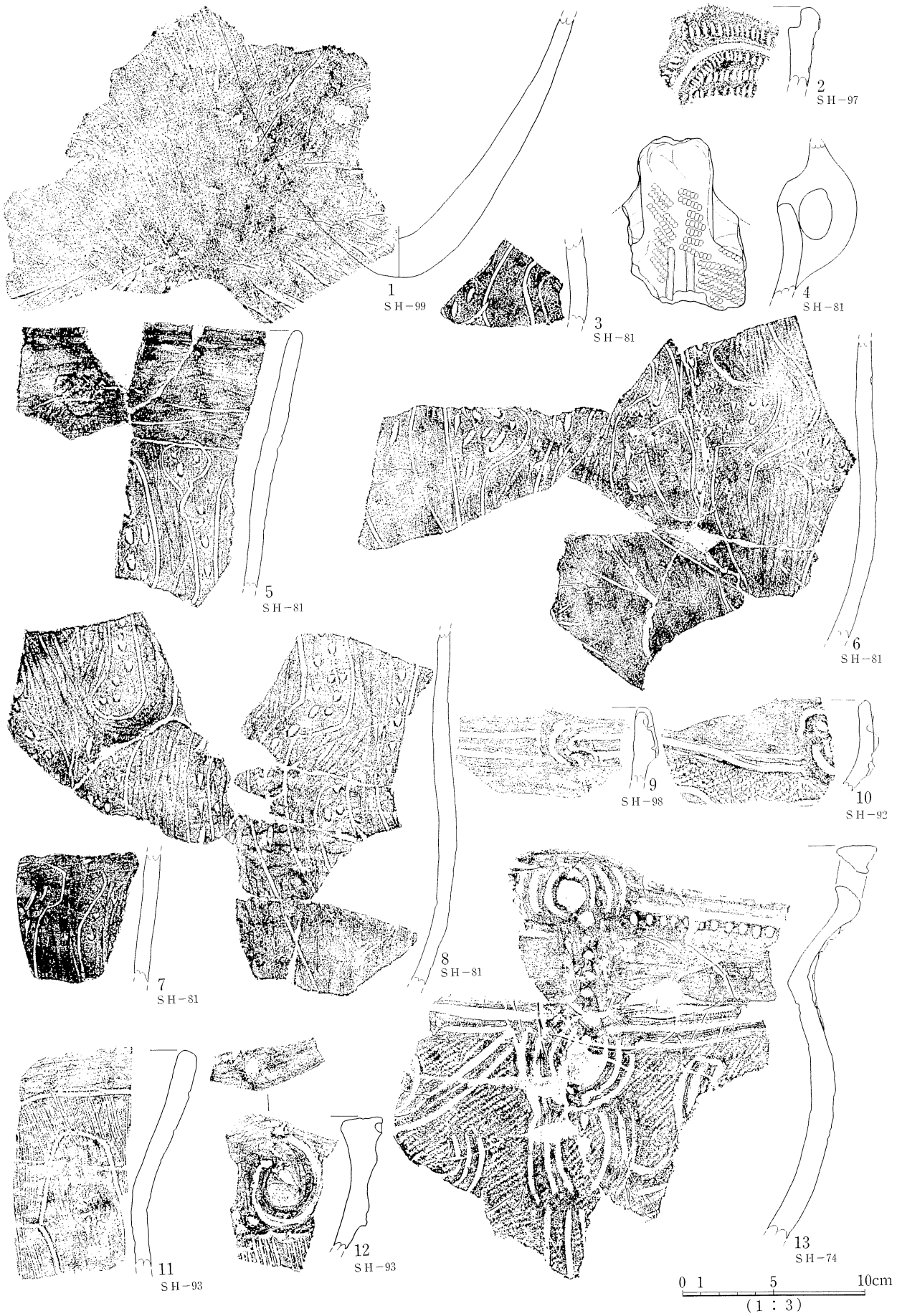
第620図　包含層出土土器-ＲＨ区・４次調査出土地区不明-(1)



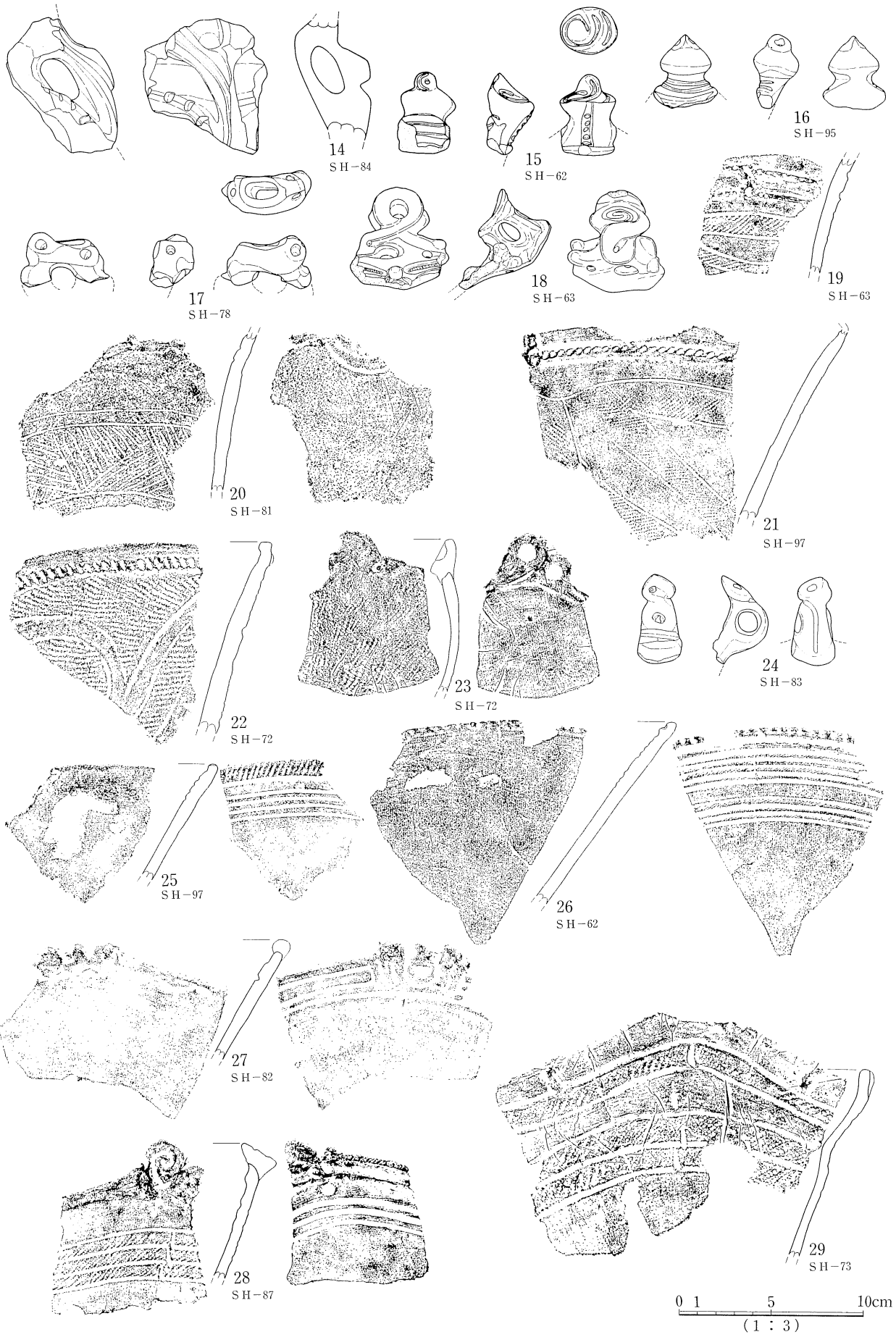
第621図　包含層出土土器-ＲＨ区・４次調査出土地区不明-(2)



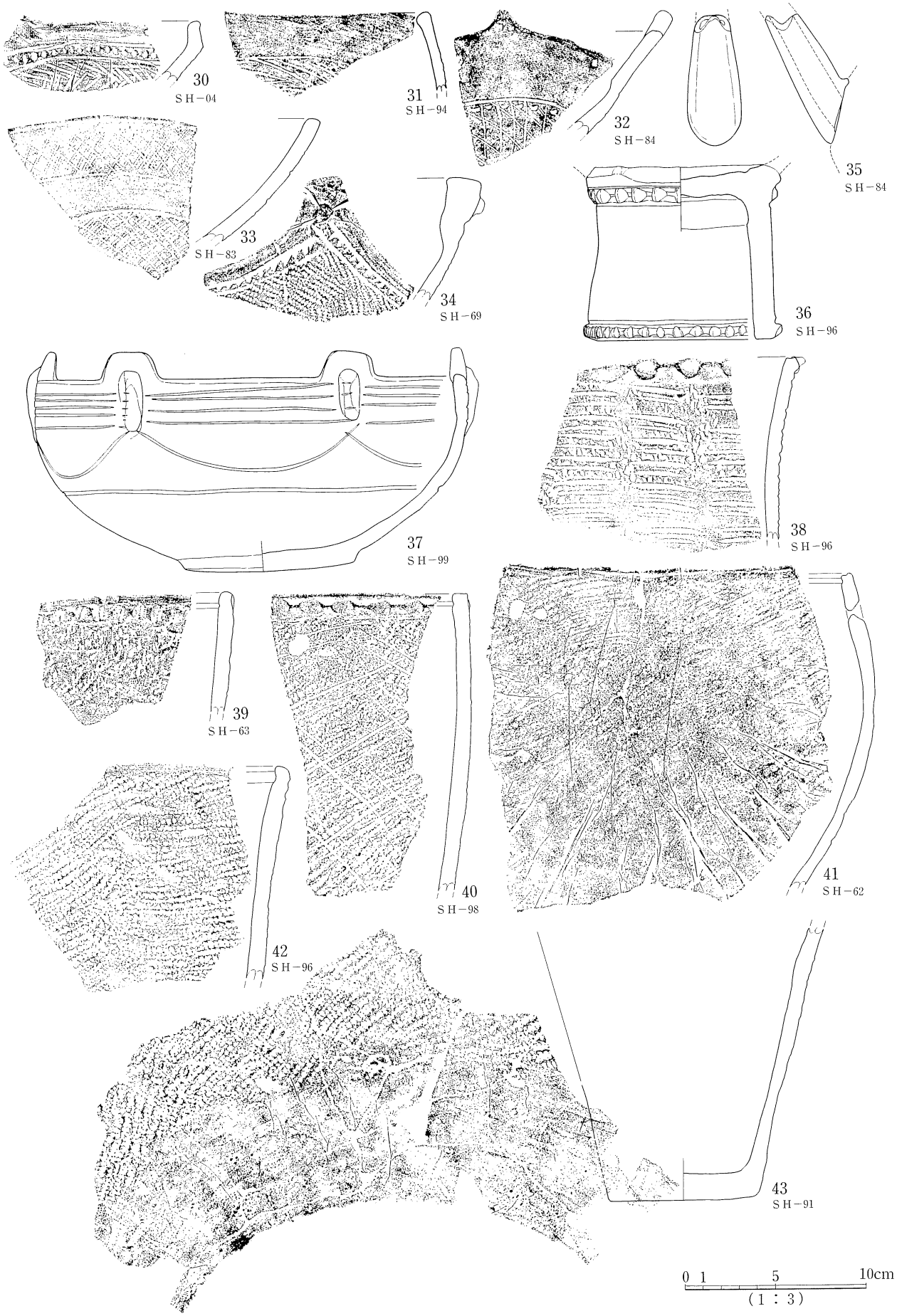
第622図　包含層出土土器-ＲＨ区-(3)



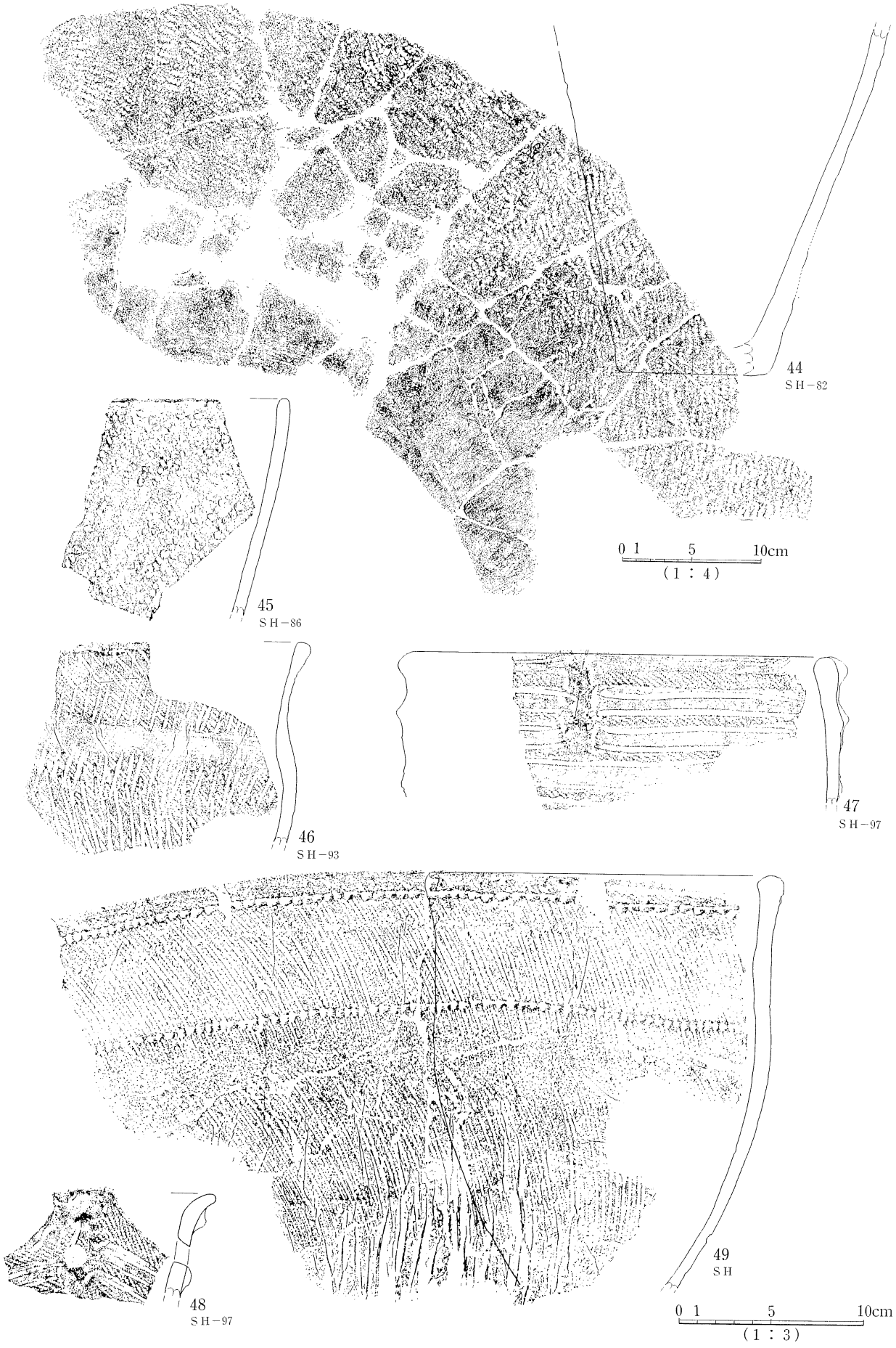
第623図　包含層出土土器-ＳＨ区-(1)



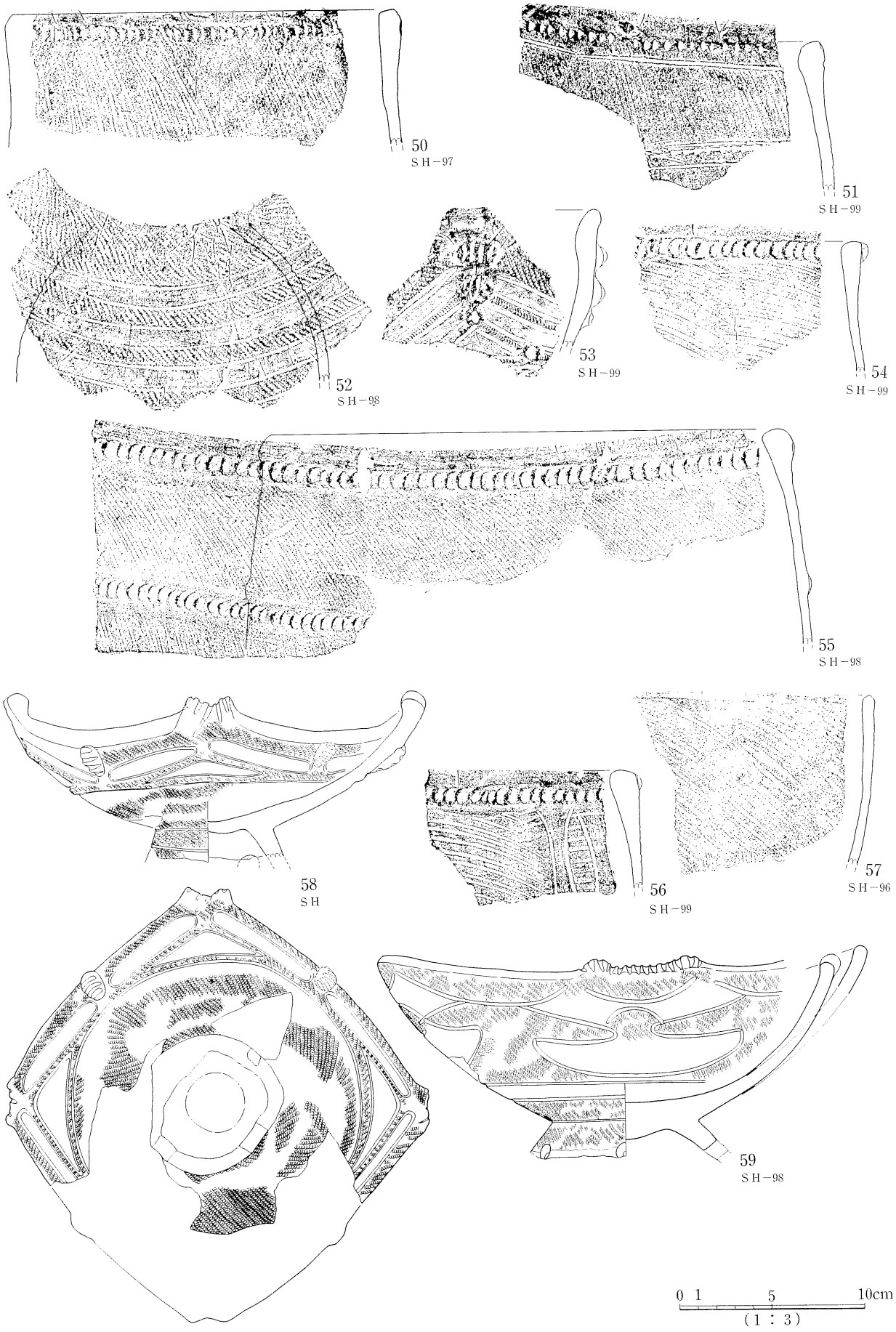
第624図　包含層出土土器-ＳＨ区-(2)



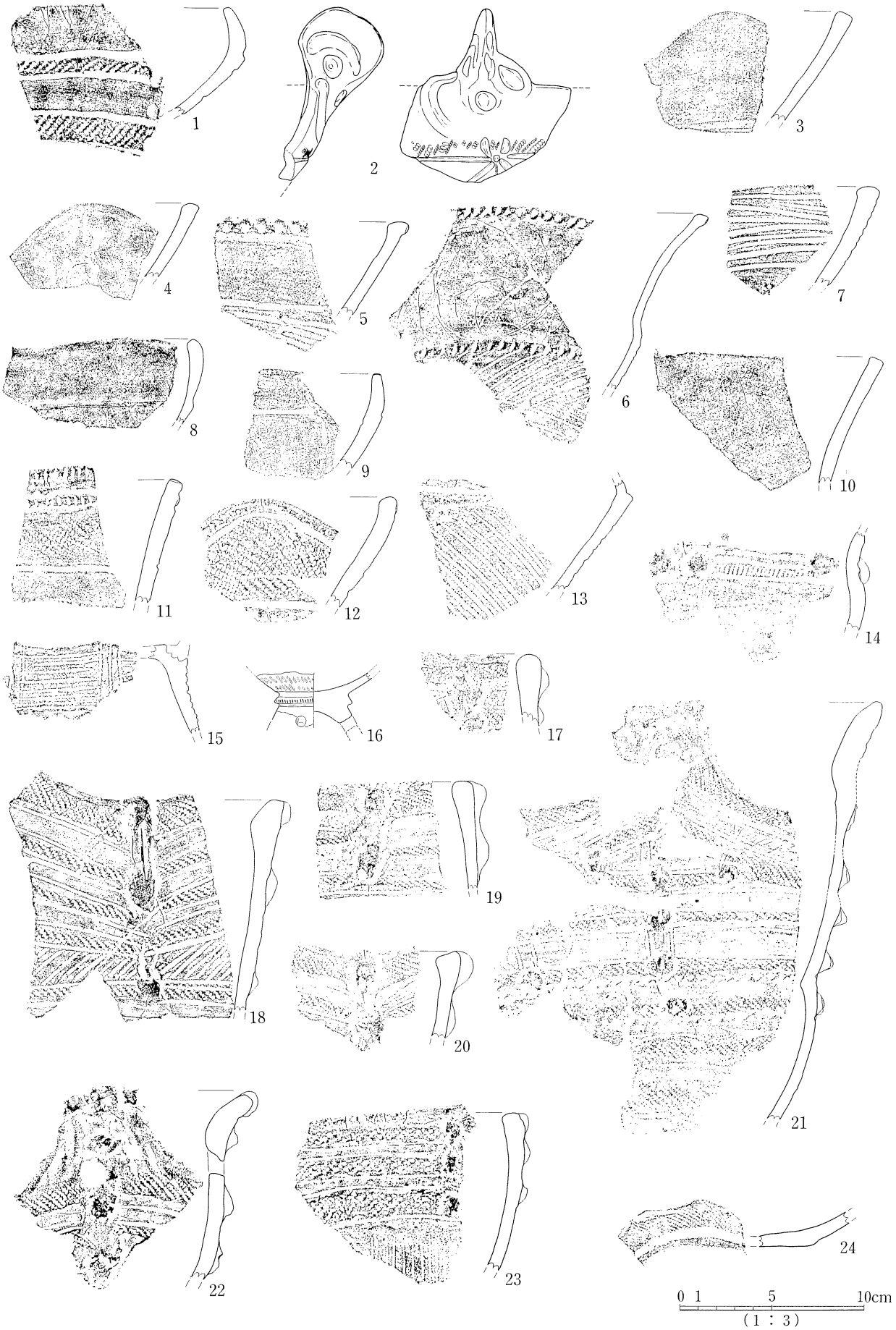
第625図　包含層出土土器−ＳＨ区−(3)



第626図　包含層出土土器－ＳＨ区－(4)



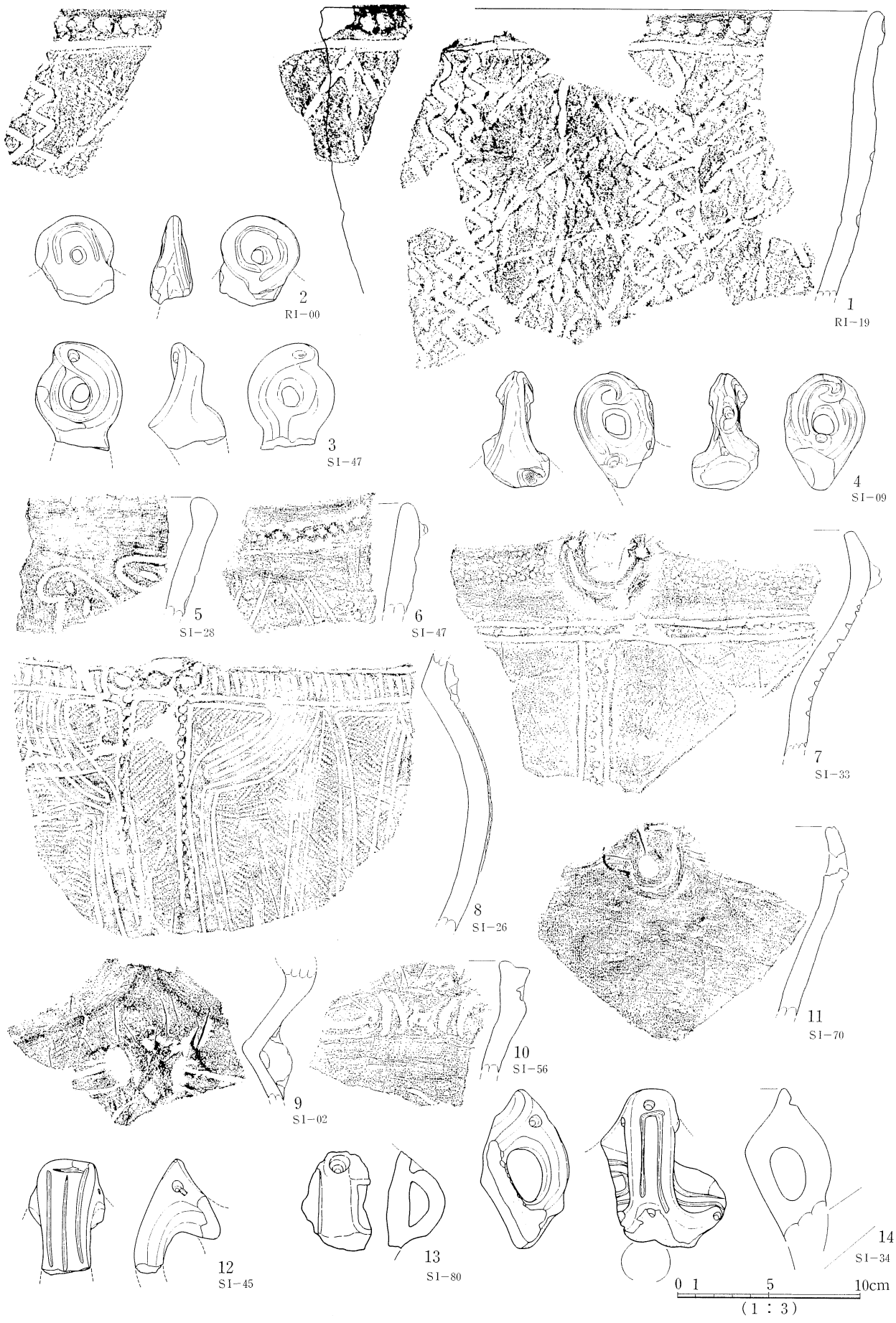
第627図　包含層出土土器-ＳＨ区-(5)



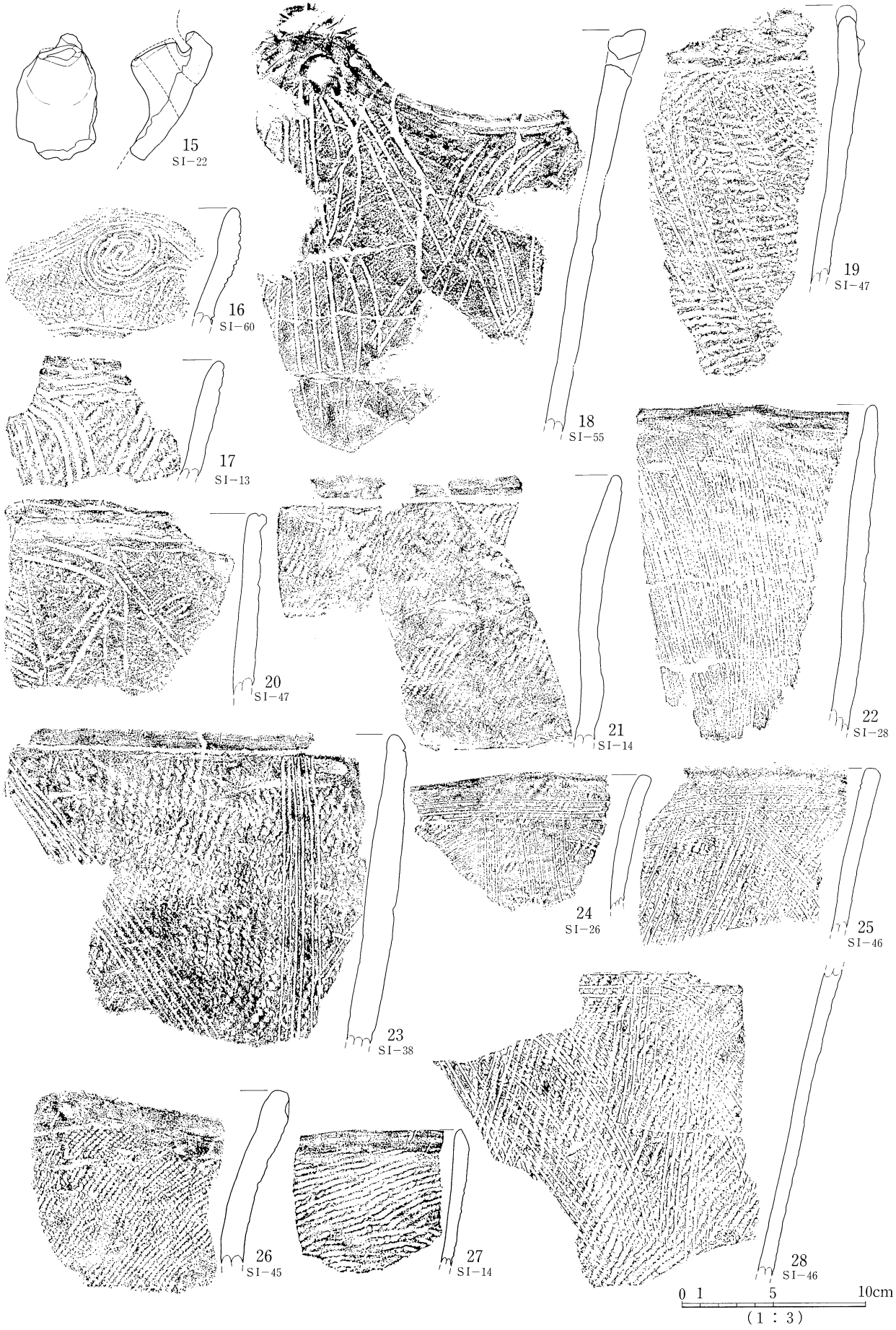
第628図　包含層出土土器-上総国分尼寺調査分　ＳＨ区-(1)



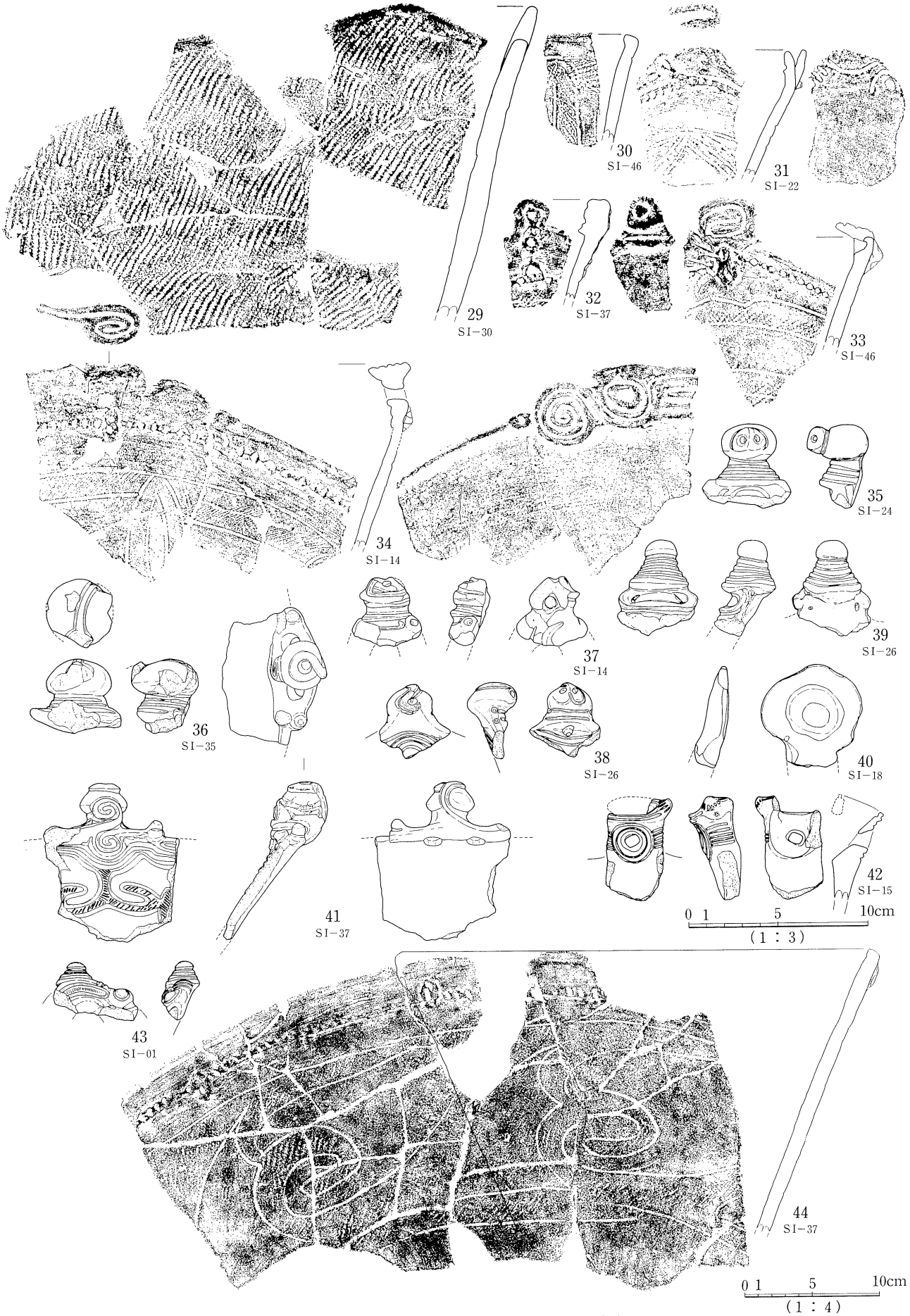
第629図　包含層出土土器-上総国分尼寺調査分　ＳＨ区-(2)



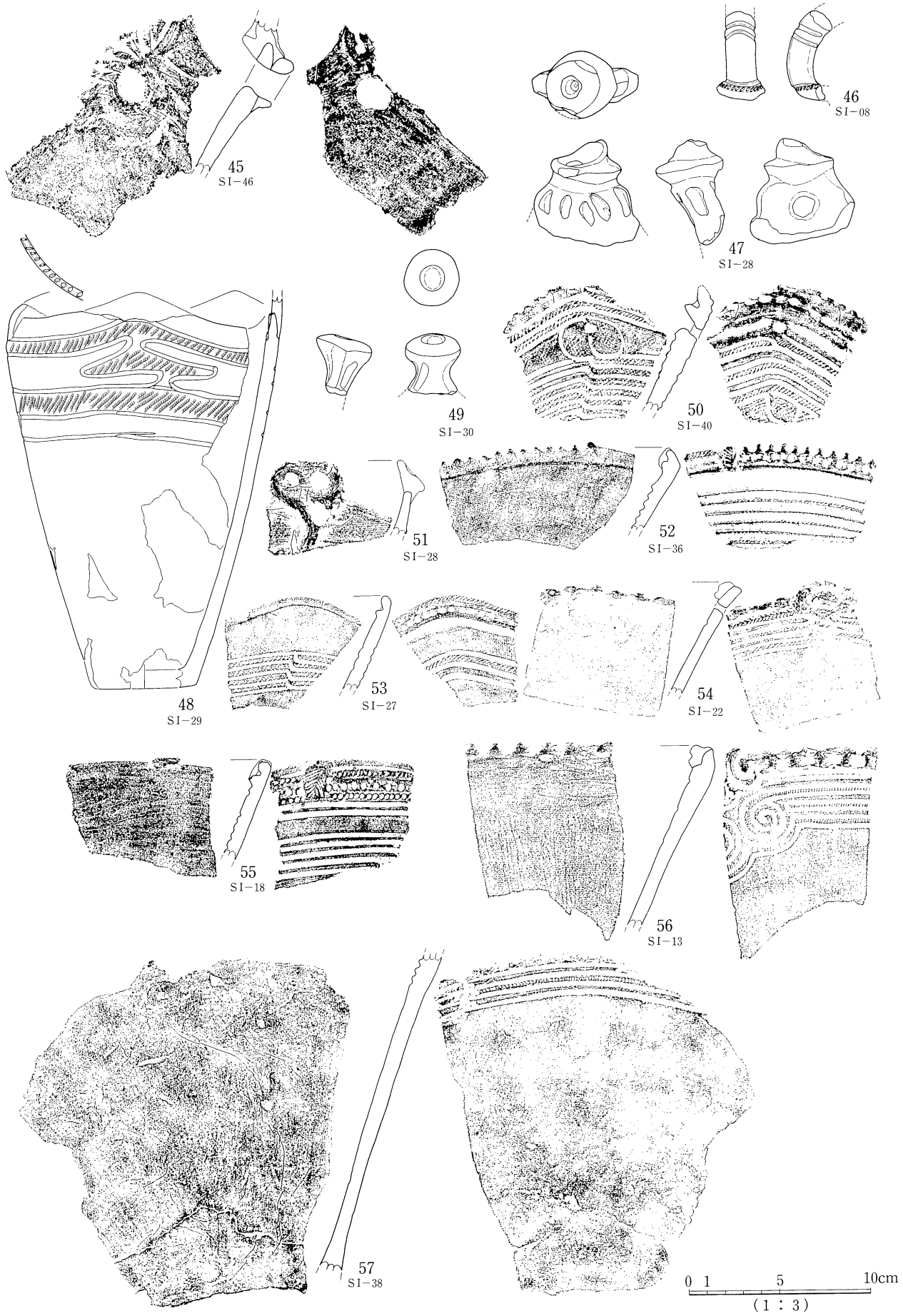
第630図　包含層出土土器-ＲＩ・ＳＩ区-(1)



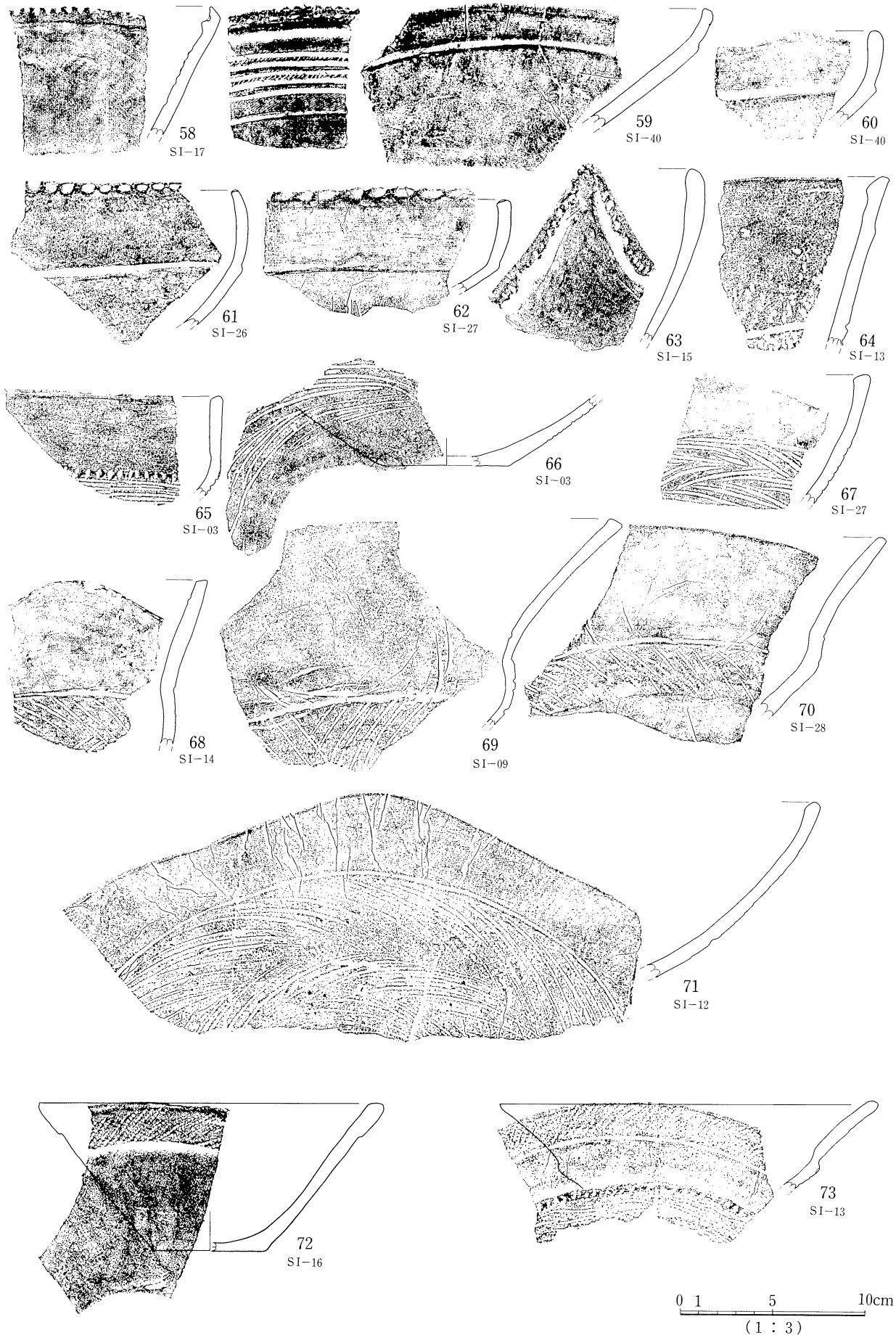
第631図　包含層出土土器−ＳＩ区−(2)



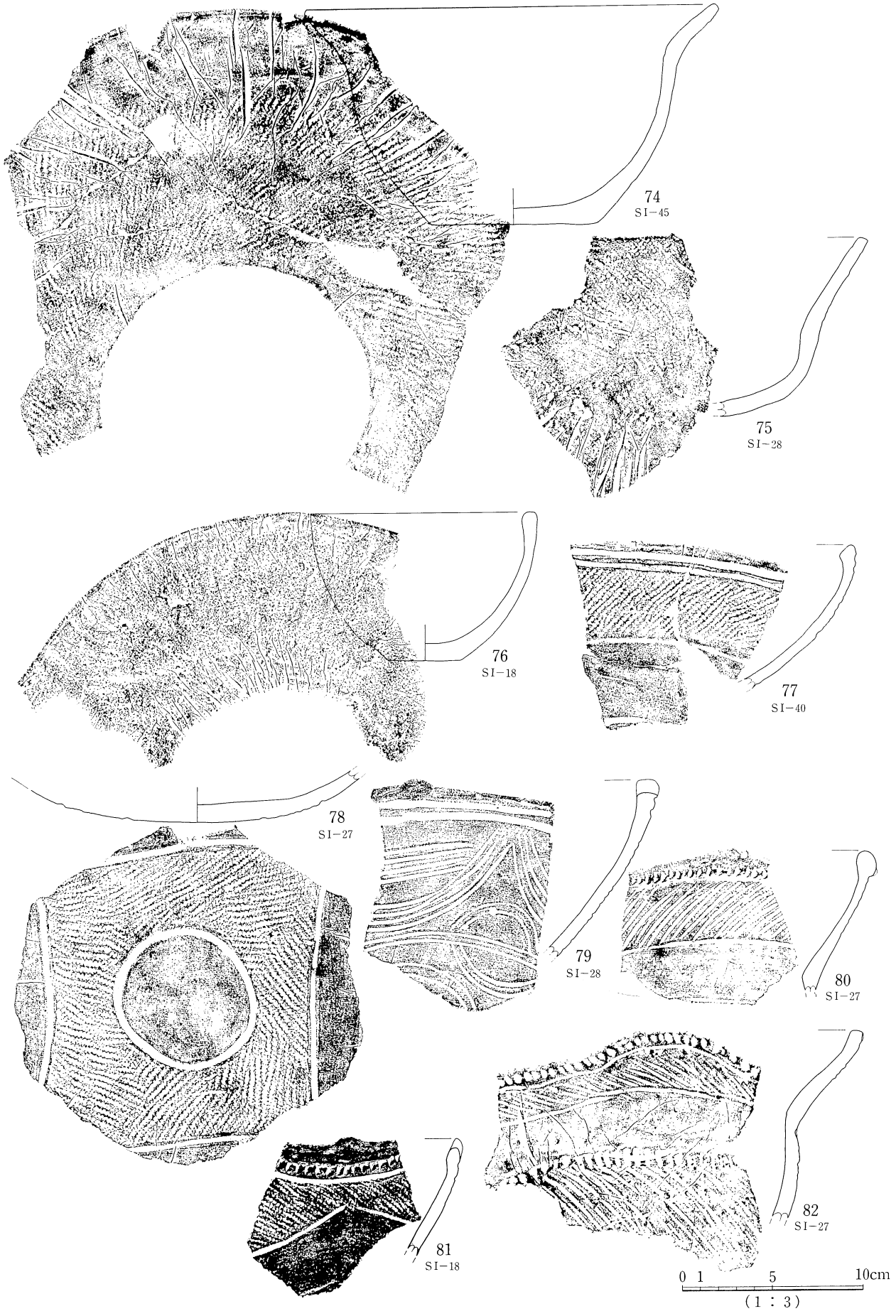
第632図　包含層出土土器−ＳＩ区−(3)



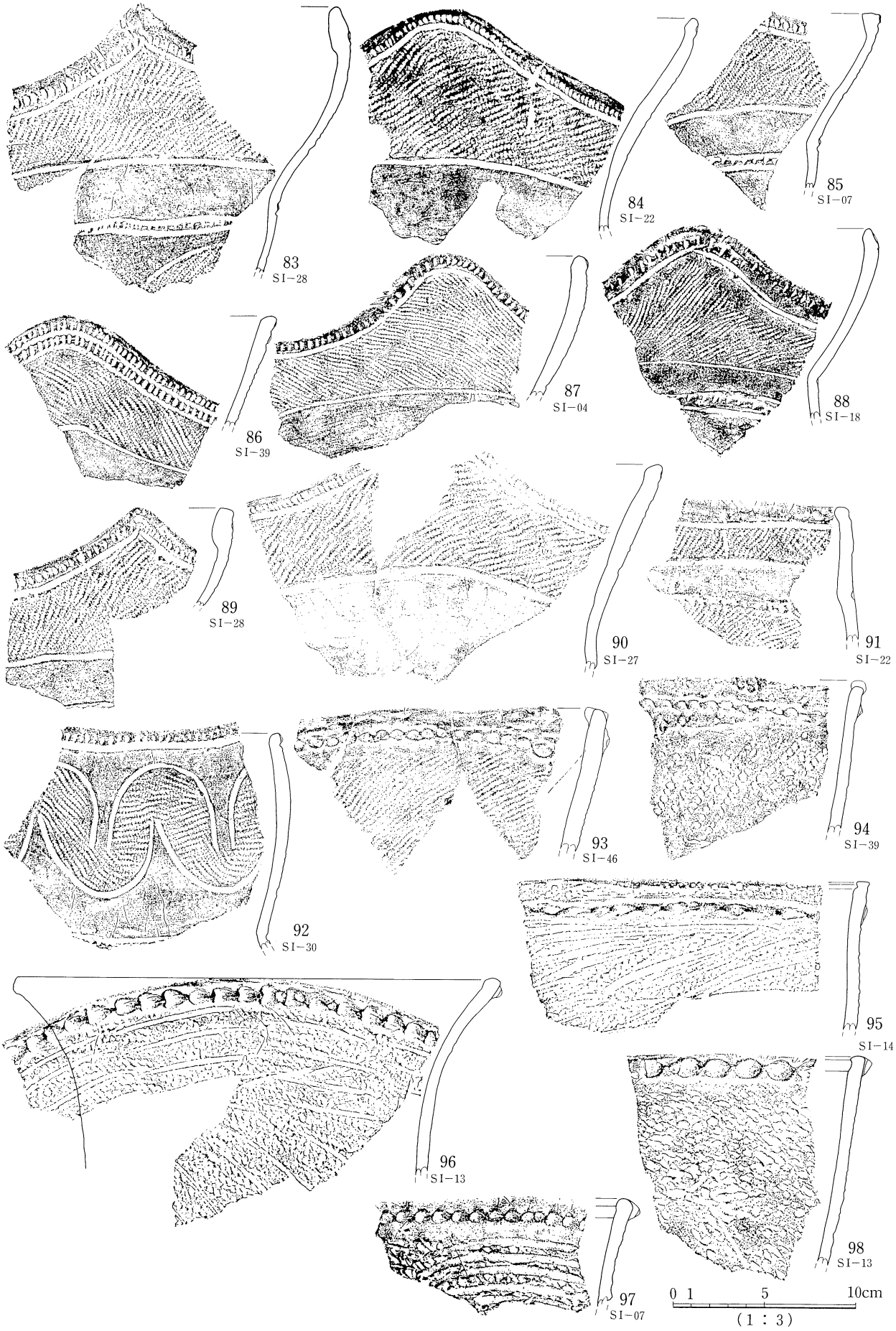
第633図　包含層出土土器−ＳＩ区−(4)



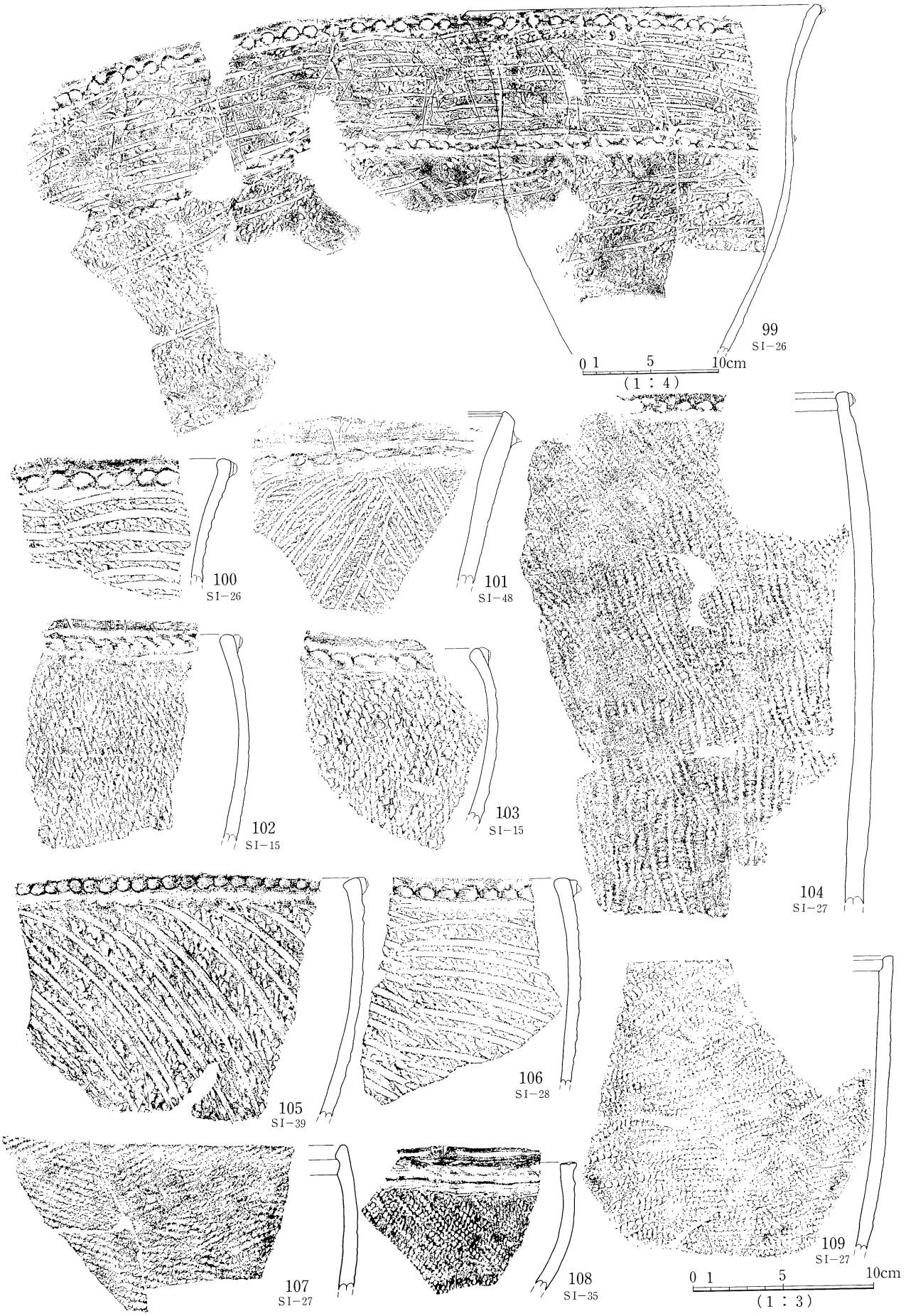
第634図　包含層出土土器−ＳＩ区−(5)



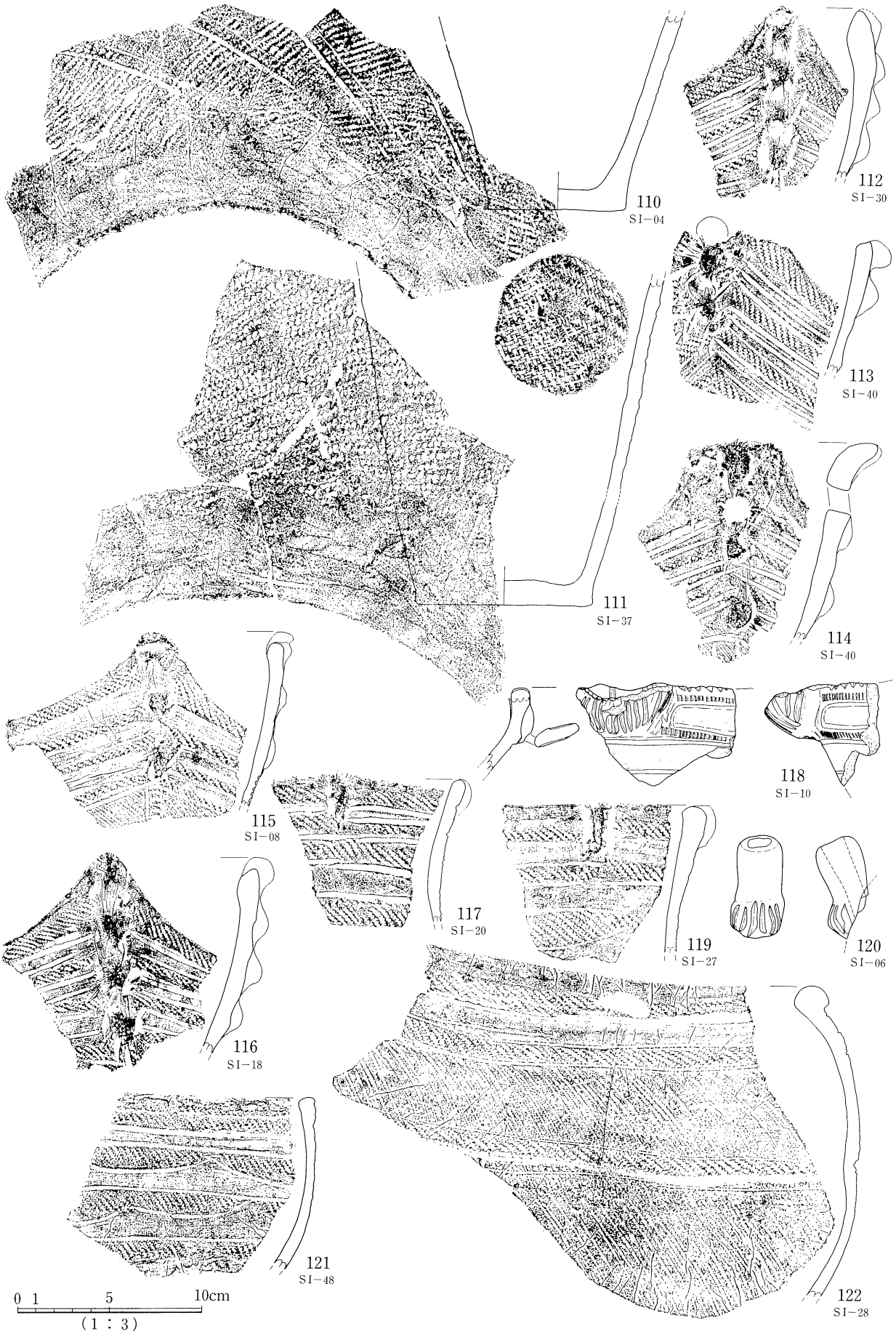
第635図　包含層出土土器-ＳＩ区-(6)



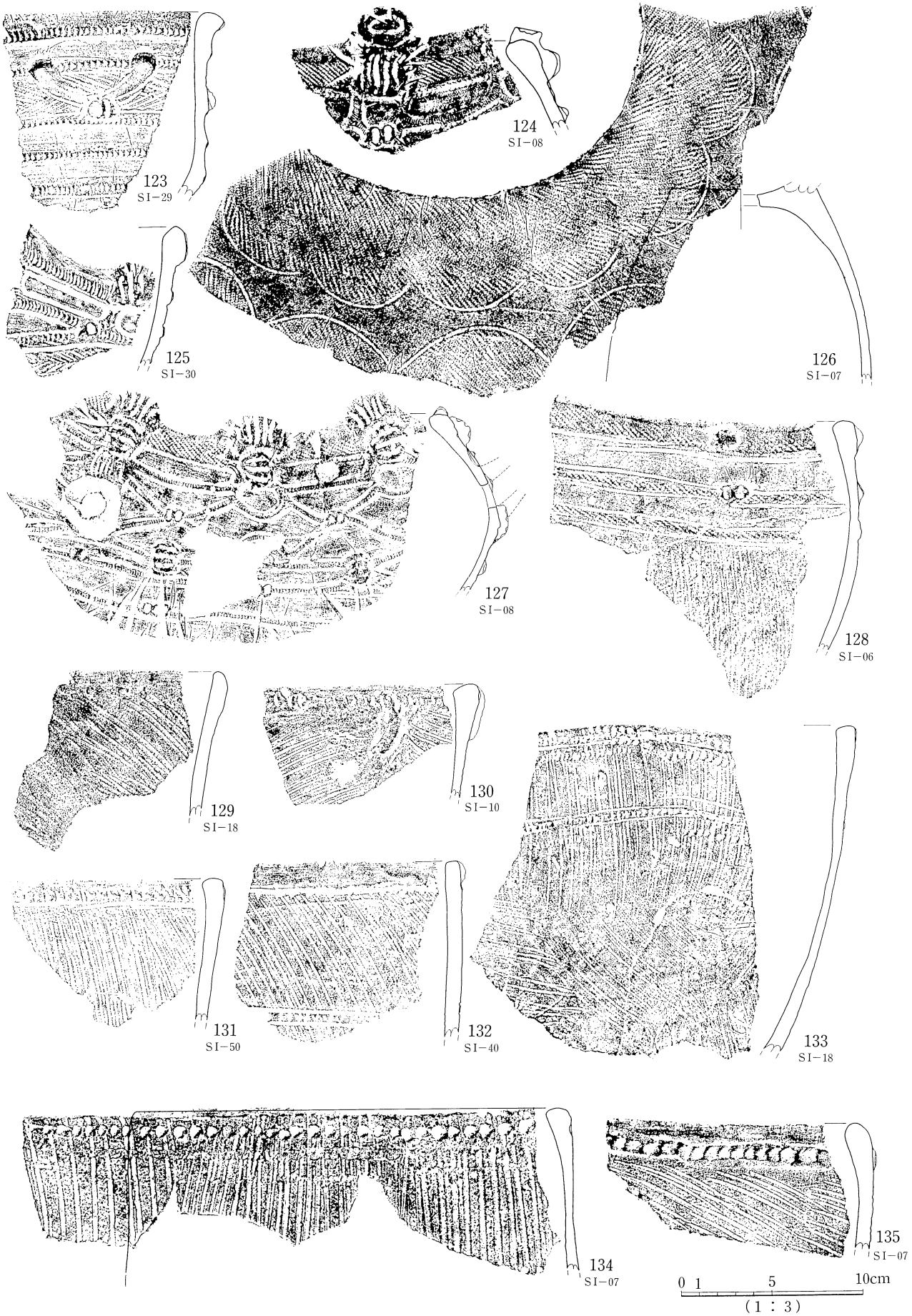
第636図　包含層出土土器-ＳＩ区-(7)



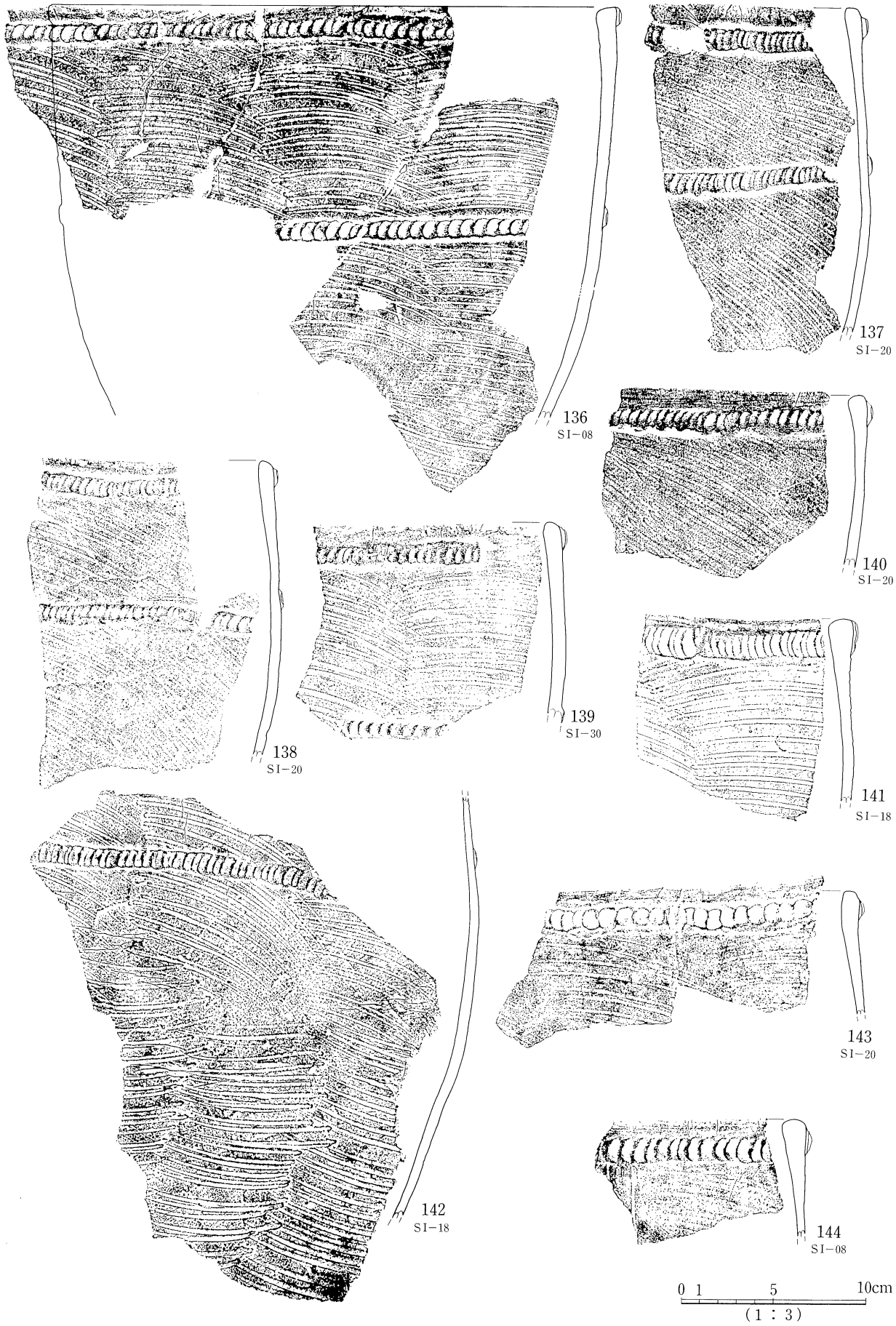
第637図　包含層出土土器−ＳＩ区−(8)



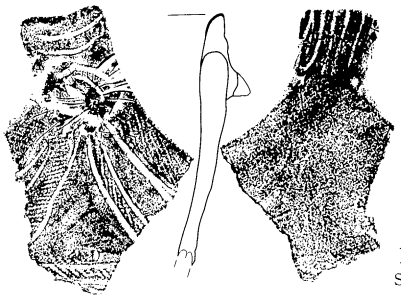
第638図　包含層出土土器−ＳＩ区−(9)



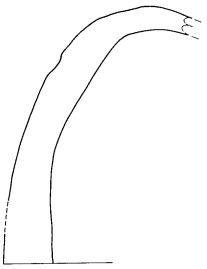
第639図　包含層出土土器−ＳＩ区−(10)

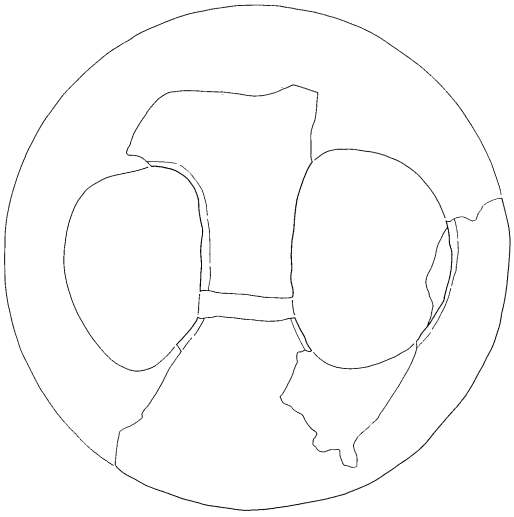


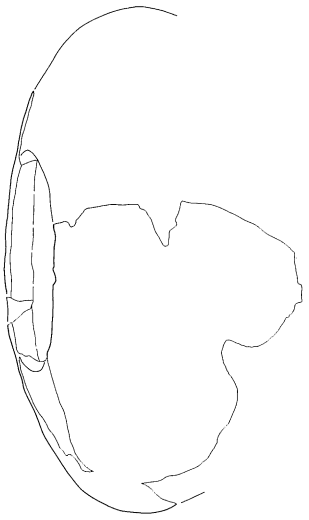
第640図　包含層出土土器−ＳＩ区−(11)

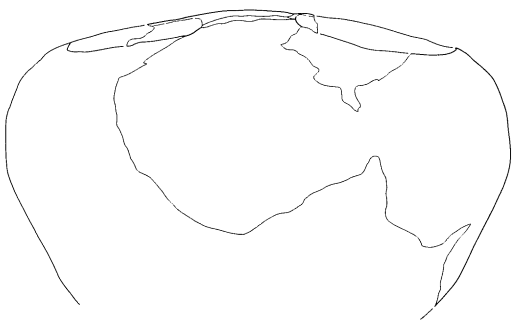


145
SI−20













146
SI−26

0 1 5 10cm
(1 : 3)

第641図　包含層出土土器−ＳＩ区−(12)



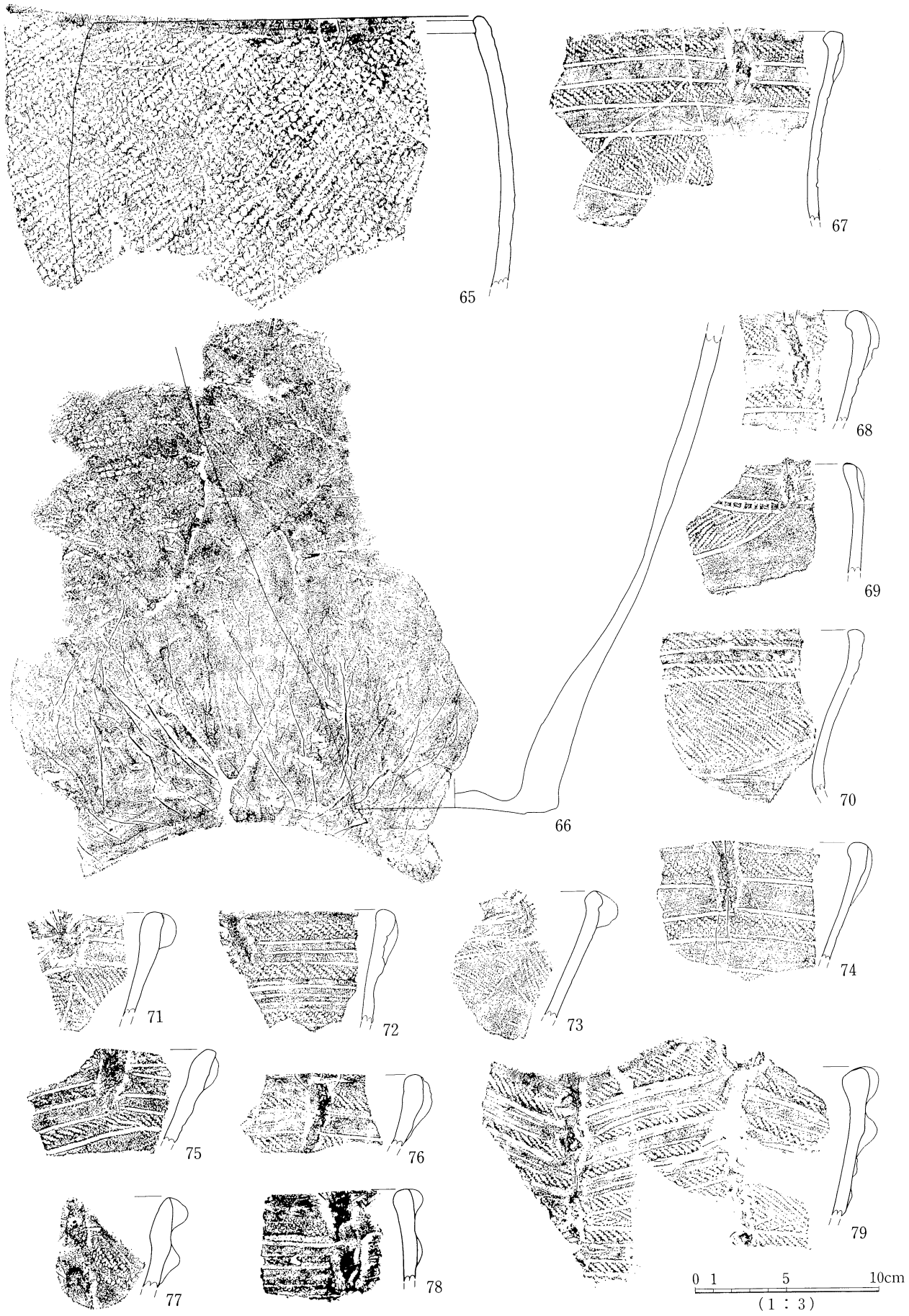
第642図　包含層出土土器-上総国分尼寺調査分　ＳＩ区-(1)



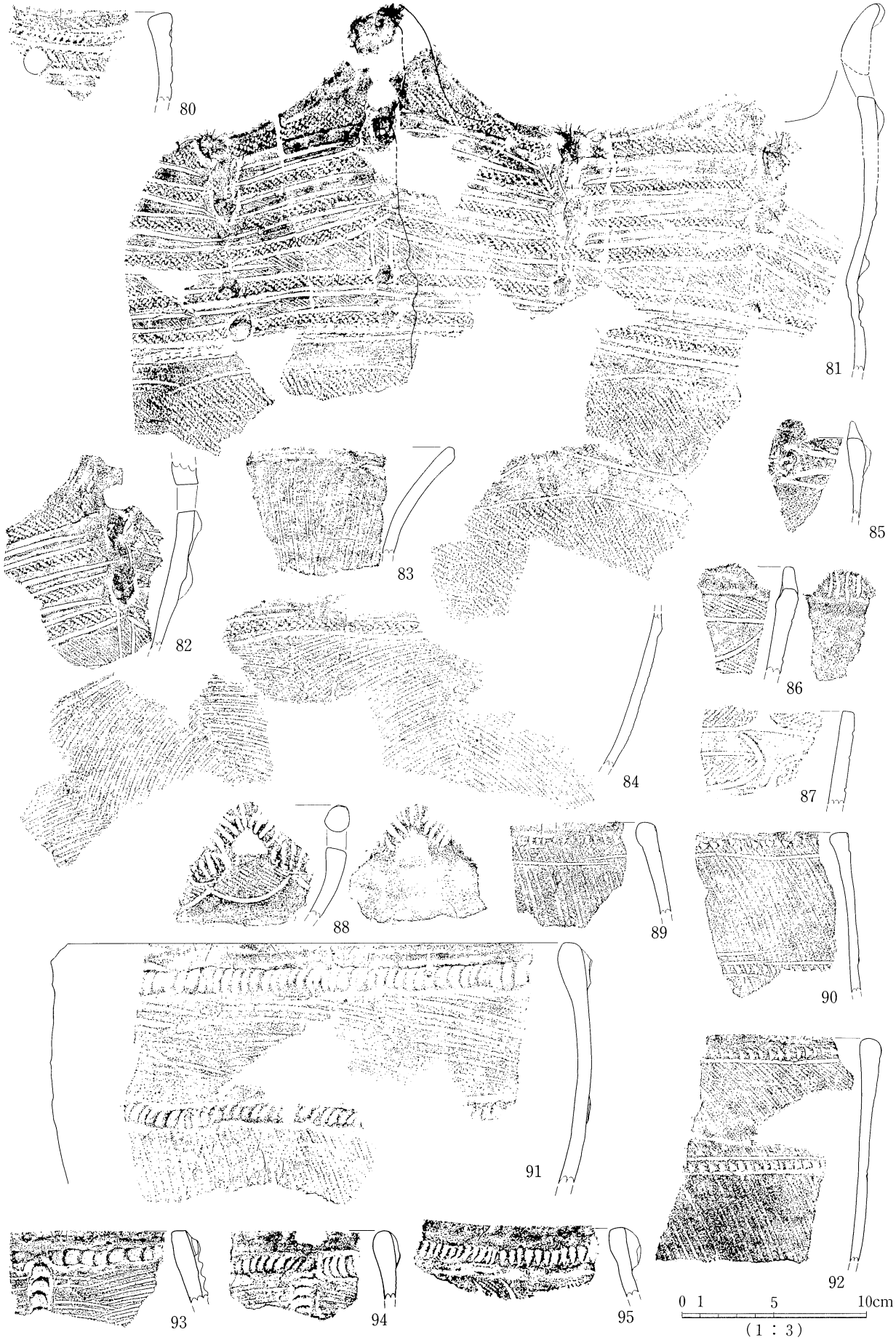
第643図　包含層出土土器-上総国分尼寺調査分　ＳＩ区-(2)



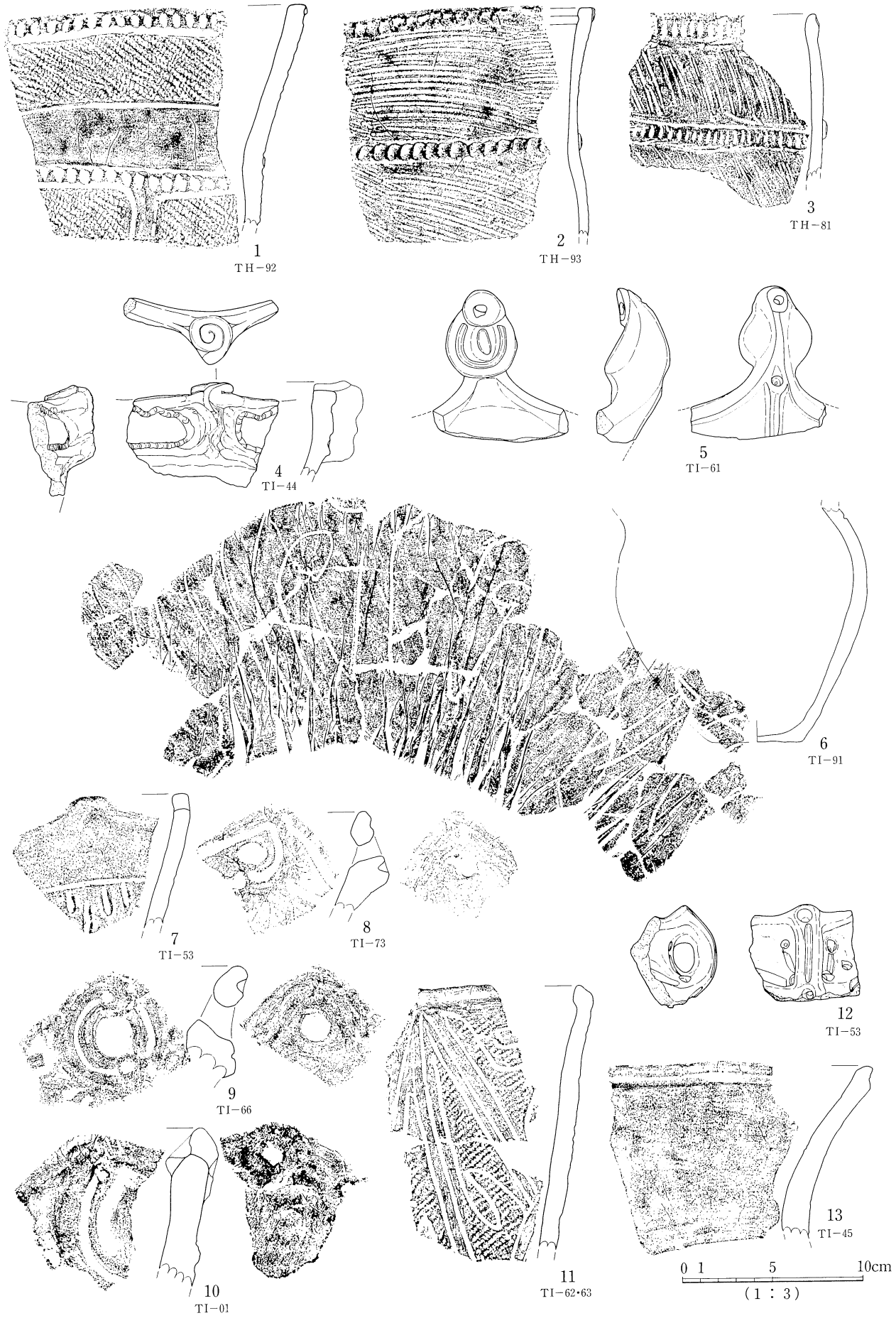
第644図　包含層出土土器-上総国分尼寺調査分　ＳＩ区-(3)



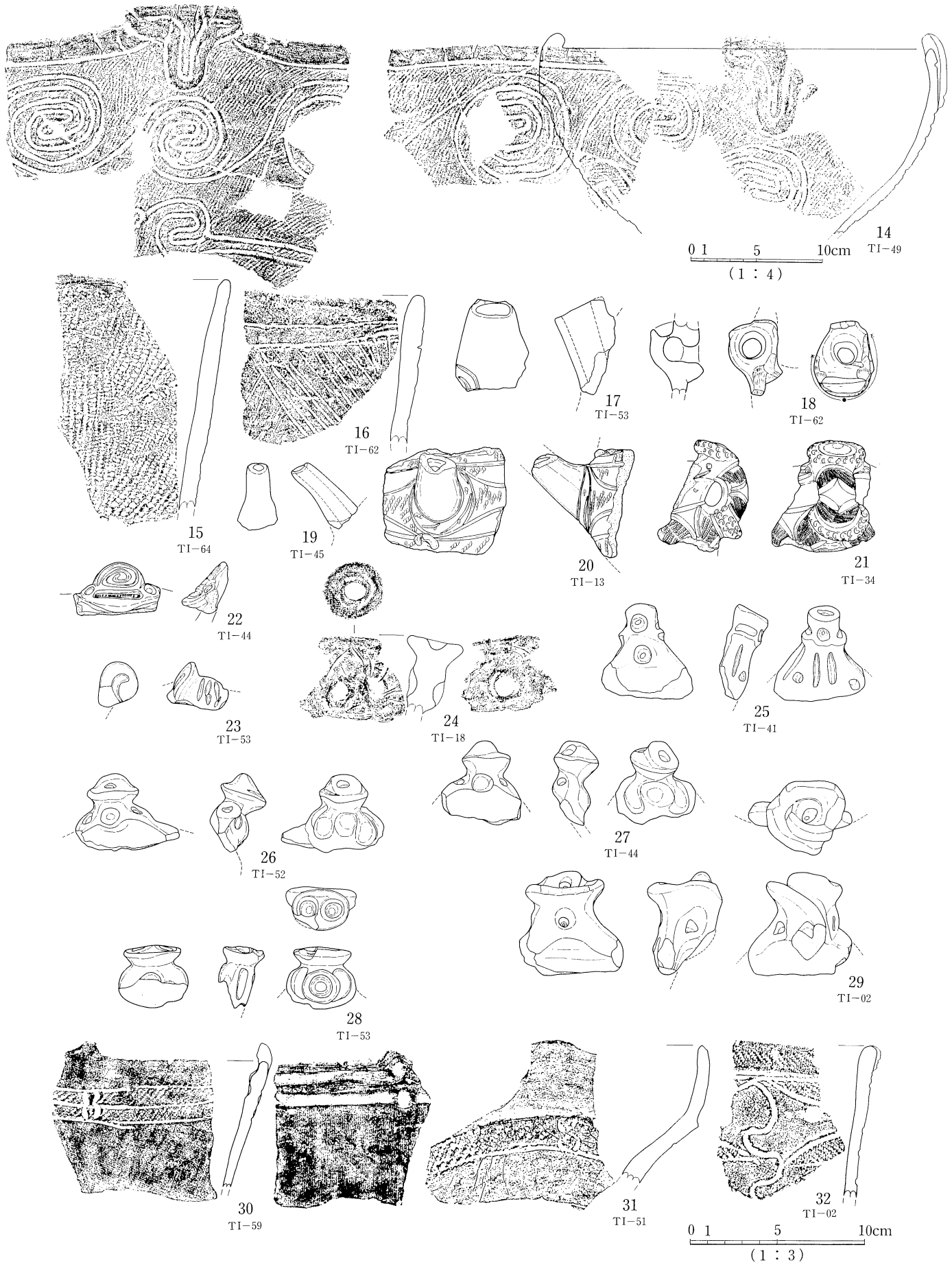
第645図　包含層出土土器-上総国分尼寺調査分　ＳＩ区-(4)



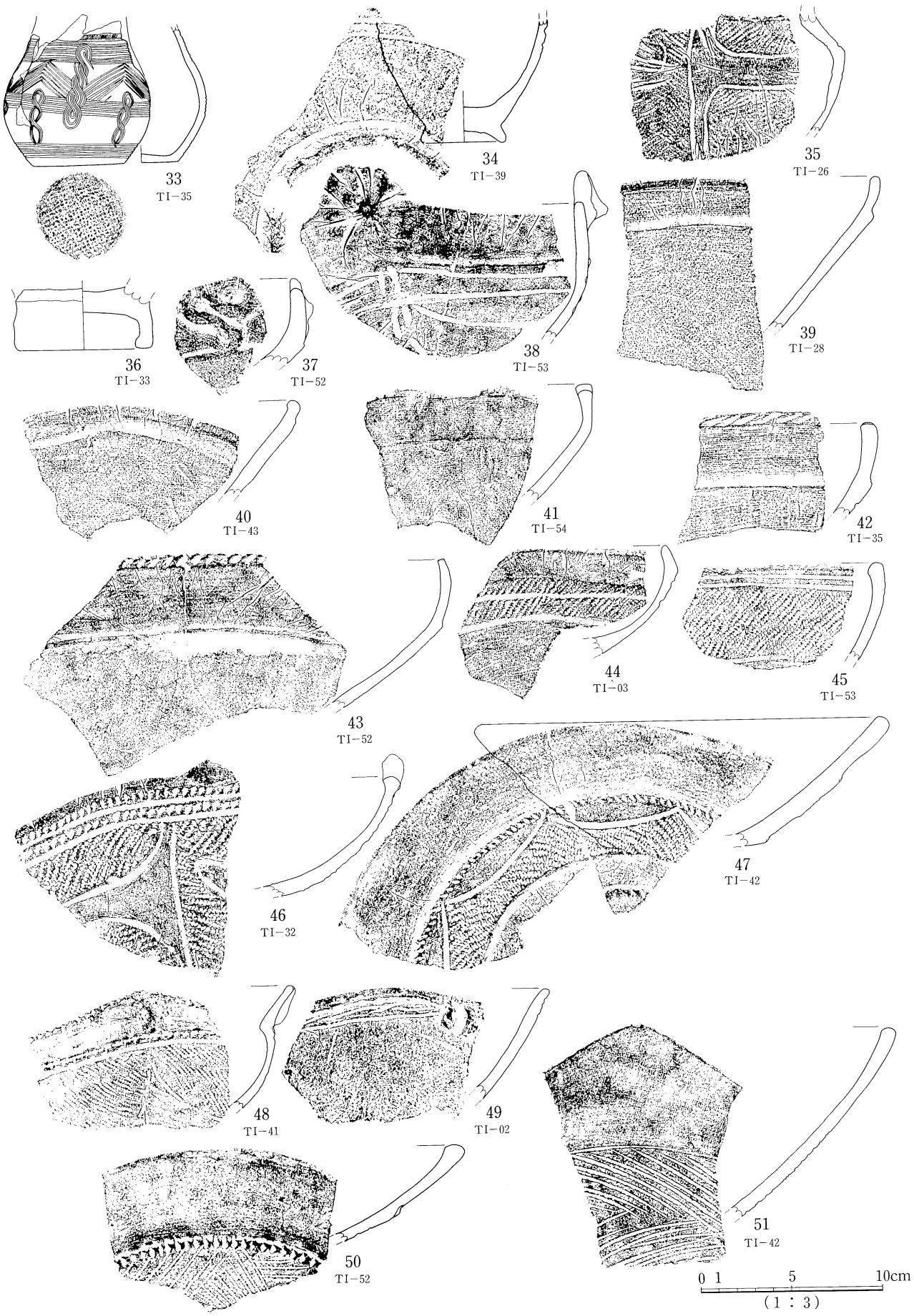
第646図　包含層出土土器-上総国分尼寺調査分　ＳＩ区-(5)



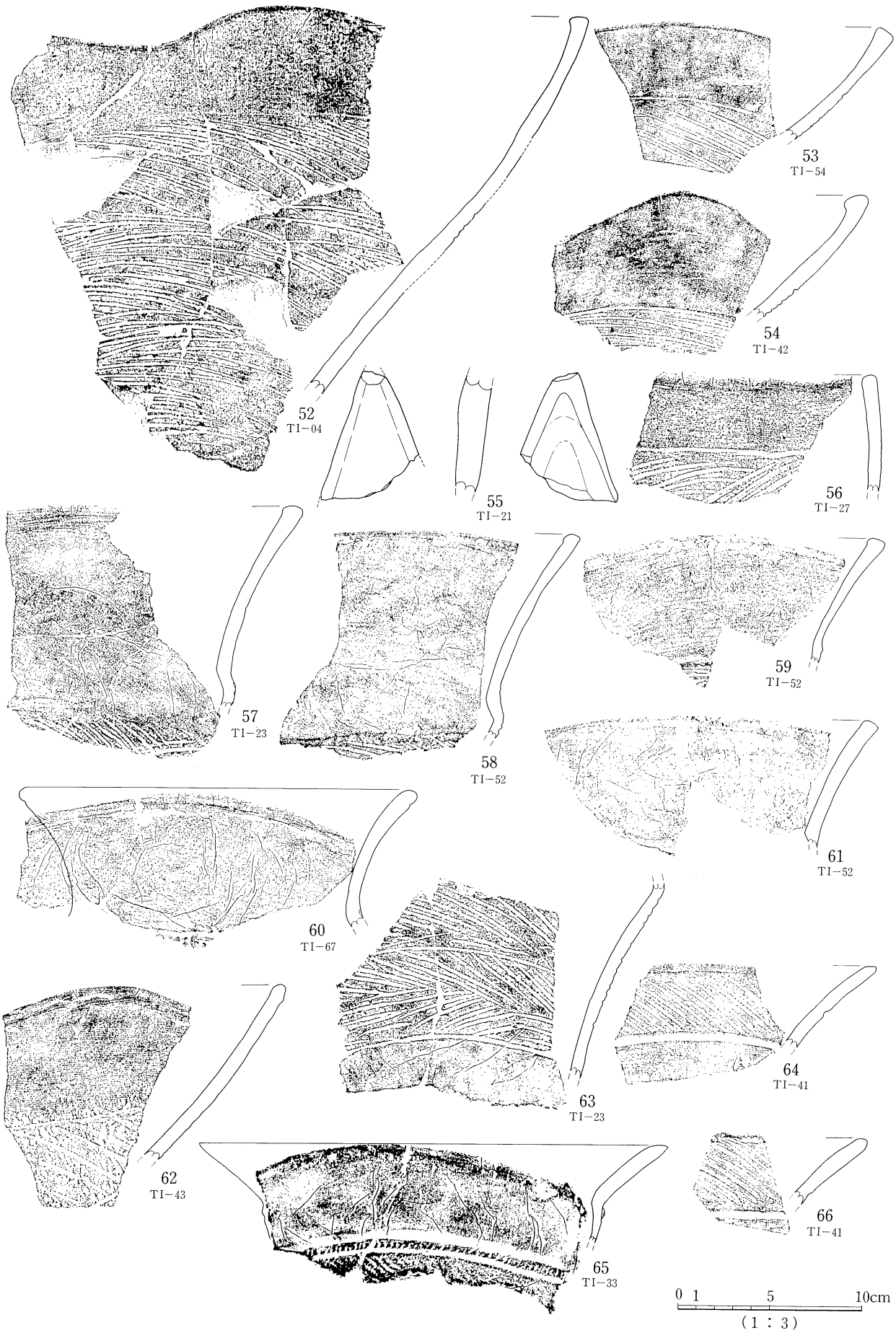
第647図　包含層出土土器-ＴＨ・ＴＩ区-(1)



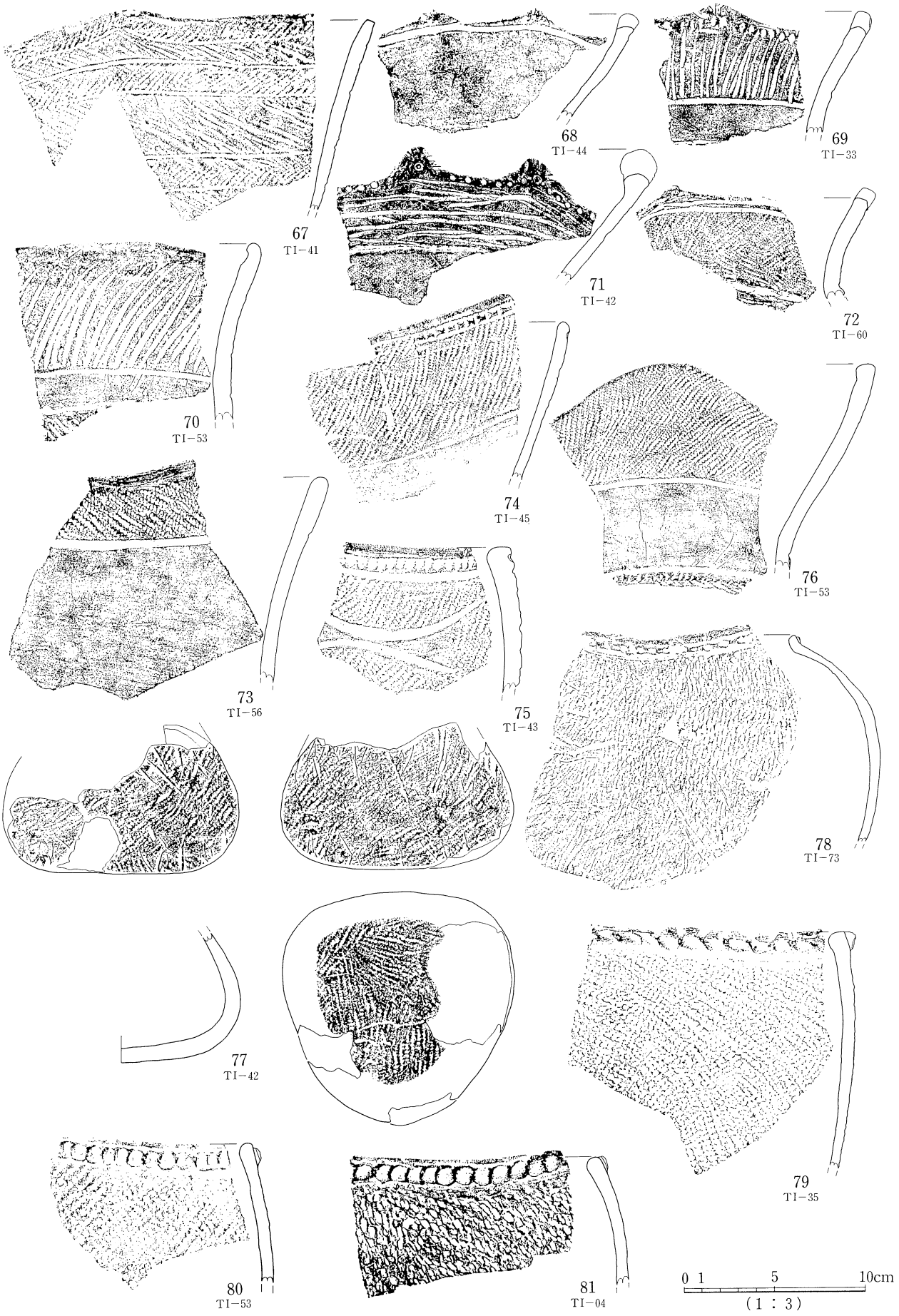
第648図　包含層出土土器−ＴⅠ区−(2)



第649図　包含層出土土器-ＴⅠ区-(3)



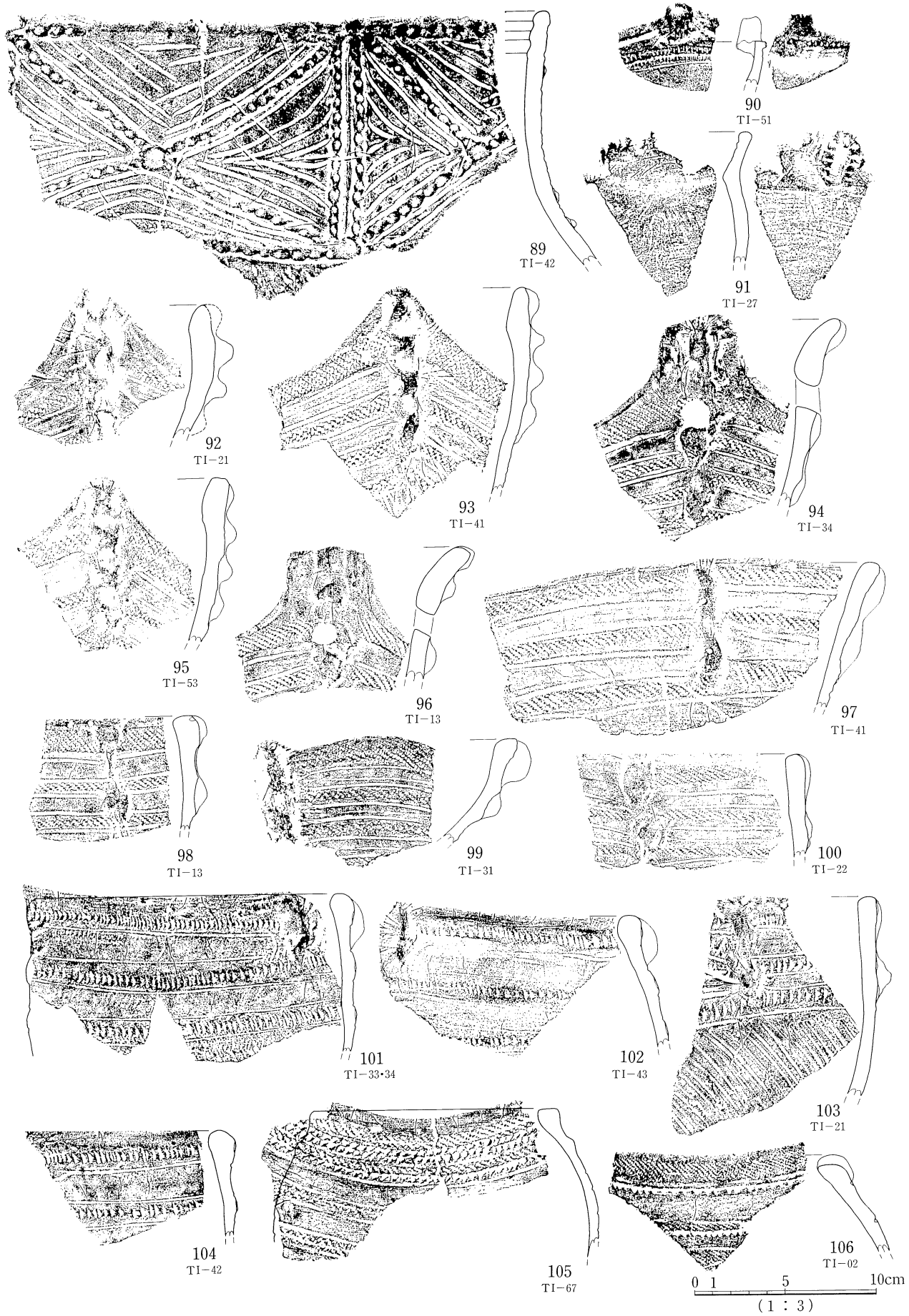
第650図　包含層出土土器-ＴＩ区-(4)



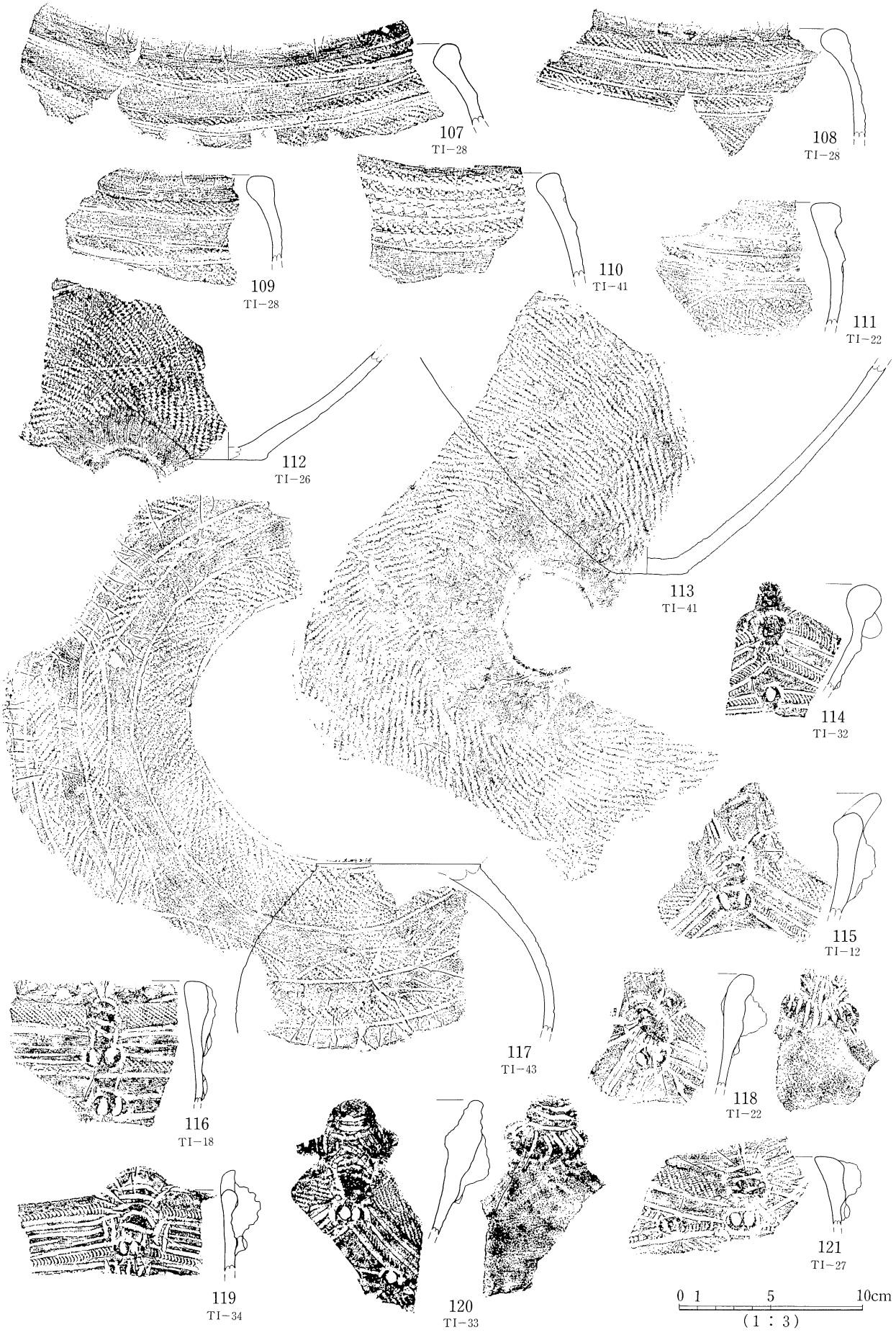
第651図　包含層出土土器-ＴⅠ区-(5)



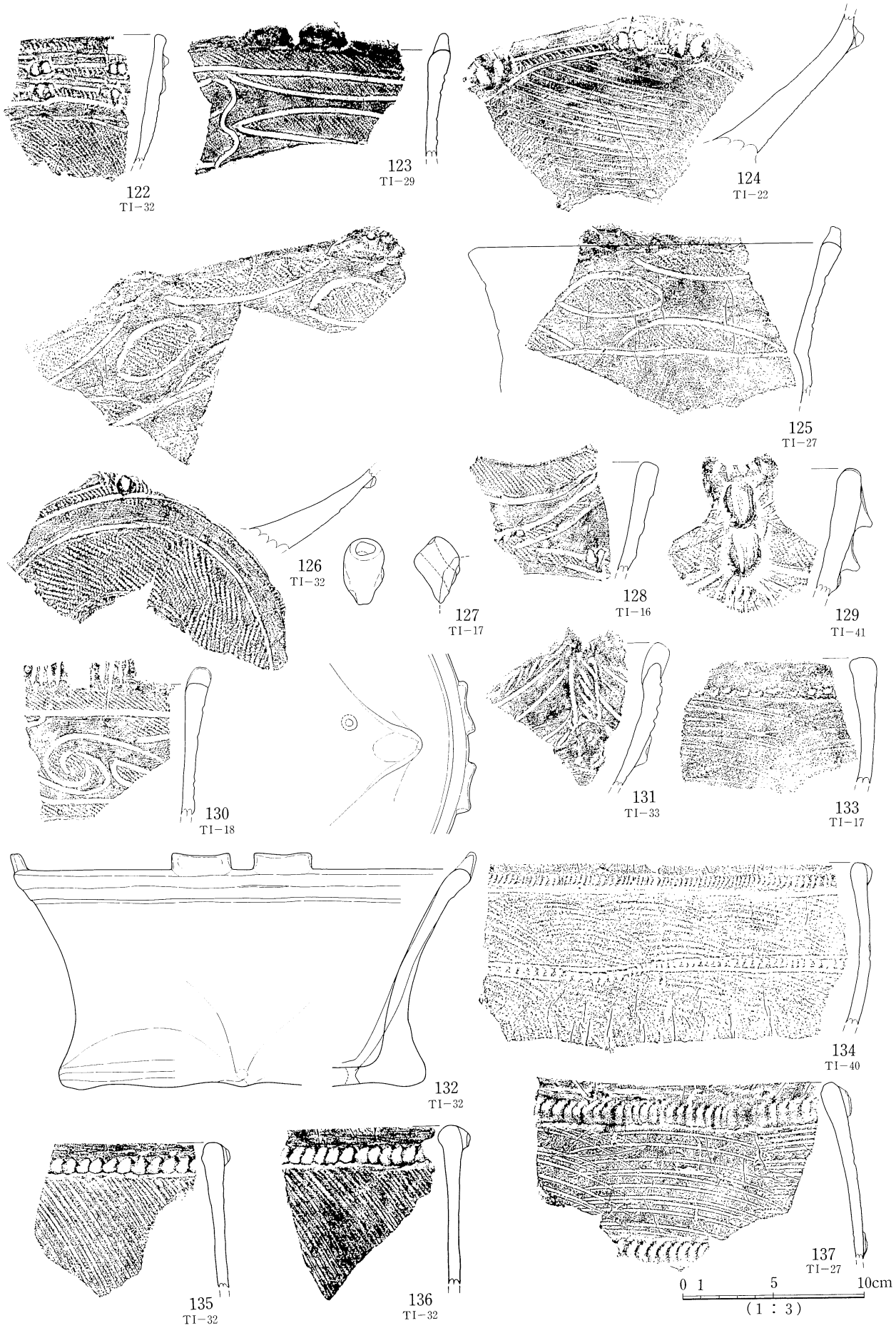
第652図　包含層出土土器−ＴＩ区−(6)



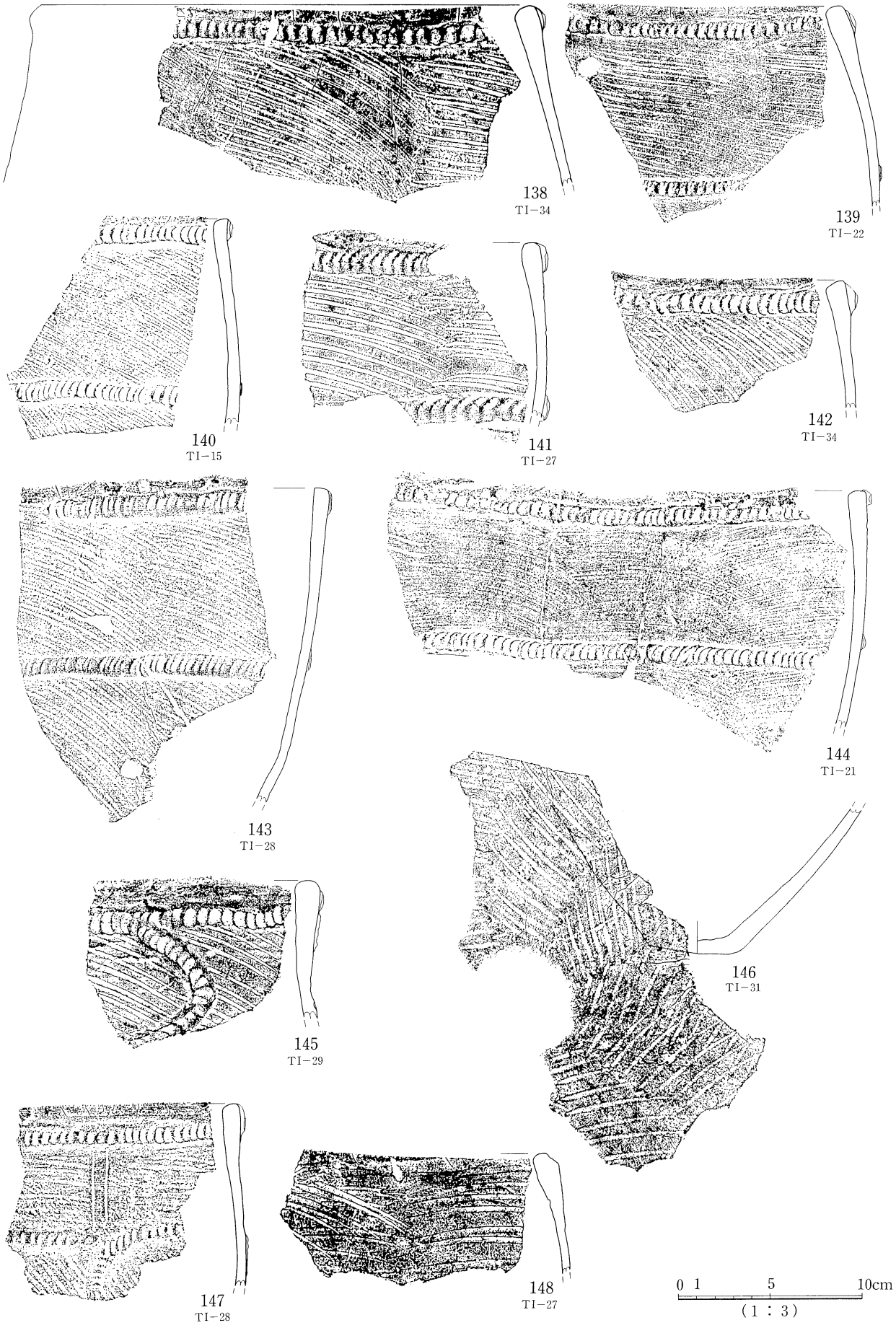
第653図　包含層出土土器-ＴⅠ区-(7)



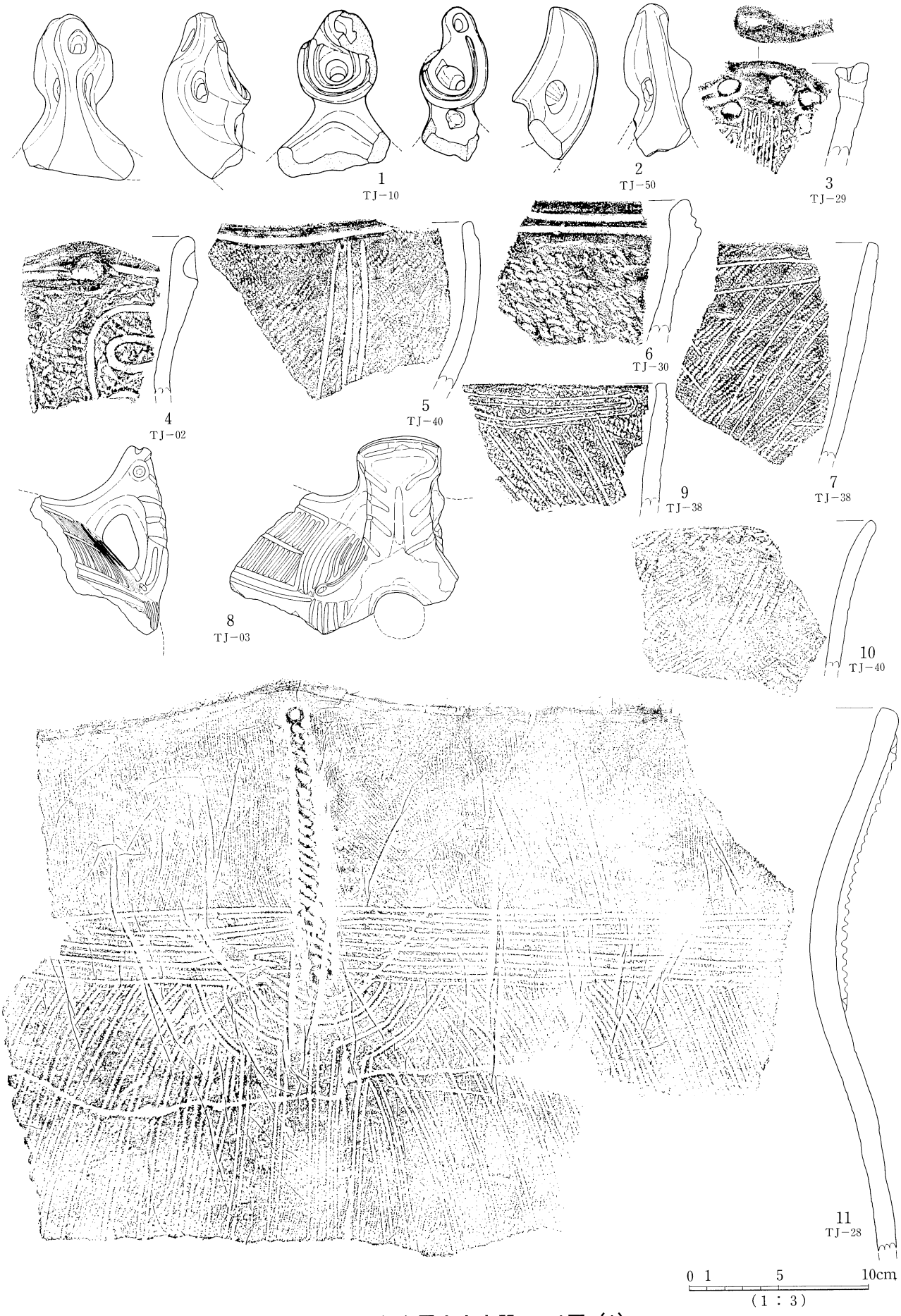
第654図　包含層出土土器-ＴⅠ区-(8)



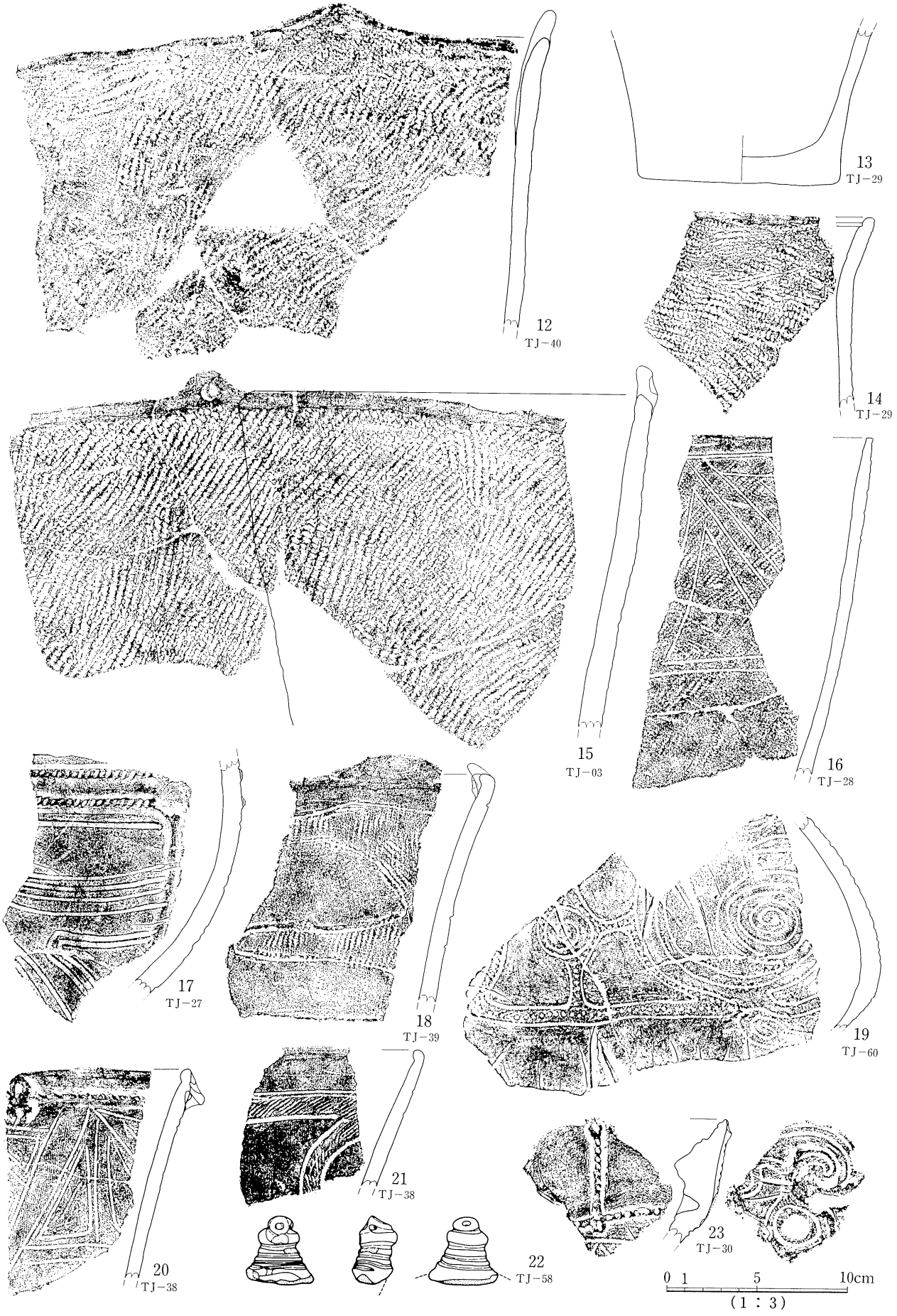
第655図　包含層出土土器-ＴＩ区-(9)



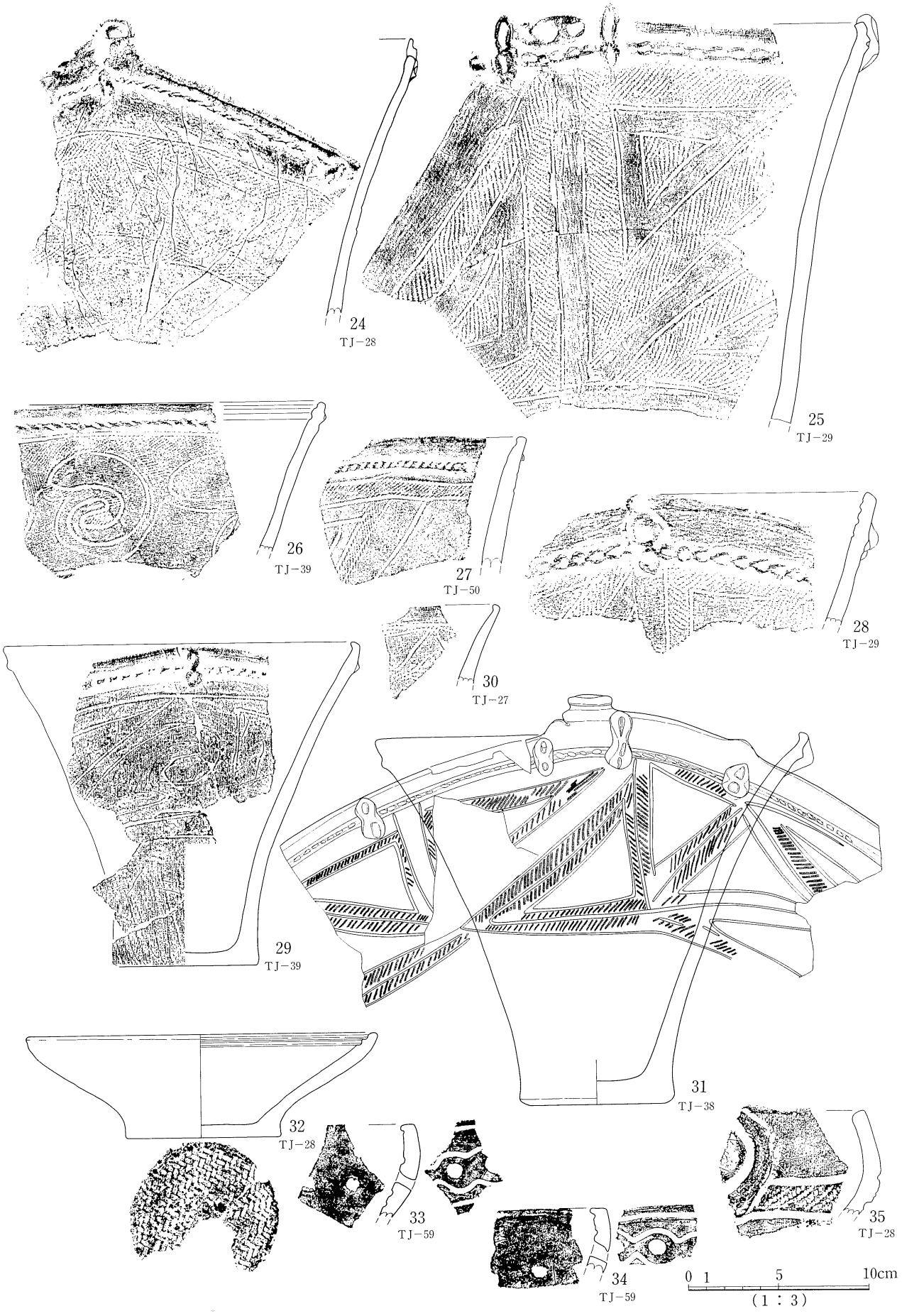
第656図　包含層出土土器-ＴⅠ区-(10)



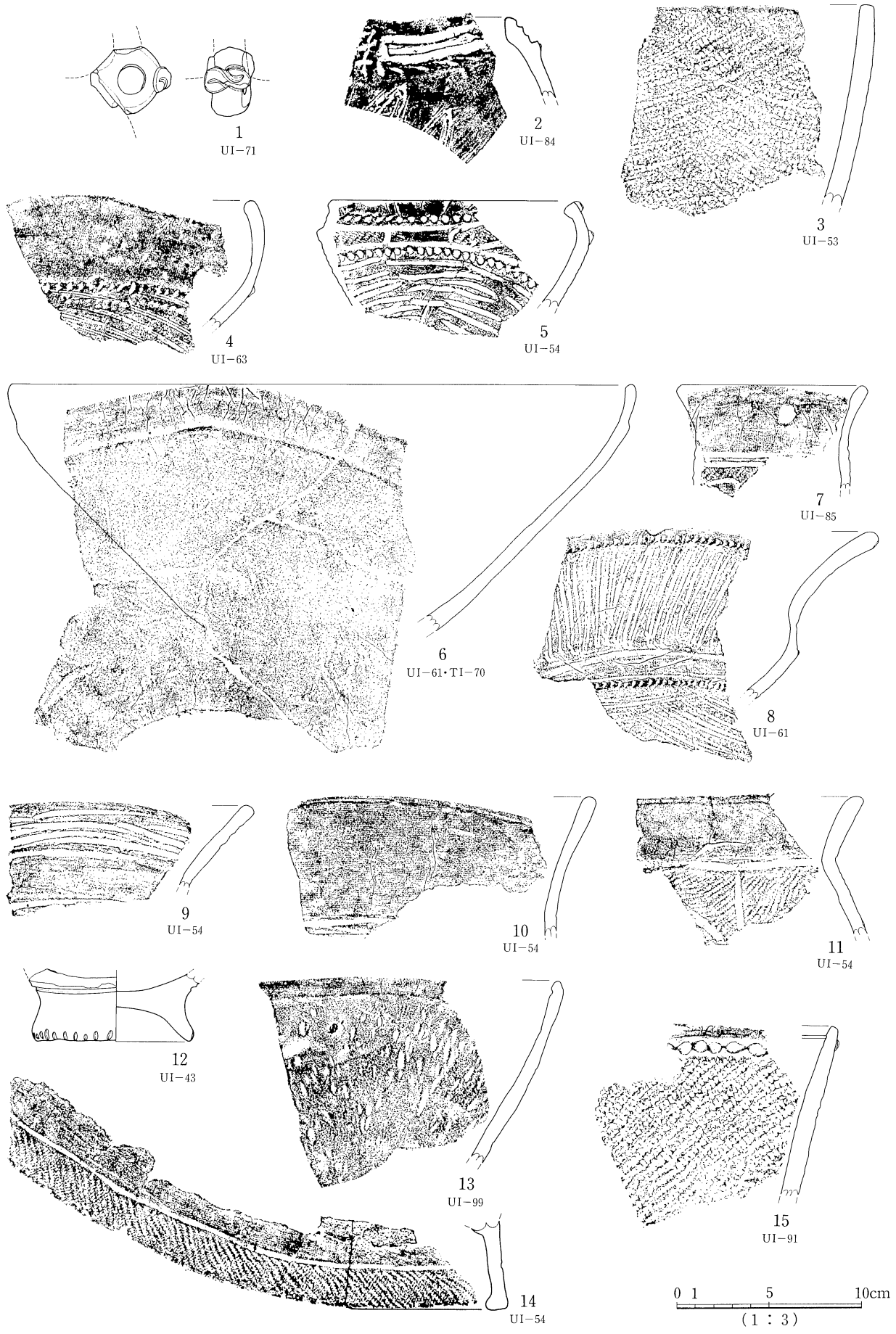
第657図　包含層出土土器-ＴＪ区-(1)



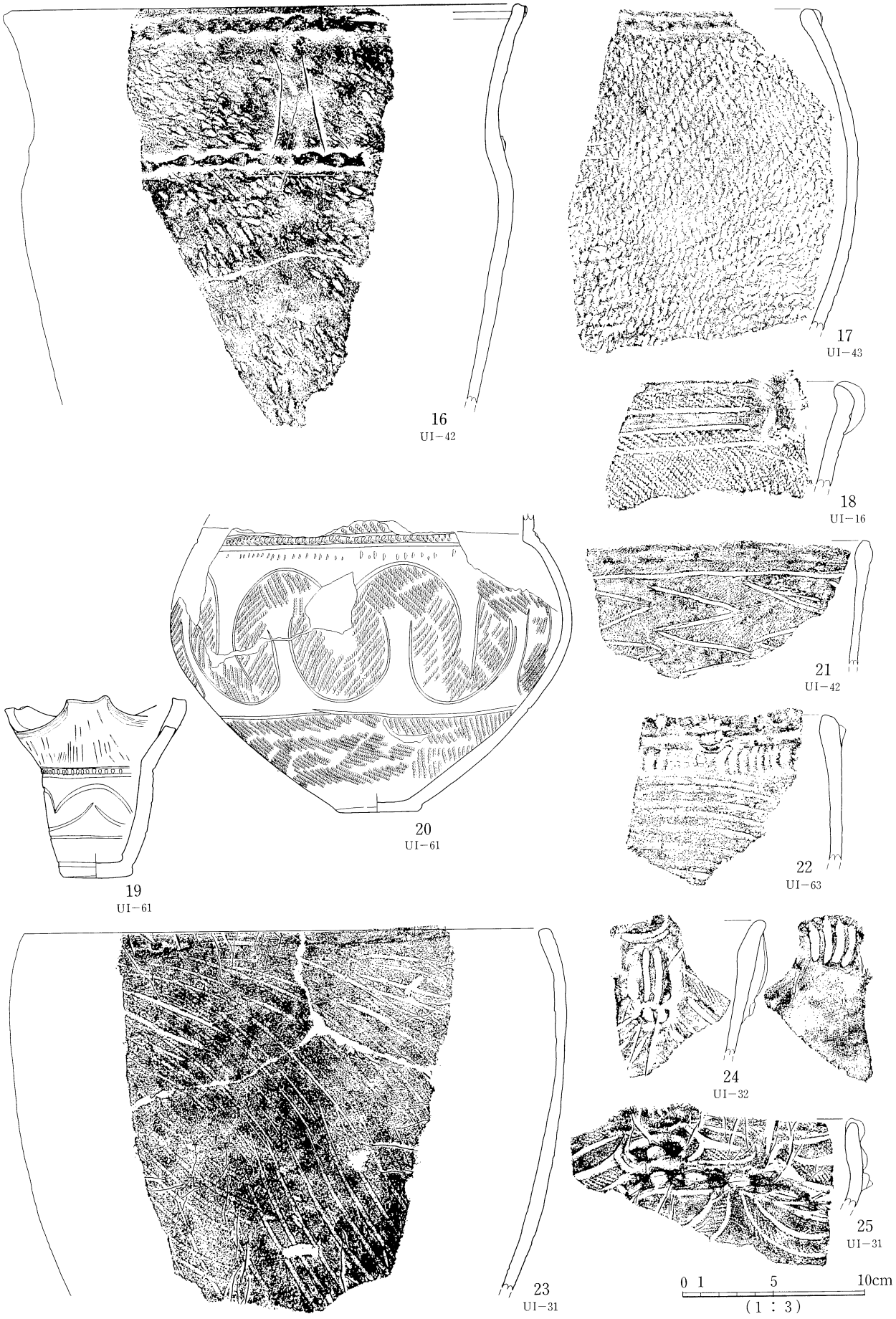
第658図　包含層出土土器－ＴＪ区－(2)



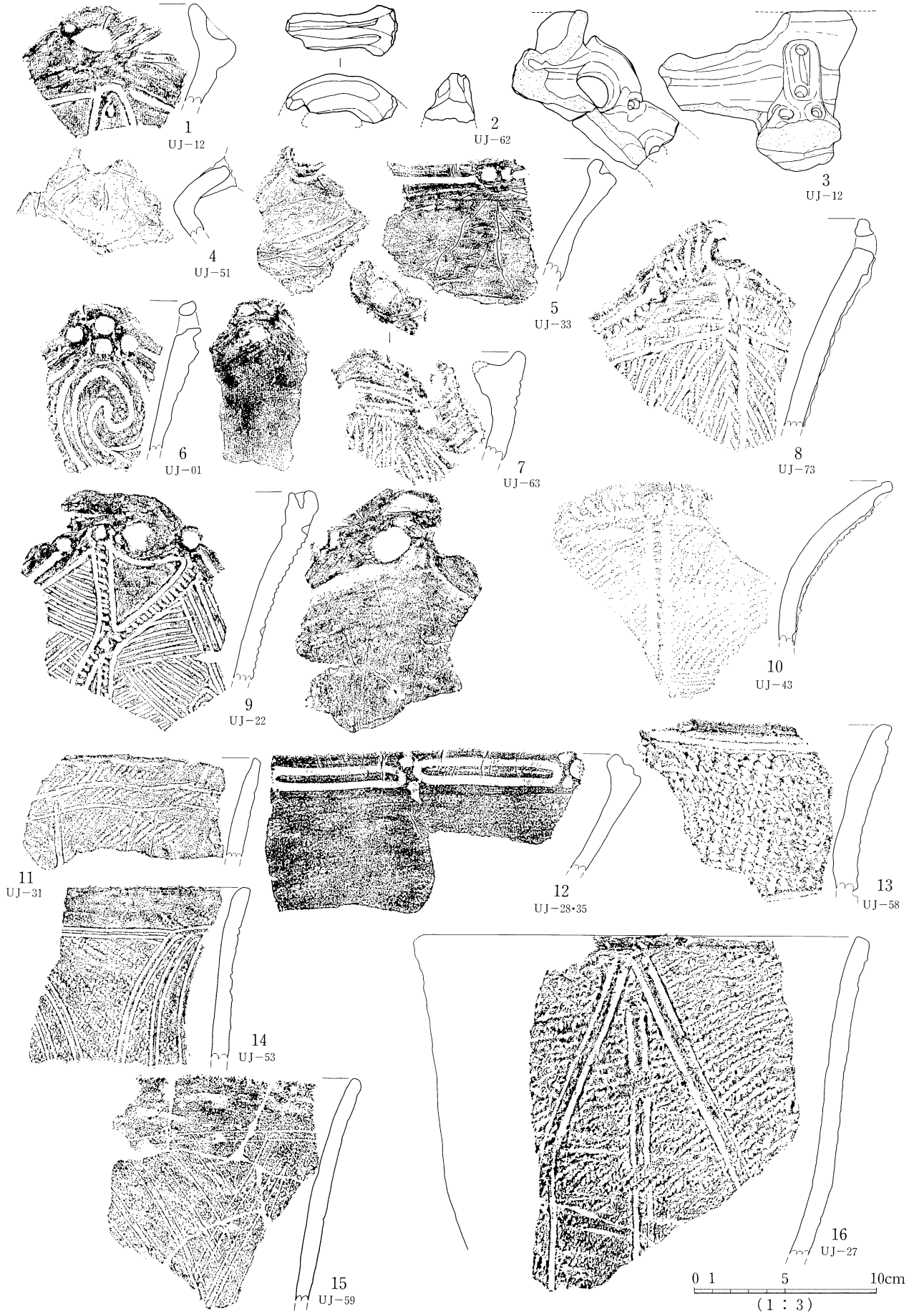
第659図　包含層出土土器-ＴＪ区-(3)



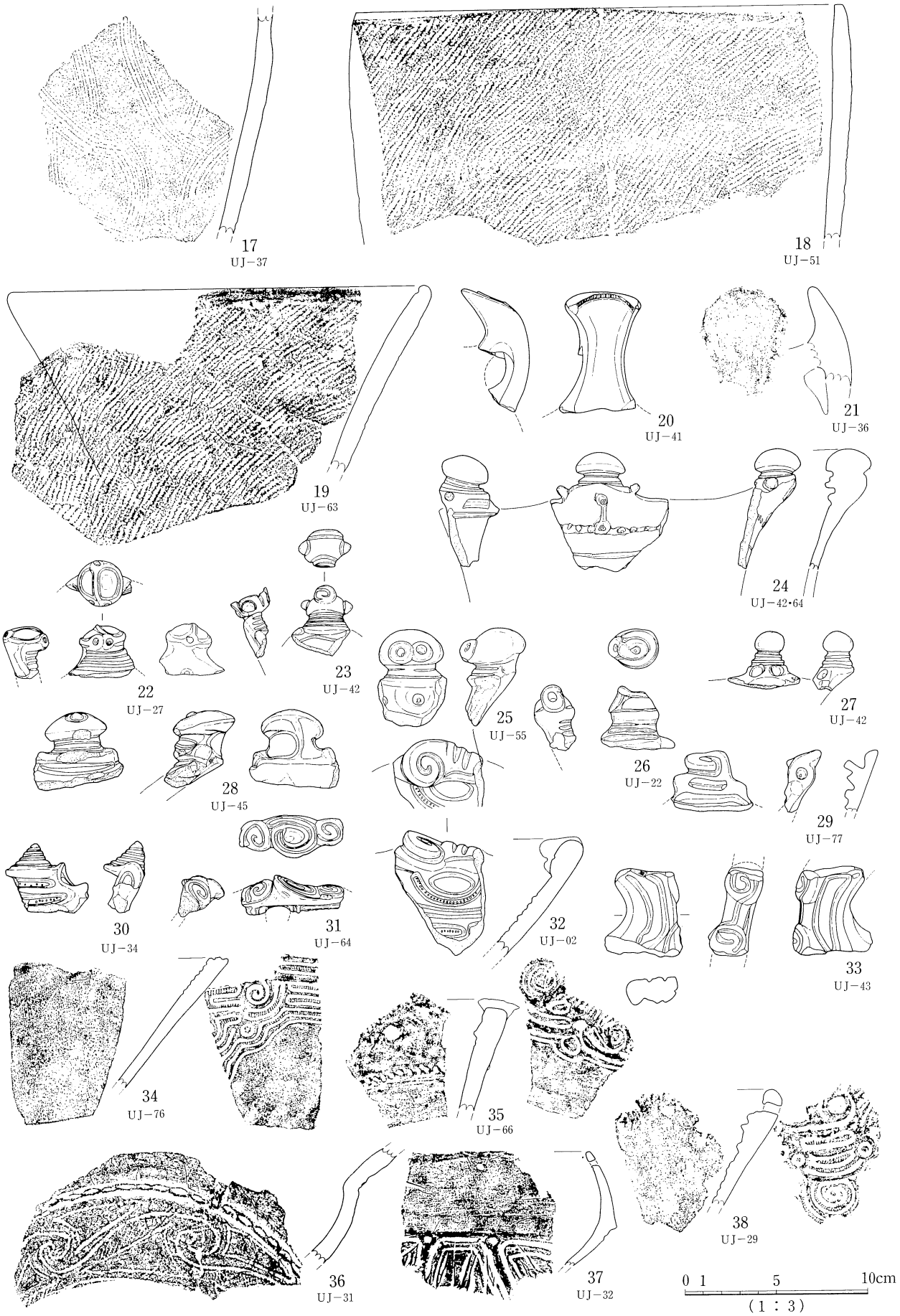
第660図　包含層出土土器-ＵＩ区-(1)



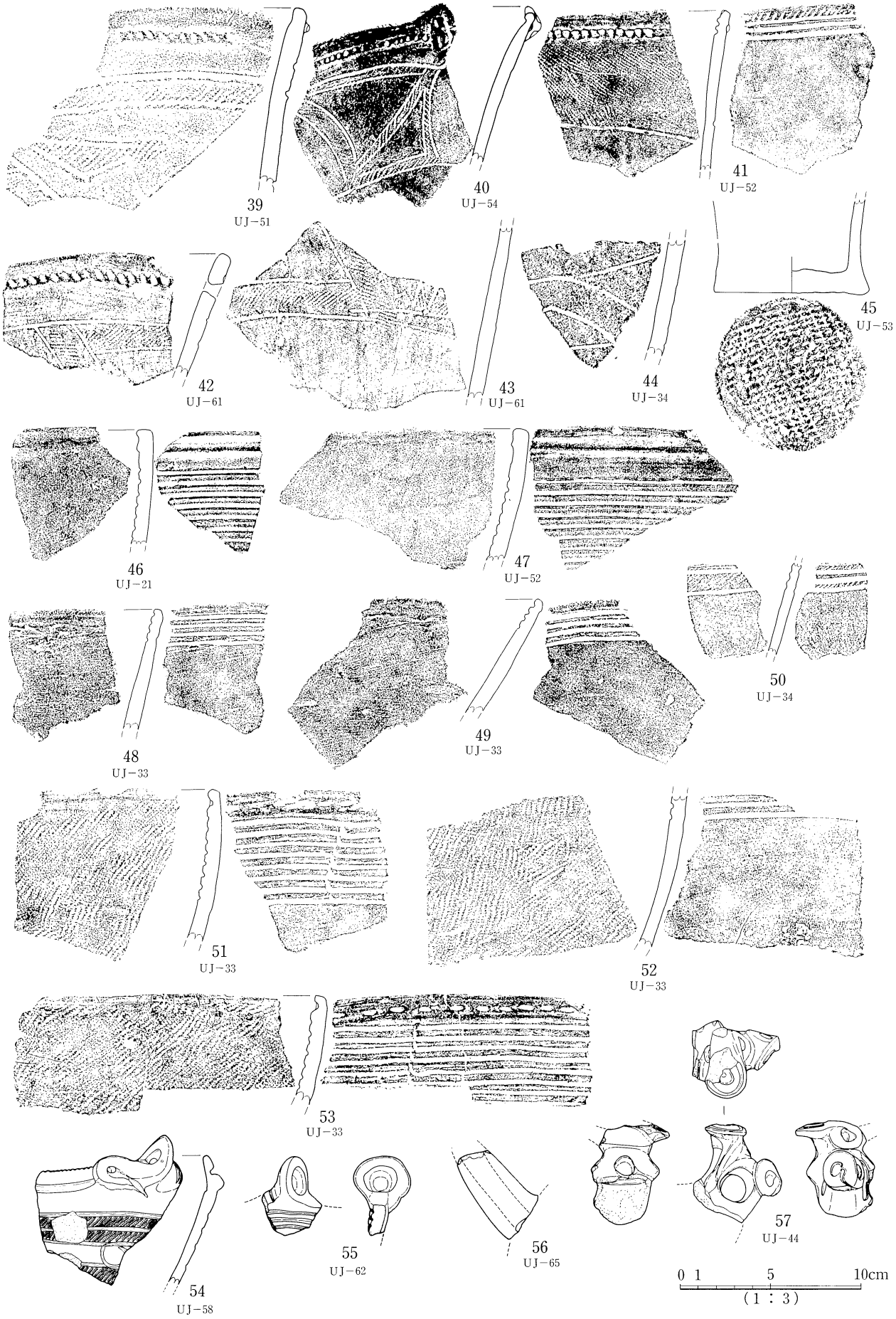
第661図　包含層出土土器-ＵＩ区-(2)



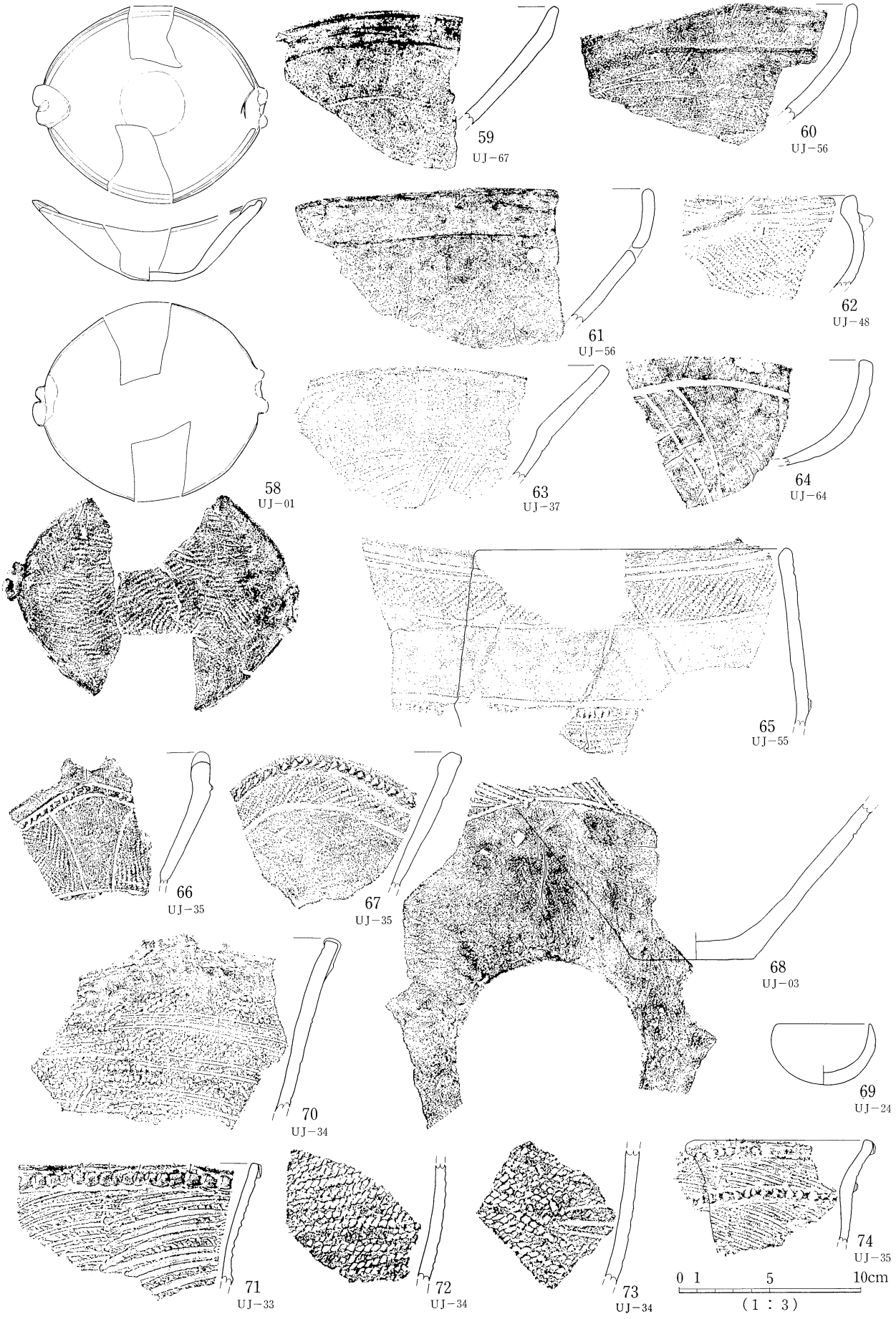
第662図　包含層出土土器-ＵＪ区-(1)



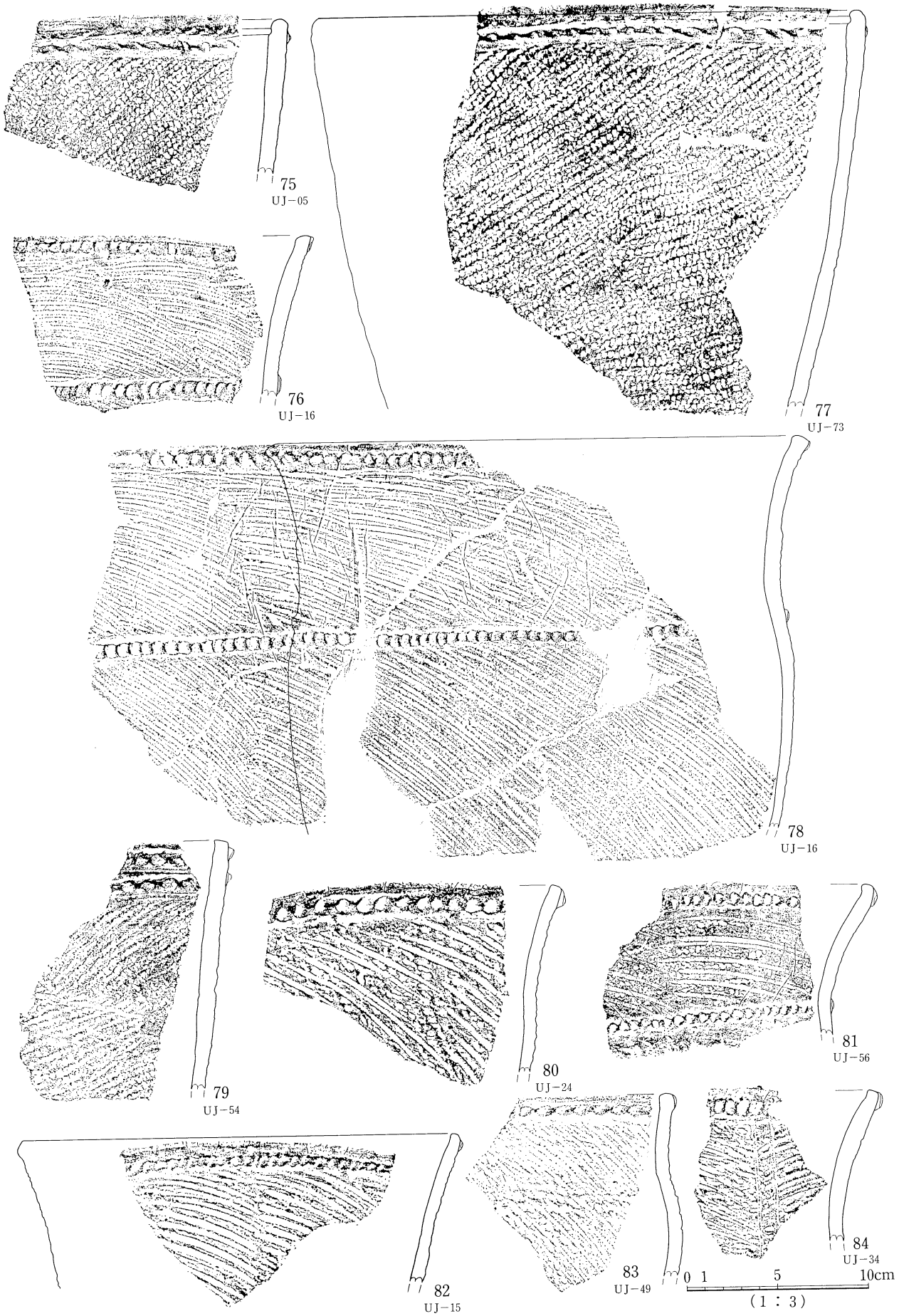
第663図　包含層出土土器-ＵＪ区-(2)



第664図　包含層出土土器-ＵＪ区-(3)



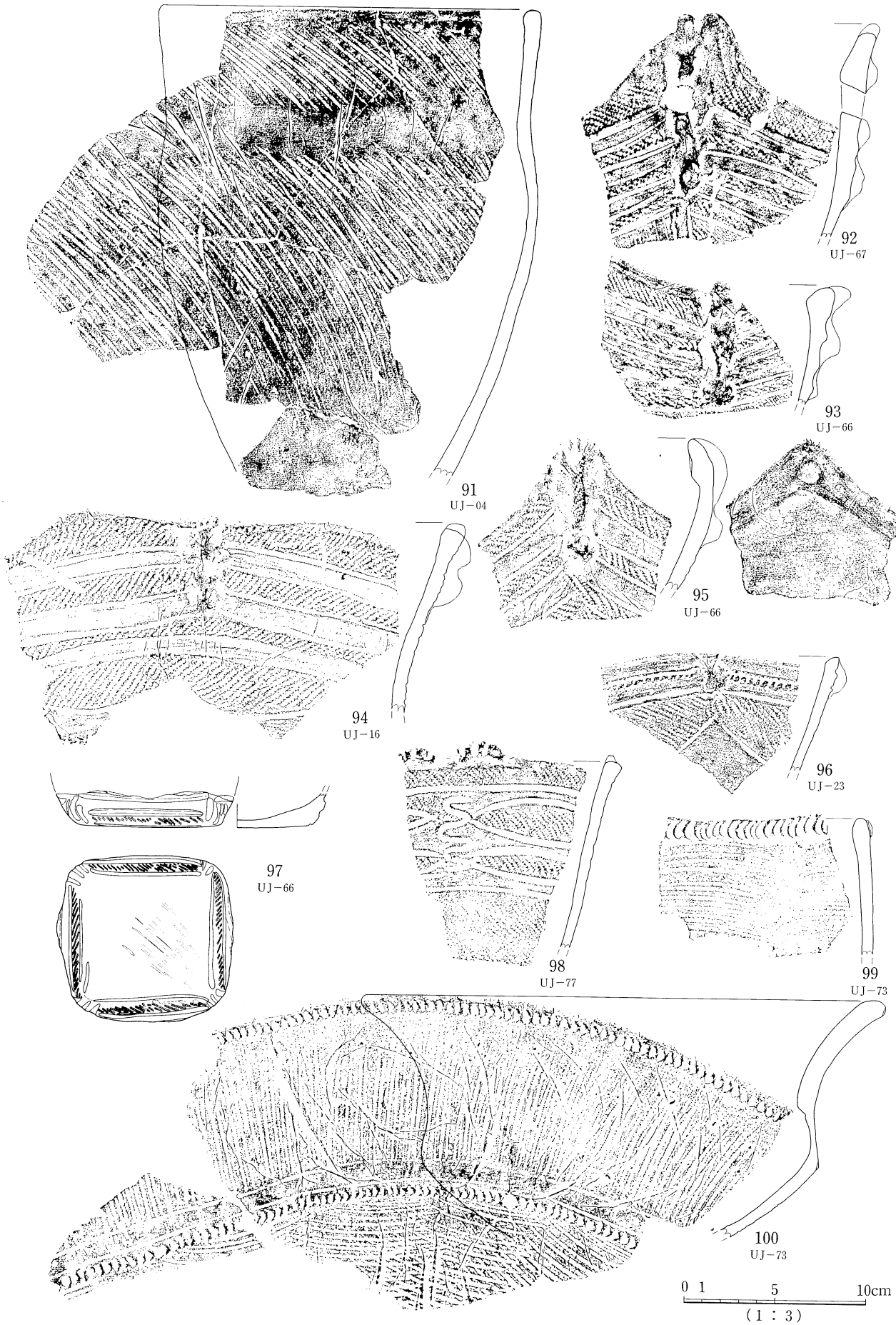
第665図　包含層出土土器-ＵＪ区-(4)



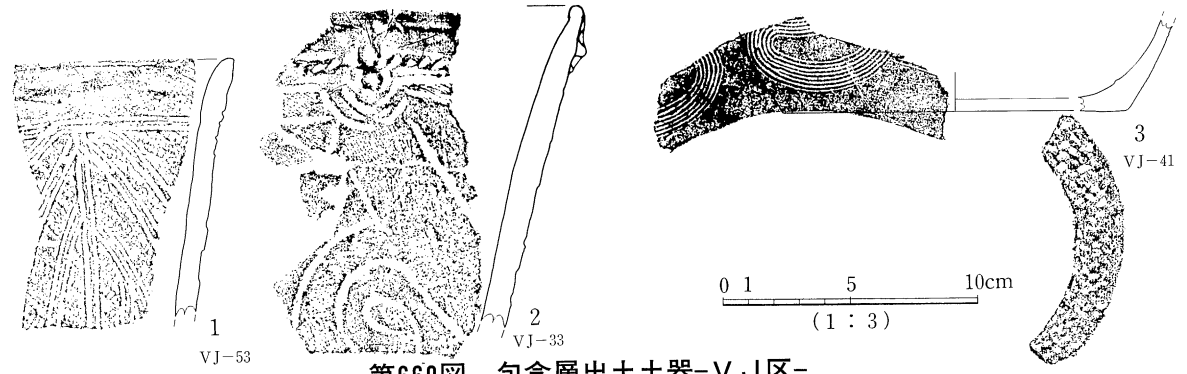
第666図　包含層出土土器−ＵＪ区−(5)



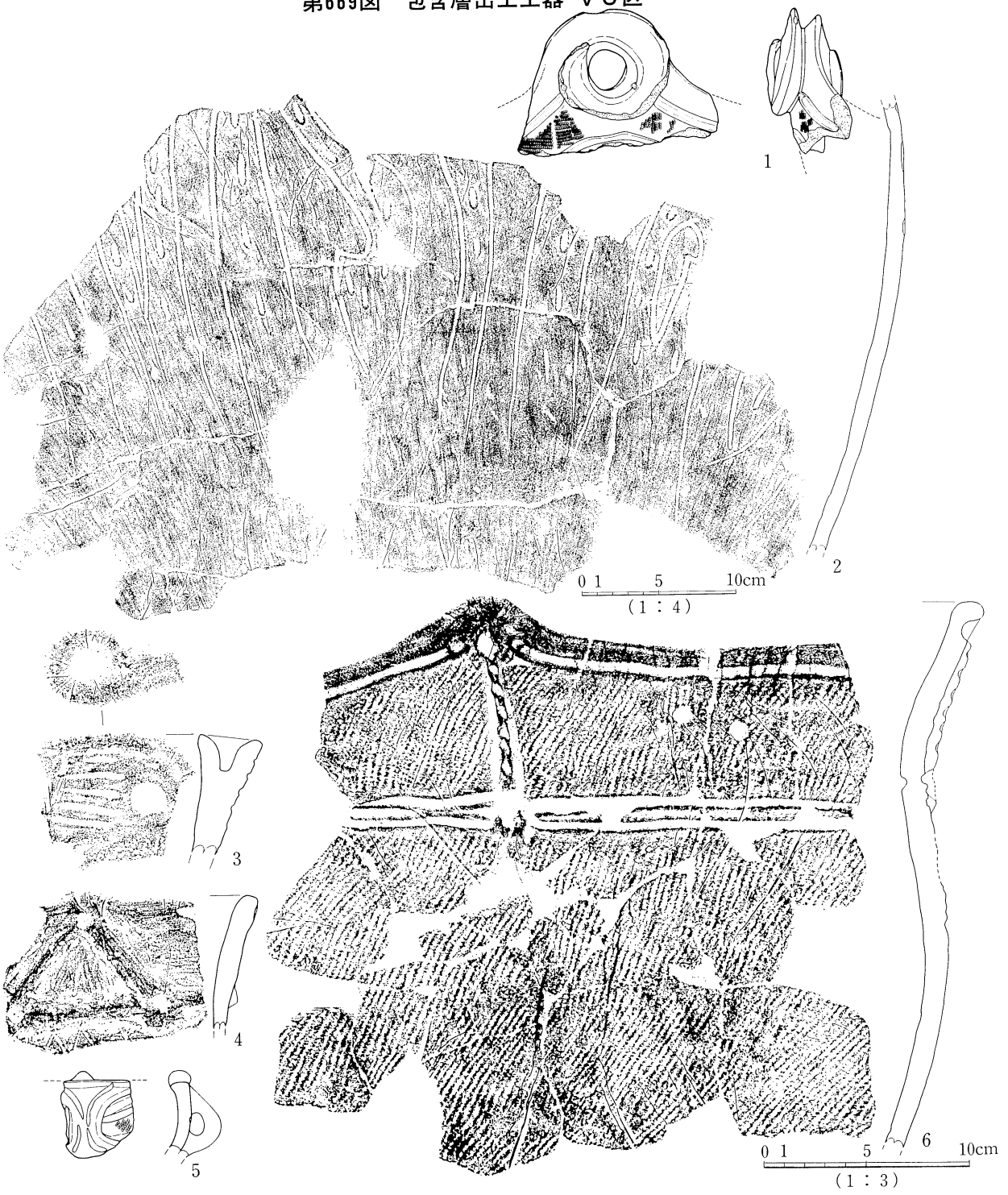
第667図　包含層出土土器-ＵＪ区-(6)



第668図　包含層出土土器−ＵＪ区−(7)



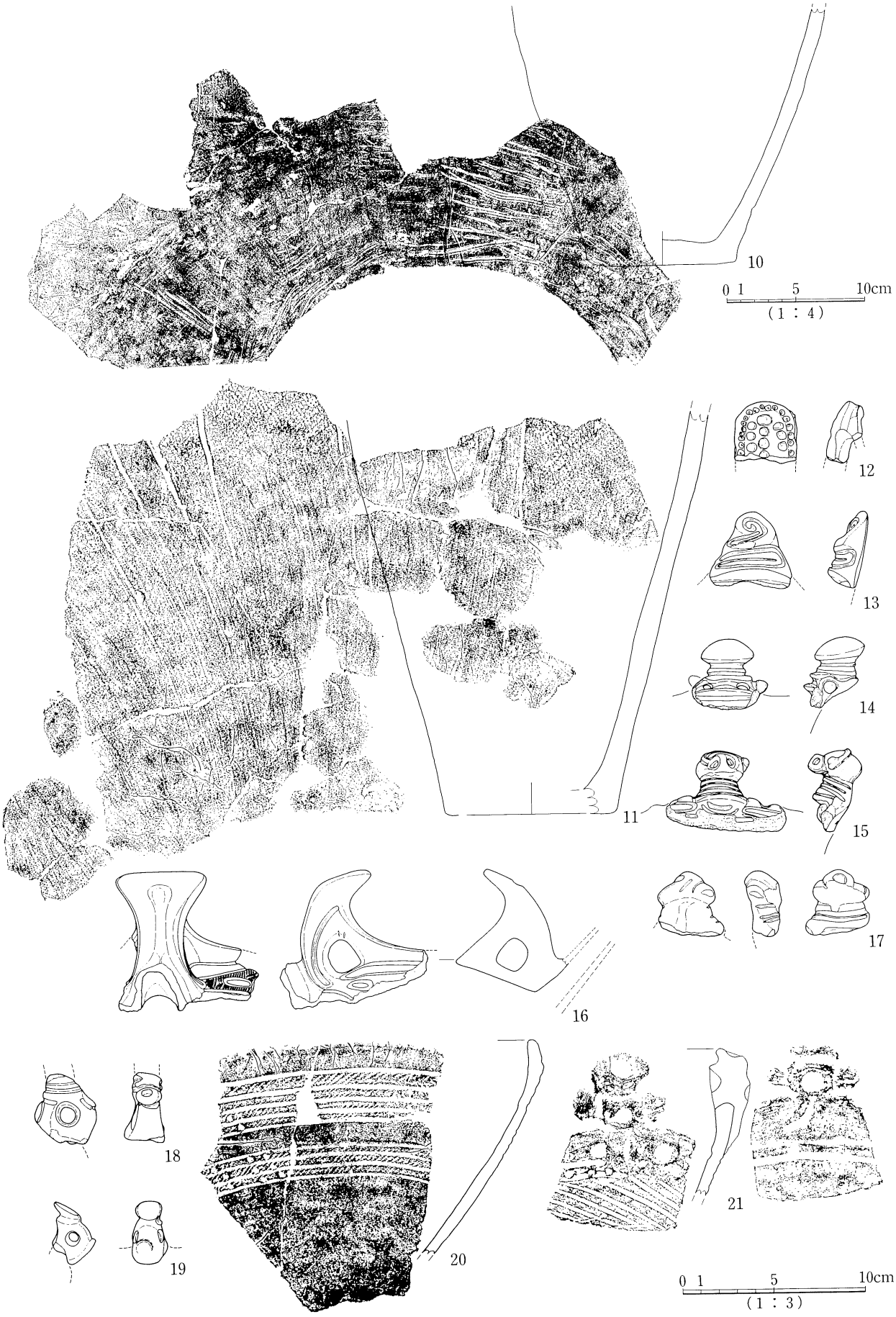
第669図　包含層出土土器－ＶＪ区－



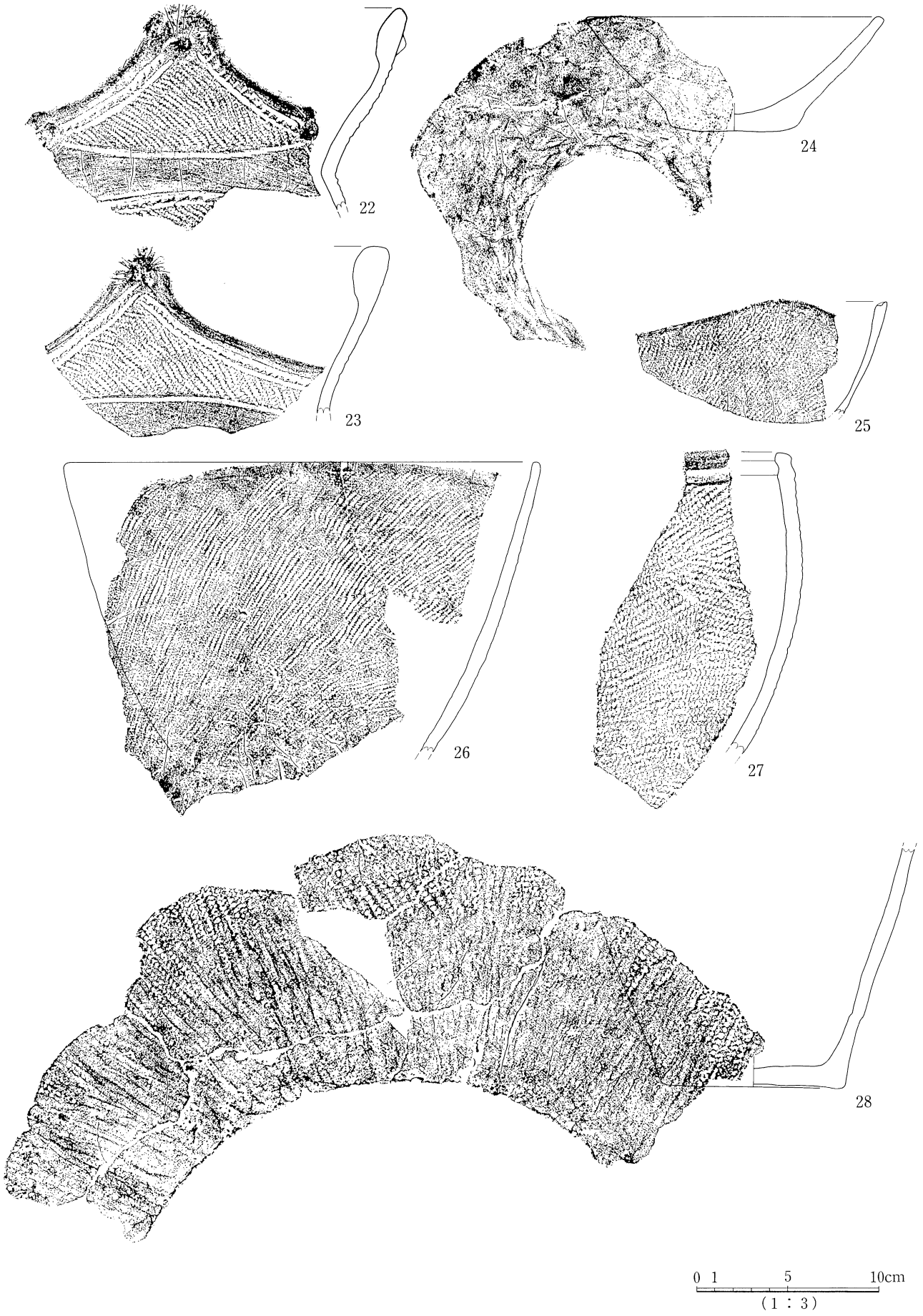
第670図　包含層出土土器－3次調査出土地区不明－(1)



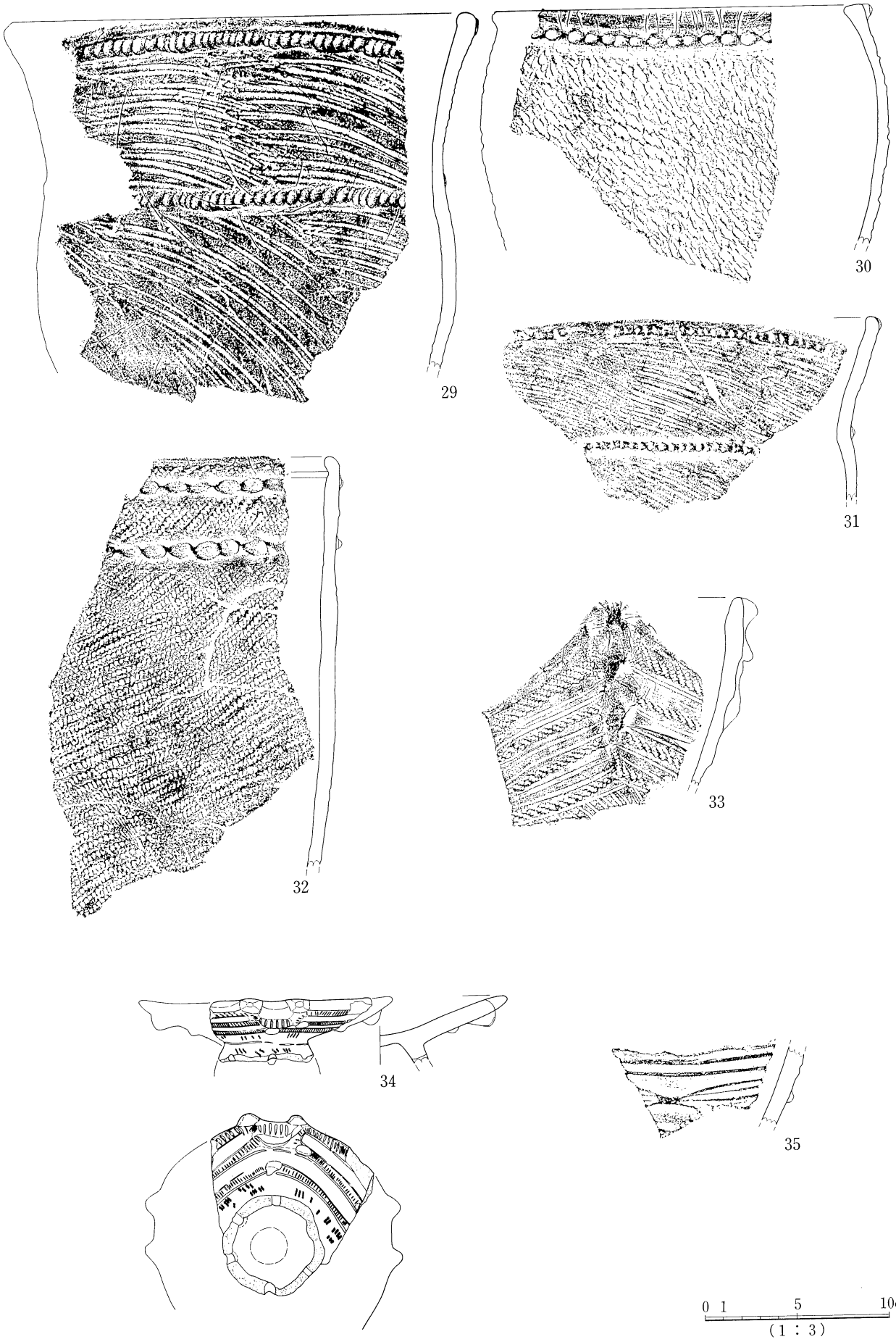
第671図　包含層出土土器-3次調査出土地区不明-(2)



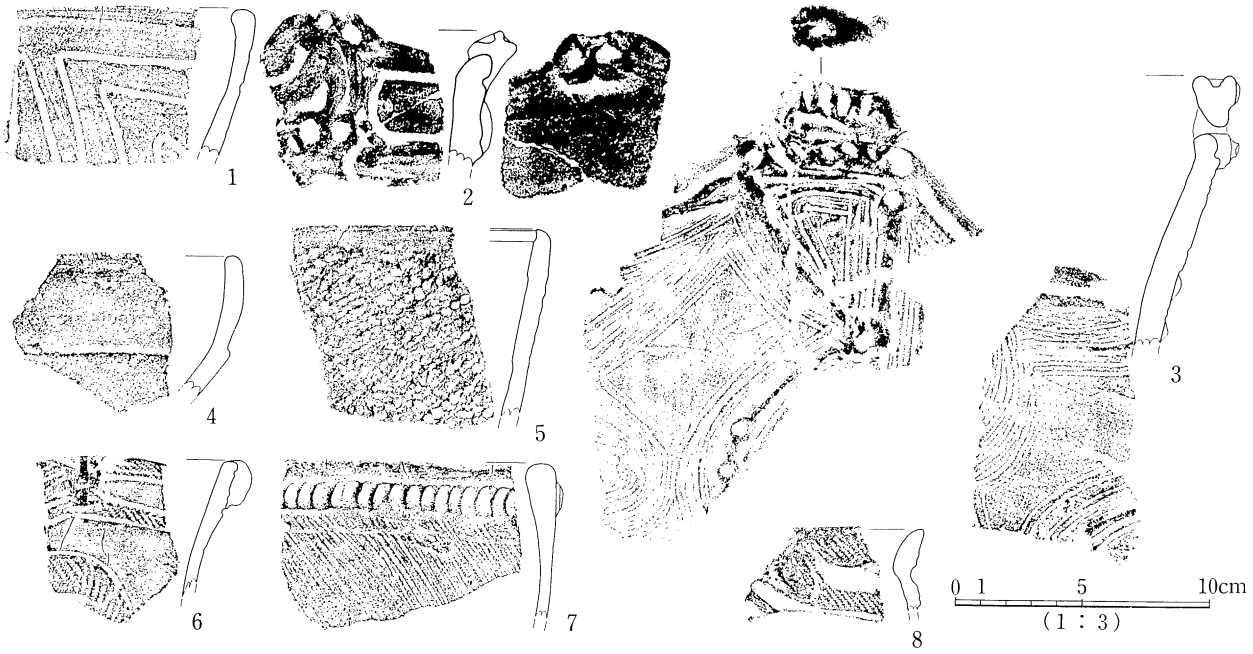
第672図　包含層出土土器-3次調査出土地区不明-(3)



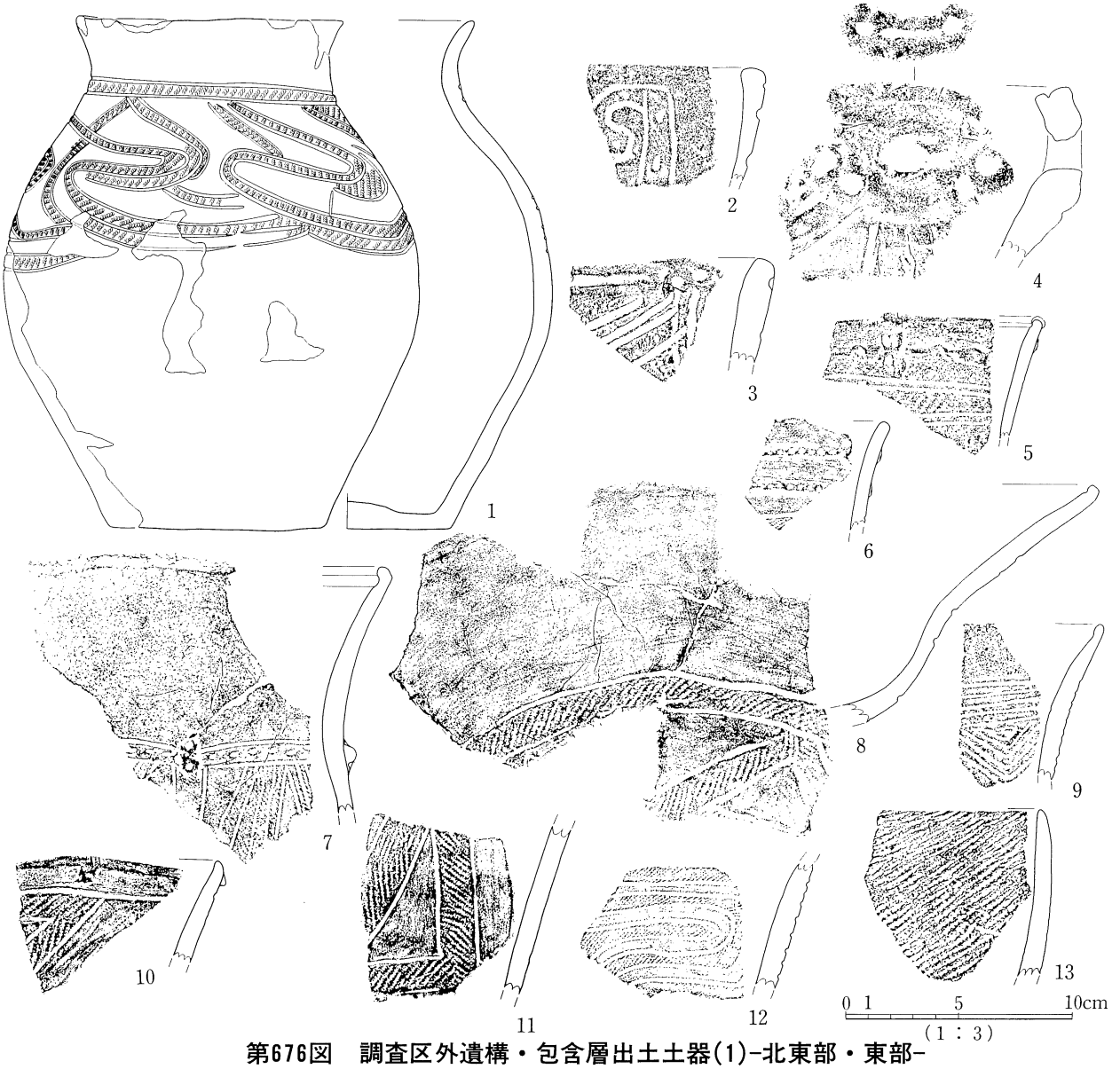
第673図　包含層出土土器-3次調査出土地区不明-(4)



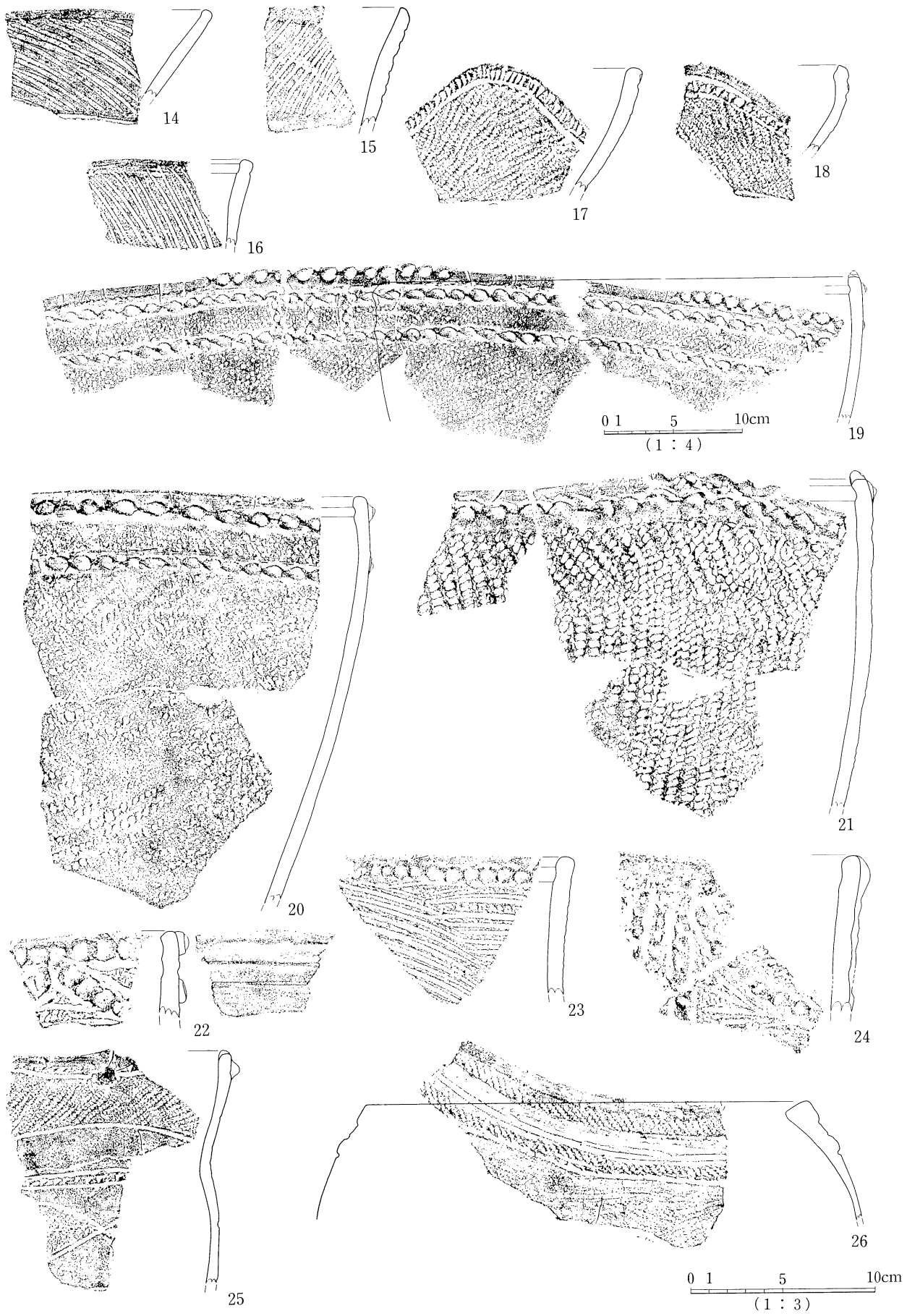
第674図　包含層出土土器-3次調査出土地区不明-(5)



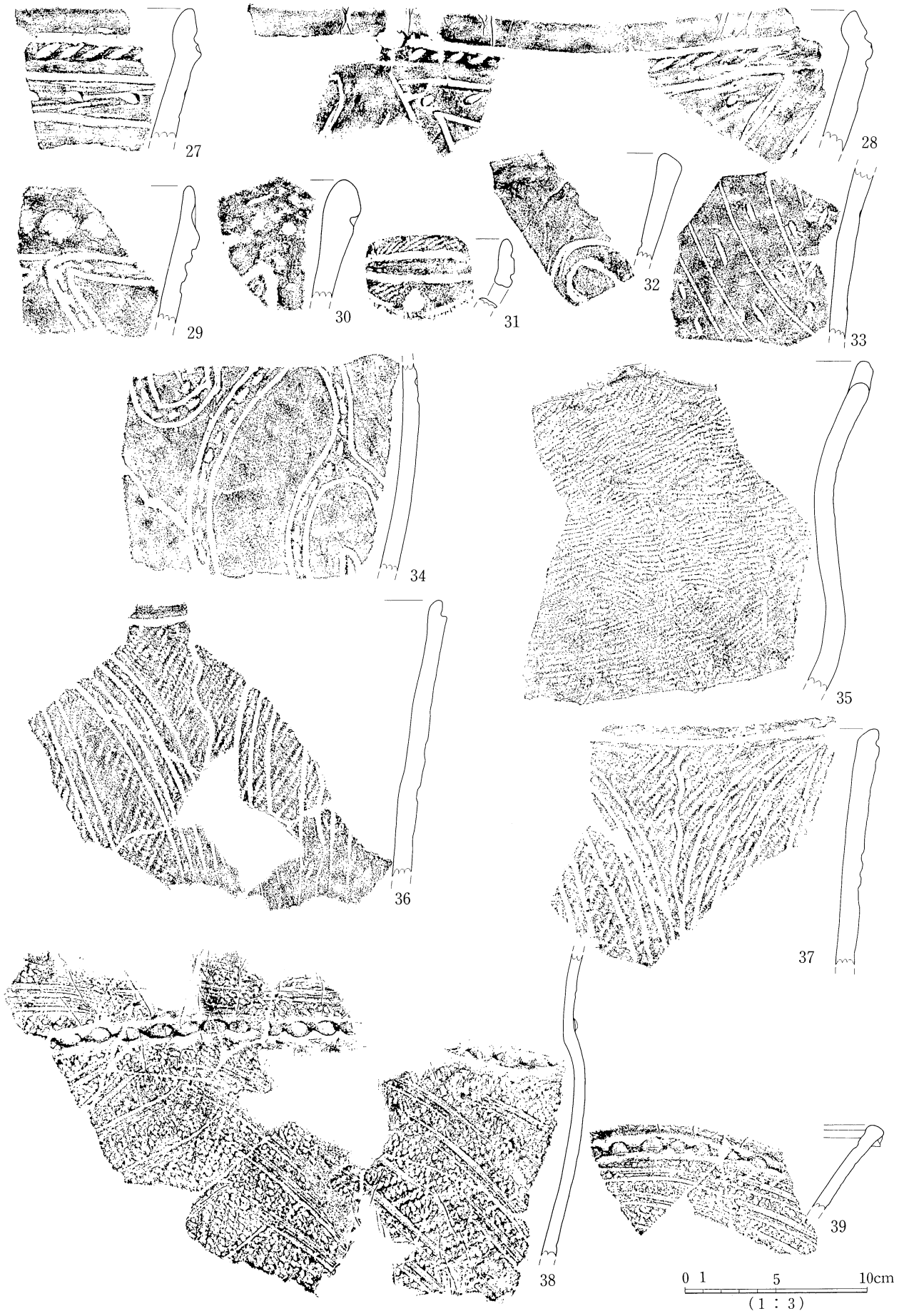
第675図　包含層出土土器−上総国分尼寺調査分　B1・B2・B3・C3・SI・SH区−



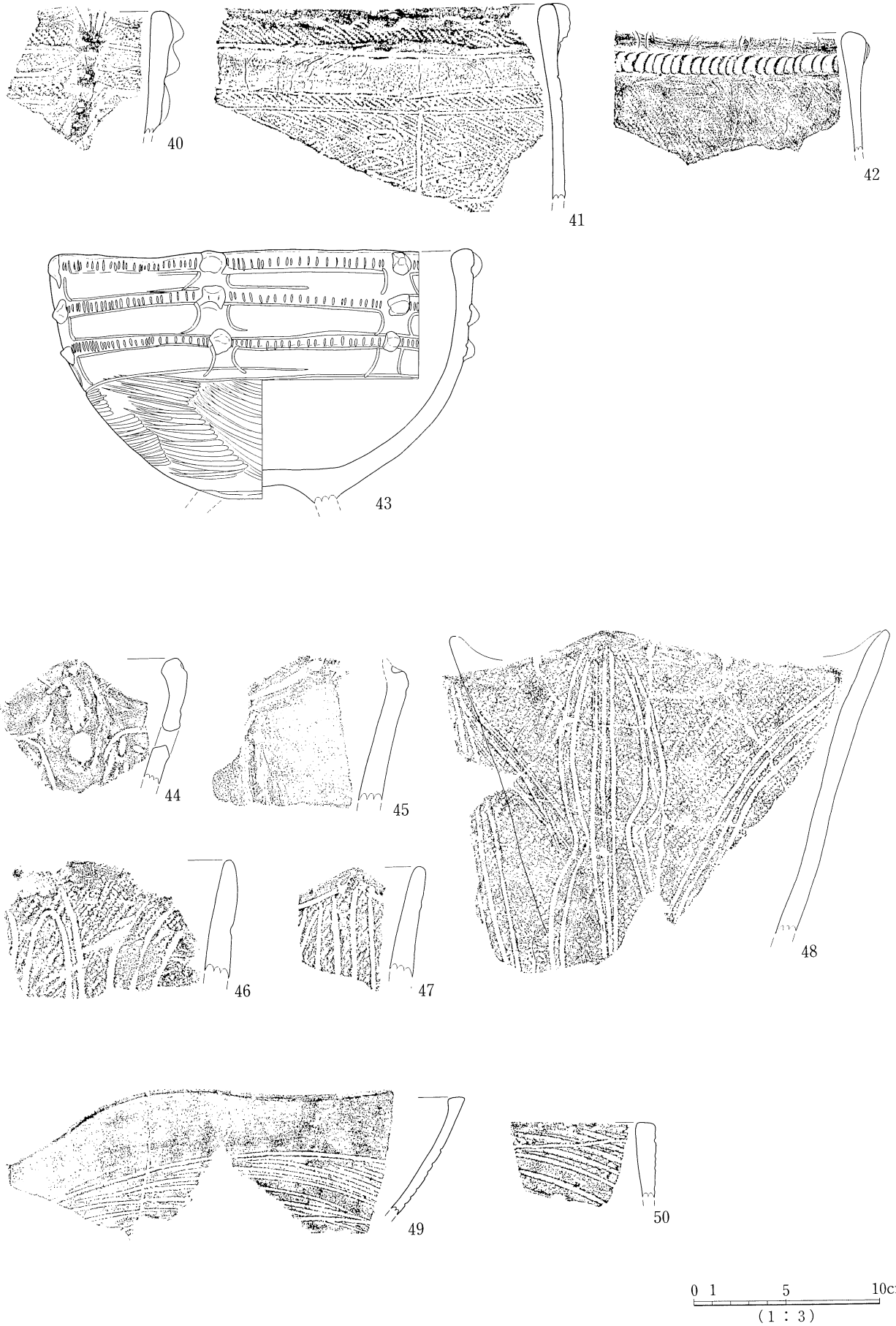
第676図　調査区外遺構・包含層出土土器(1)−北東部・東部−



第677図　調査区外遺構・包含層出土土器(2)-東部-



第678図　調査区外遺構・包含層出土土器(3)-南西部-



第679図　調査区外遺構・包含層出土土器(4)-南西部-

b　土製品

土製品としては、土玉・土錘・土器片錘・土製円盤・蓋形土製品・ミニチュア土器・釣手・香炉形土器・異形土器・手燭形土器・耳飾・腕飾・垂飾・土偶・土版・未詳土製品がある。第165表に示したように、総数890点のうち包含層中出土のものが全体の約75％の667点を占める。遺構出土のものは223点でこのうち遺構の時期の明らかなものが220点ある。土製品で最も多く出土しているのは土製円盤の423点で、土器片錘の154点、土偶の91点、釣手・香炉形土器の83点がこれに次いでいる。

土　玉（第680図、第166・179表）

総数32点出土しているが、このうち14点が遺構出土のもので弥生時代宮ノ台期２点・古墳時代前期12点となっている。包含層出土のものは18点で、形態的には球状のものが最も多く13点、管状のもの２点（３・６）、盤状のもの３点（１・２・５）である。球状のもののうち４と８には貫通孔がない。盤状のもののうち１は瓦の転用品で中央に孔をあけかけた痕跡があるが貫通していない。２・５・14がかなり大型で重量にしてそれぞれ73.5・58.4・43.2ｇを量る。これ以外は20ｇ前後である。

土　錘（第167表）

堀之内１期の19号住居の覆土中から出土した資料が１点ある(第27図－76)。最大長8.3cm・重量60.4ｇを測る。縦横２状の溝をめぐらせその交点である中央部に孔をあけようとした痕跡があるが貫通していない。

土器片錘（第680～682図、第168・178表）

総数154点出土しているが、このうち32点が遺構出土のもので称名寺５点・堀之内９点・加曽利Ｂ９点、不明・その他９点となっている。包含層出土のものは122点である。このうち完形のものは80点あり、重量は最小11.4ｇ（74）・最大73.7ｇ（82）・平均32.5ｇである。

土製円盤（第682～687図、第169・180表）

総数423点出土しているが、このうち74点が遺構出土のもので堀之内７点・加曽利Ｂ19点・曽谷・安行1・2 29点・後～晩期７点・その他12点となっている。包含層出土のものは349点である。このうち完形のものは260点あり、最大のものは長径6.7cm・重量53.8ｇ（145)、(一部欠損するもので長径9.1cm・重量70.8ｇのものがある（244))、最小のものは長径1.8cm・重量2.9ｇ（353)、平均長径4.2cm・重量16.6ｇである。

蓋形土製品（第687・688図、第181表）

総数７点出土しており全て包含層出土のものである。完形のものはないが、残存部位からの計測値によると径は、490が9.0cm・491が5.2cm・492が9.8cm・493が5.9cm・494は推定9.9cm・495が7.5cm・496が8.6cmである。形態的には全ての資料が中央部にアーチ状の把手をもつもので、493は把手と垂直方向に２箇所の穿孔を有し、492には沈線による文様と把手と垂直方向・水平方向に４箇所の穿孔がみられる。

ミニチュア土器（第688図、第170・182表）

総数13点出土しているが、このうち６点が遺構出土のもので称名寺１点・堀之内１点・弥生４点となっている。称名寺期のものは、堀之内期の８号住居の床下から検出された71号土坑の覆土中から出土したものである。小型の注口土器で、最大径8.0cm・器高7.0cmを測る球形状を呈する。注口先端は

口唇部より若干高くなり、左右には紐かけ状の突出部が2個上下に並んで付けられている。文様は前後に逆U字形の指押しによると思われる幅1cmほどの隆帯状の文様をつけている。全体的に黒色を呈す。表面は部分的に皮が剝げるように欠落している所もある（第201図－1）。堀之内期のものは8号住居の出入口部土坑の覆土中から出土した。最大径6.0cm・器高8.6cmを測る深鉢もしくは壺形を呈する土器である（第14図－1）。包含層出土のものは7点である。浅鉢もしくはわん状のもの4点（497・498・499・500）と深鉢もしくは壺形のもの3点（501・502・503）である。

釣手・香炉形土器（第688～690図、第171・183表）

釣手もしくは香炉形土器の主として把手部分の破片が総数83点出土しているが、このうち40点が遺構出土のもので堀之内1点・加曽利B20点・曽谷・安行1・2 12点・後～晩期1点・その他6点となっている。このうち加曽利B期の50号住居覆土出土の釣手土器（第158図－631）、安行1・2期の41号住居床面付近出土の香炉形土器（第76図－57）は完形に近い好資料である。包含層出土のものは43点である。

異形土器（第690・691図、第172・184表）

総数22点出土しているが、このうち9点が遺構出土のもので曽谷・安行1・2 6点・後～晩期1点・その他2点となっている。このうち曽谷期の49A・49B号住居床面から各1点づつ出土した資料（第116図－70・第119図－35）は49A号のものが完形、49B号のものが一部を欠損するが全体のかたちを復元しうる好資料である。49A号のものは器高12.2cm・胴部最大径12.0cm・最大口径9.1cm・台部下端最大径7.2cmを測る。全く文様がなく、一見粗雑な感じを受ける。49B号は、口縁部と台部の一部および貼瘤の1個が欠けている。全面が赤彩されており、口縁部の内側やラッパ状突出部の内面にも及ぶ。器高17.1cm・胴部最大径17.2cm・台部下端最大径8.4cmを測る。安行1・2期の46号住居床面付近出土の資料（第104図－92）は、口縁部と台部を欠く胴部最大径11.6cmを測る資料である。後～晩期の48号住居覆土出土の資料（第113図－63）は、台部を欠く胴部最大径7.2cmを測るラッパ状突出部をもたないタイプの資料である。包含層出土のものは22点である。このうち545は、口縁部とラッパ状突出部の1つを欠く残存器高8.6cm・胴部最大径7.8cm・台部下端最大径6.3cmを測る資料である。また、547と555は口縁部と台部を欠くラッパ状突出部を持たないタイプの資料で、胴部最大径はそれぞれ8.6cm・11.4cmを測る。

手燭形土器（第691図－556・557、第185表）

包含層から2点出土している。いずれも持ち手の部分を欠く破片資料である。556には表裏面に沈線による入り組み文がみられそれらの間を縄文で埋めている。557にも表裏面に沈線文とその間を埋める縄文がみられる。2点の資料とも周縁部に刻み目がみられ、556の皿状の器部の側壁には4箇所穿孔が施される。

耳　飾（第691・692図、第173・186表）

総数53点出土しているが、このうち24点が遺構出土のもので称名寺1点・加曽利B 7点・安行1・2 4点・後～晩期10点・不明2点となっている。称名寺期の2号住居覆土出土の資料（第7図－5）は、直径1.4cm・厚さ1.1cmを測る小型の臼形の耳栓状のものである。加曽利B期の34号住居覆土出土の資料（第64図－51）は、直径0.9cm・厚さ1.2cmを測る小型の耳栓状のものであり赤彩が認められる。加曽利B期の37号住居覆土出土の資料（第67図－9）は直径1.9cm・厚さ1.6cmを測る小型の耳栓状のも

のであるが中央に孔があり赤彩が認められる。加曽利B期の50号住居からは3点の耳飾が出土しているがこのうちの柱穴覆土から出土した1点（第157図－615）は、直径推定6.6cm・厚さ1.8cmを測る中央で交差するアーチを有する環状の資料である。また、覆土中出土の1点（第158図－653）は、直径1.8cm・厚さ0.9cmを測る小型の臼形の耳栓状のものであり、一部に赤彩の痕跡が認められる。安行1・2期の46号住居覆土からは2点の耳飾が出土しているがこのうちの1点（第104図－94）は直径4.3cm・厚さ1.6cmを測る無孔の完形品で、器体周縁部および中央部付近に円形に細かい刻み目が施され赤彩の痕跡も認められる。安行2期の241号土坑覆土出土の資料（第223図－9）は、直径1.4cm・厚さ1.1cmを測る小型の臼形の耳栓状のものであり、一部に赤彩の痕跡が認められる。後～晩期の40号住居からは3点の耳飾が出土しているが、このうち床面付近から出土した資料（第72図－57）は直径5.3cm・厚さ1.9cmを測るもので、中央の孔を中心に3状一組の沈線文が十字状に配置される。

包含層出土のものは29点である。形態的には、小型の臼形の耳栓状のもの3点（558・574・579）・厚手環状のもの5点（563・568・575・577・582）・薄手環状のもの13点（559・562・565・566・569・570・572・576・578・580・581・583・585）・中央で交差するアーチを有する環状のもの8点（560・561・564・567・571・573・584・586）がみられる。

腕　飾（第692図－587、第187表）

破片資料であるため全体の大きさ・形状は不明確である。一見耳飾に似るが、断面の向きが内側に傾きこれらとは区別できる。二枚貝製の貝輪の断面形状と類似するため、本資料は土製の腕輪の可能性があるものとして扱っておきたい。類例は栃木県藤岡町藤岡神社遺跡・小山市寺野東遺跡などにみられる（栃木県教育委員会　寺野東遺跡Ⅴ　栃木県埋蔵文化財調査報告　第200集　1997・小山市立博物館第33回企画展　縄文時代の自然と祈り　1995）。

垂　飾（第692図－588・589、第174・188表）

安行1・2期の46号住居覆土中から1点（第104図－93）、堀之内期の116号土坑中から1点（第207図－18）、包含層中から2点出土している。4点はそれぞれ形態が異なる。46号住居のものは円形で2孔を有し、形態的には蓋形土製品にも似るが大きさの点で難があるため垂飾として扱った。116号土坑の資料は完形品で全面赤彩されてる。形態的には鹿角を素材としたものに類似品がある。588は叉状もしくはY字状を呈する完形品で、中央に小孔があけられ3本の突出部のうちの2本に一条の溝が施される。また溝の無い1本の突出部には中央の孔と垂直方向に小孔があけられている。589は、いわゆるスタンプ形土製品である。印面にあたる平坦部に渦巻き状の沈線文がみられ、柄の部分には柄と垂直方向に小孔が施されこの部分で破損している。スタンプ形土製品の用途は不明とされているが、本資料には紐通し用とみられる孔があることから垂飾として扱った。

土　偶（第692～695図、第175・190表）

総数91点出土しているが、このうち19点が遺構出土のもので堀之内2点・加曽利B8点・曽谷・安行1・2　3点・後～晩期2点・その他4点となっている。堀之内1期の55号遺構覆土中から出土した資料（第186図－14）は、胴の部分とみられるもので腹面・背面ともに2条一組の縦方向の沈線内に連続する細かな刺突文をめぐらせている。堀之内2期の75号貝層から出土した資料（第459図－27）は、いわゆる筒形土偶の顔の部分とみられる。加曽利B期の住居からは8点の出土資料がある。31号住居覆土中から出土した資料（第57図－65）は、右腕の部分の破片であり、全面に赤彩がみられる。42号住

居床面付近からは２点出土しているが、このうちの１点（第89図－319）は足の部分の破片、もう１点（第89図－320）は腕の部分の破片とみられる。47号住居覆土中出土の資料（第109図－56）は足の部分の破片、50号住居床面出土の２点の資料（第156図－598・599）のうち598は赤彩の認められる胴の部分の破片・599は胴体部から右足の部分の破片である。51Ｂ号住居覆土からは顔の部分１点と部位のよく判らない破片１点が出土している（第178図－174・175）。曽谷期の49Ｂ号住居床面付近出土の資料（第119図－36）は右足の部分の破片である。表裏ともに２条一組の横方向の沈線内外に連続する細かな刺突文をめぐらせている。安行１・２期の41号住居床面付近からは顔の部分１点と胴体の部分の破片１点が出土している（第76図－55・56）。後～晩期の25号住居壁際から出土した資料（第36図－65）は、顔と左腕を欠くもののおよそ全体の形態を推定できるものである。全面に沈線による入り組み文が施され、表面下腹部と足の部分には刺突文もみられる。後～晩期の48号住居覆土から出土した資料（第113図－66）は右足の部分の破片である。

包含層出土のものは72点である。部位別にみると、顔の部分８点（594・597・604・623・630・653・656・661）・胴の部分および胴から腕・足の一部までのもの６点（601・602・645・651・654・657）・顔の部分とともに胴・腕・足の一部が残る比較的残存状況の良いもの５点（606・617・626・631・635）、これ以外の53点は腕もしくは足の部分の破片および胴や顔の部分の細片である。個別の資料で特徴的なものを示すと、604と617はいわゆるミミズク形土偶の顔および顔を中心とした部分の破片で、２点ともに耳飾を装着した表現がありこの部分と617ではさらに顔面の部分を限定して赤彩している（巻頭カラー７）。この他に赤彩の痕跡の認められる資料は５点ある（620・621・642・647・653）。630はいわゆる筒形土偶の顔の部分の破片、592は推定直径12cmを測る脚部の破片とみられる。635は左腕と左足のみを欠く比較的残存状況の良い資料であるが、整形・焼成ともに悪くかなり粗雑な感を受ける資料である。

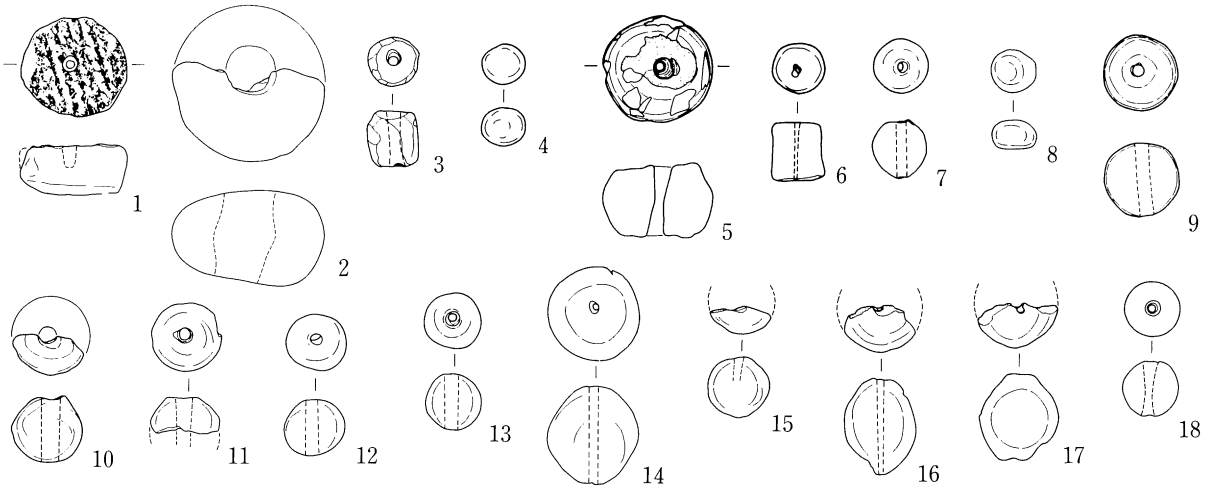
土　版（第176表）

加曽利Ｂ期の50号住居の柱穴覆土中から出土した資料（第157図－616）で、最大長6.4cm・最大幅3.4cm・最大厚2.3cmを測る楕円形を呈する板状の製品である。表裏面ともに細い沈線で文様が施されている。いわゆる土版の形態とは趣を異にするが、今回はこの名称で扱っておきたい。表面にはたくさんの亀裂がみられかなり危うい状態である。柱穴覆土にはたくさんの焼土が含まれており、その下部より本資料は出土している。２次的に焼成を受けている可能性もある。

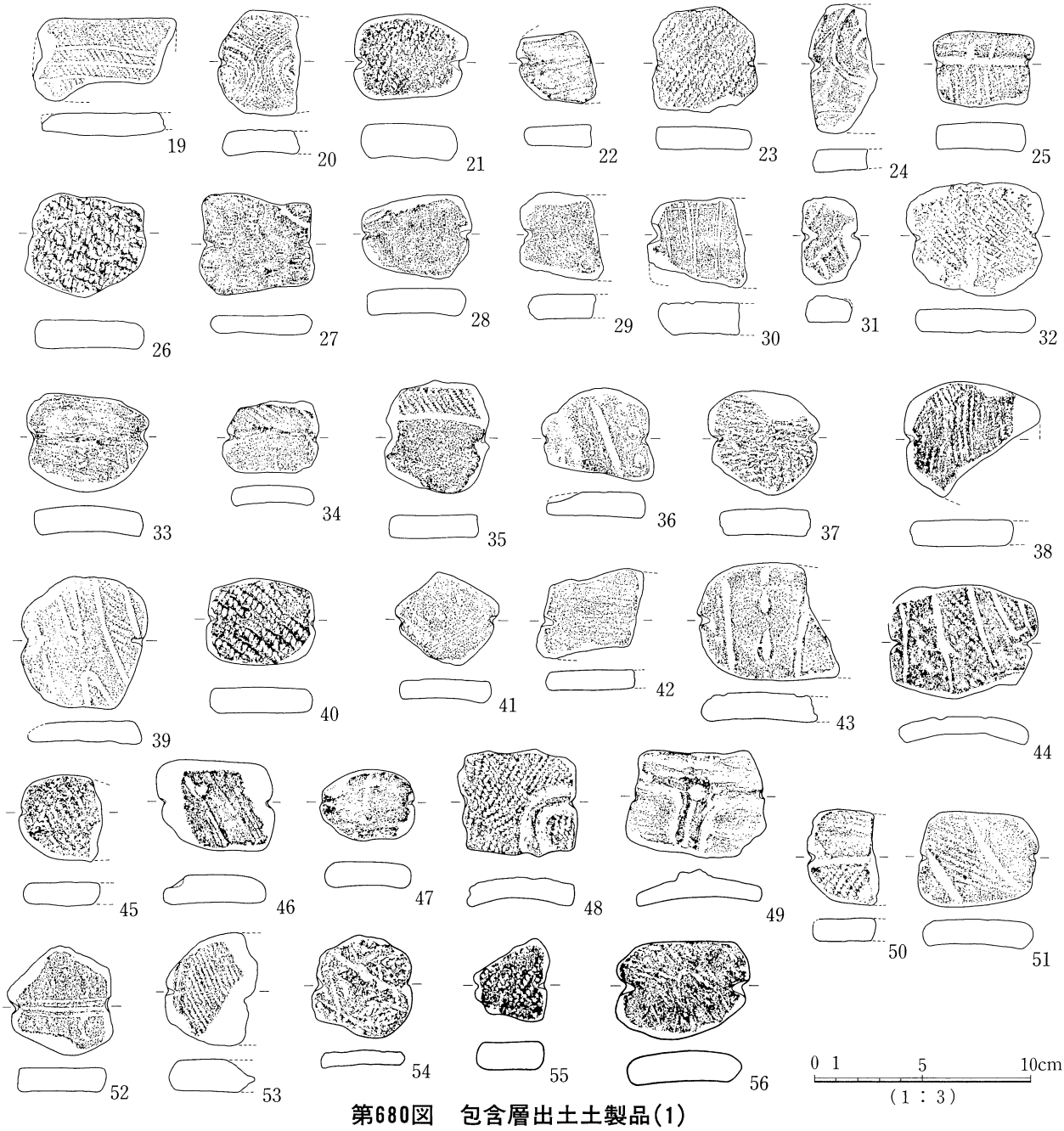
未詳土製品（第695図－662・663・第177・189表）

堀之内１期の55号遺構覆土中より出土した資料（第186図－15）は残存長6.1cm・幅3.6cm・厚さ2.2cmを測り、表裏面には細い沈線による文様が施される。表面上方に２個一対の小さな突起がみられる。表裏面に沈線による文様がみられるものの前述の土版と分類した資料のように板状ではないので未詳品として扱っておきたい。この他に包含層中から２点の製品が出土している。662は残存長5.1cmを測る歪な球状の製品で横方向に一条の浅い沈線がみられる。663は最大長3.2cmを測る完形の製品で、断面形は台形を呈する。裏面は指頭を使って整形しており、指紋が残されている。各辺はかなり鋭利で焼成も良い。

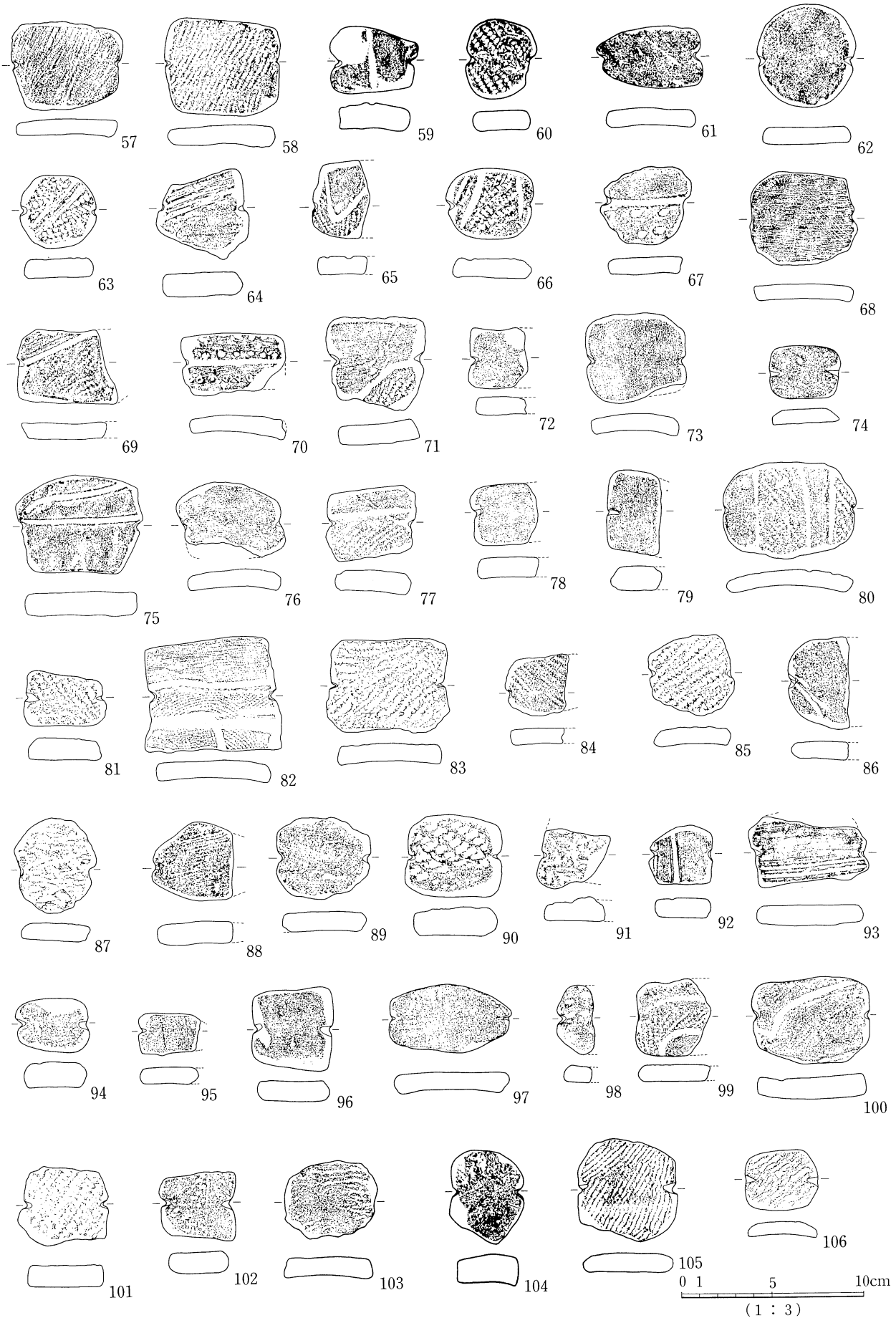
土　玉



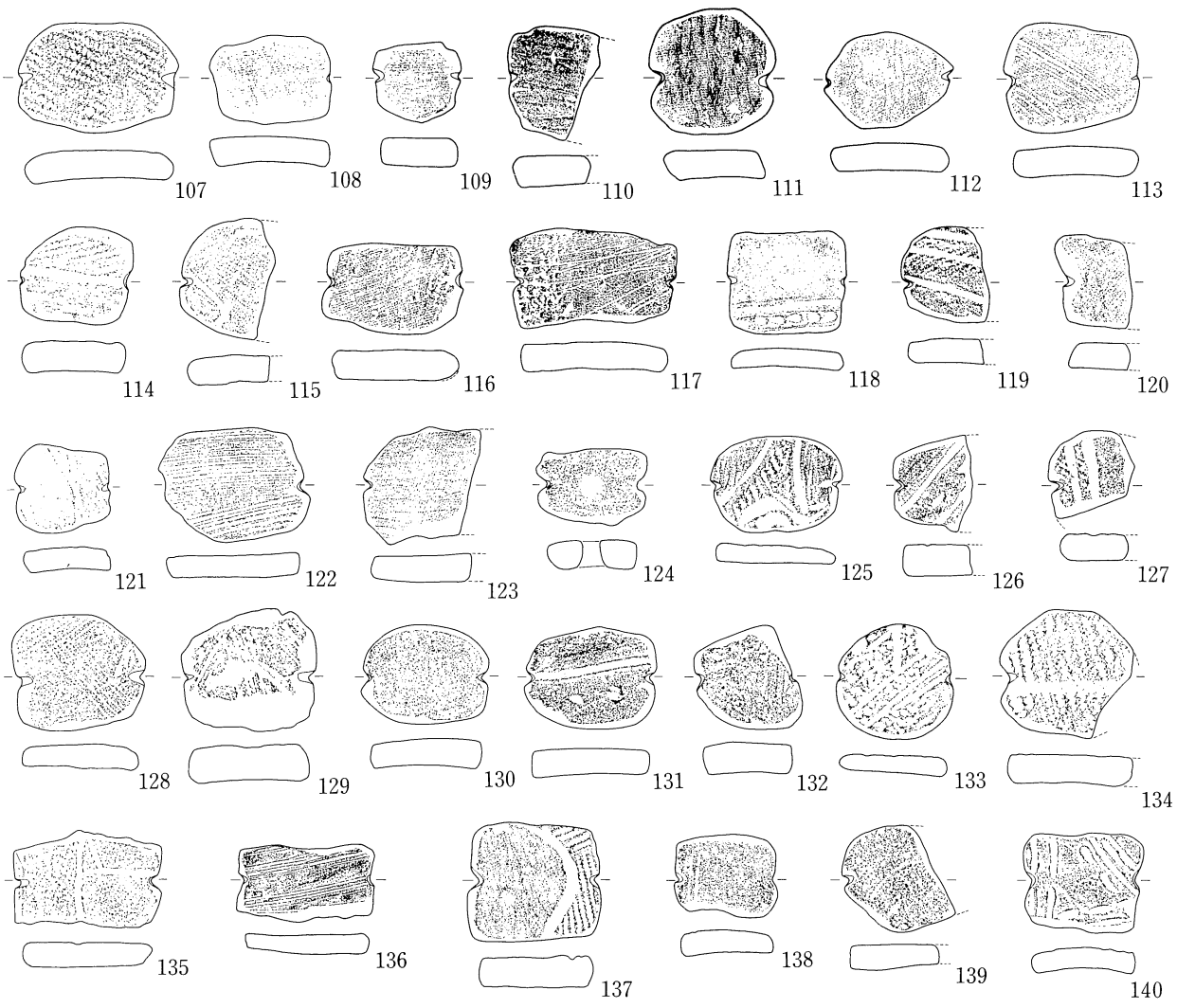
土器片錘



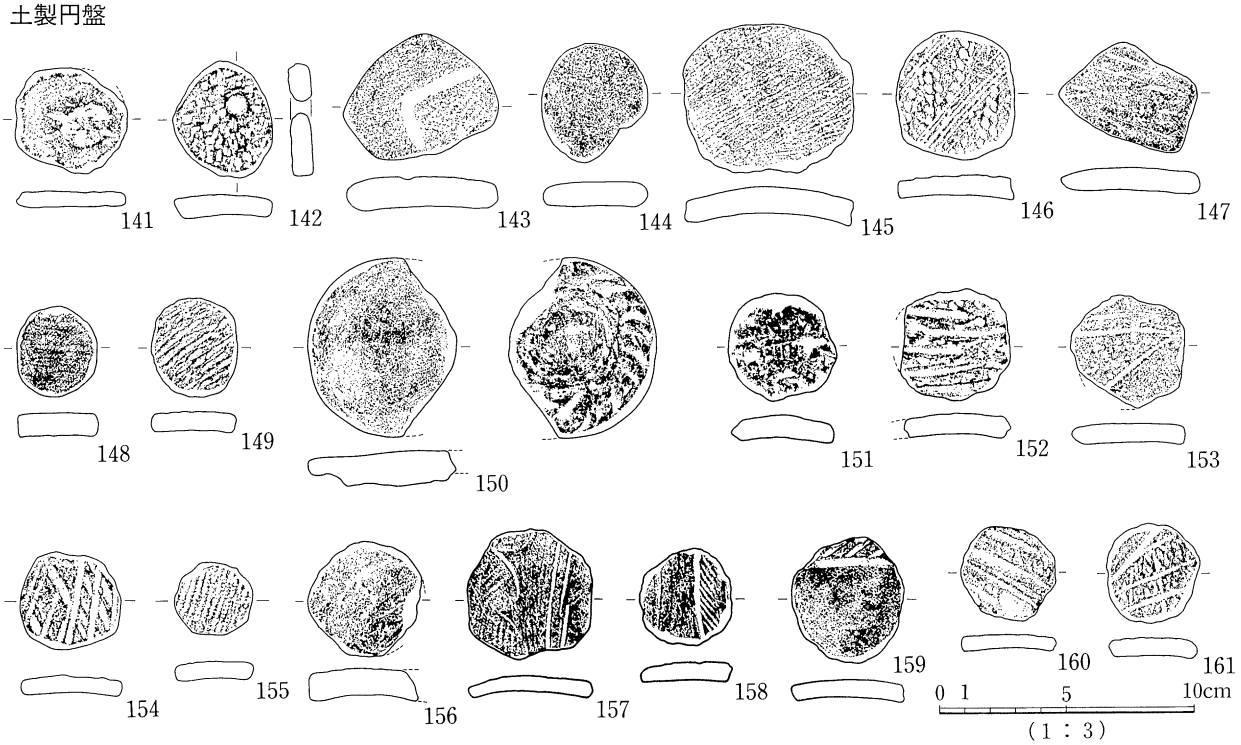
第680図　包含層出土土製品(1)



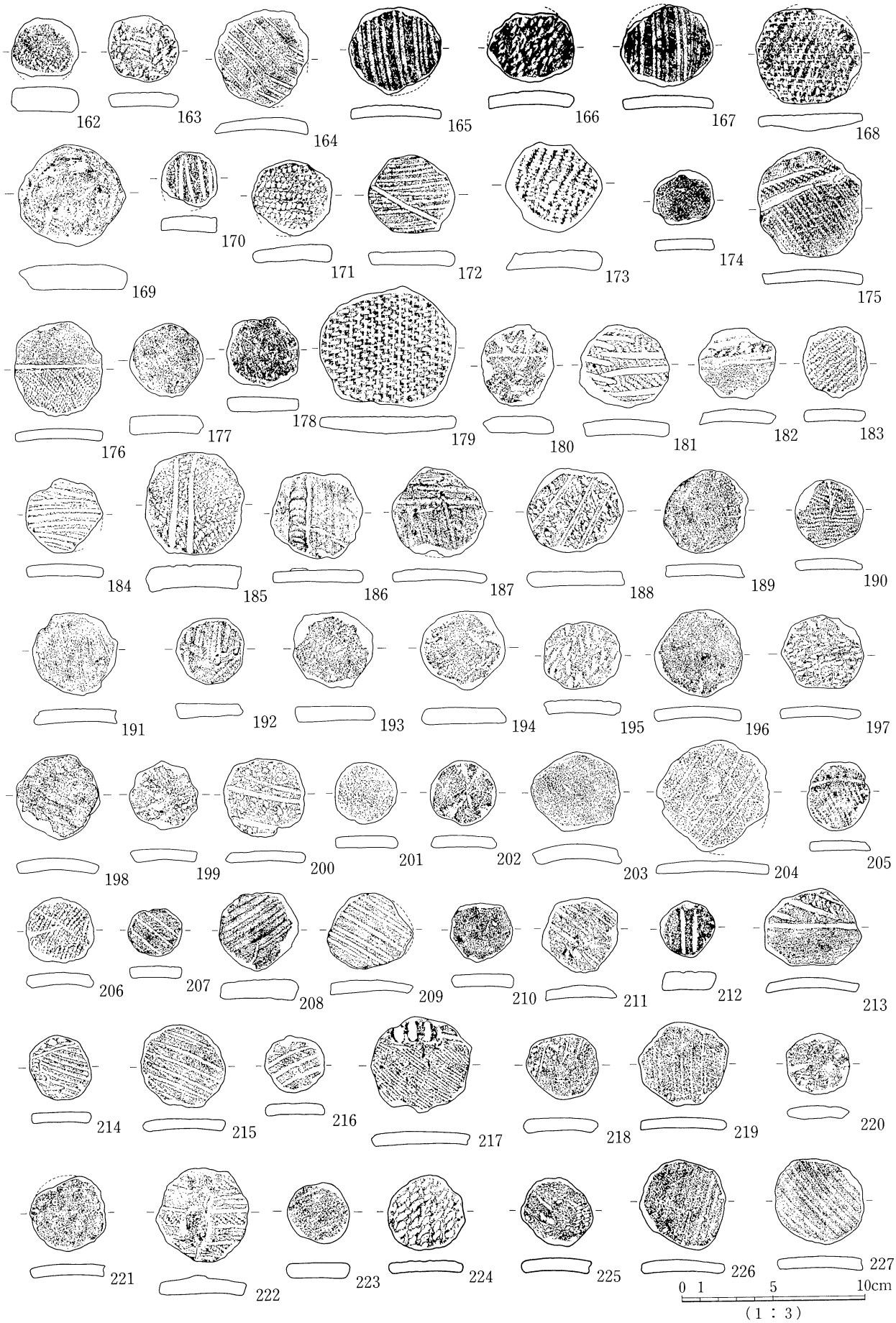
第681図　包含層出土土製品(2)



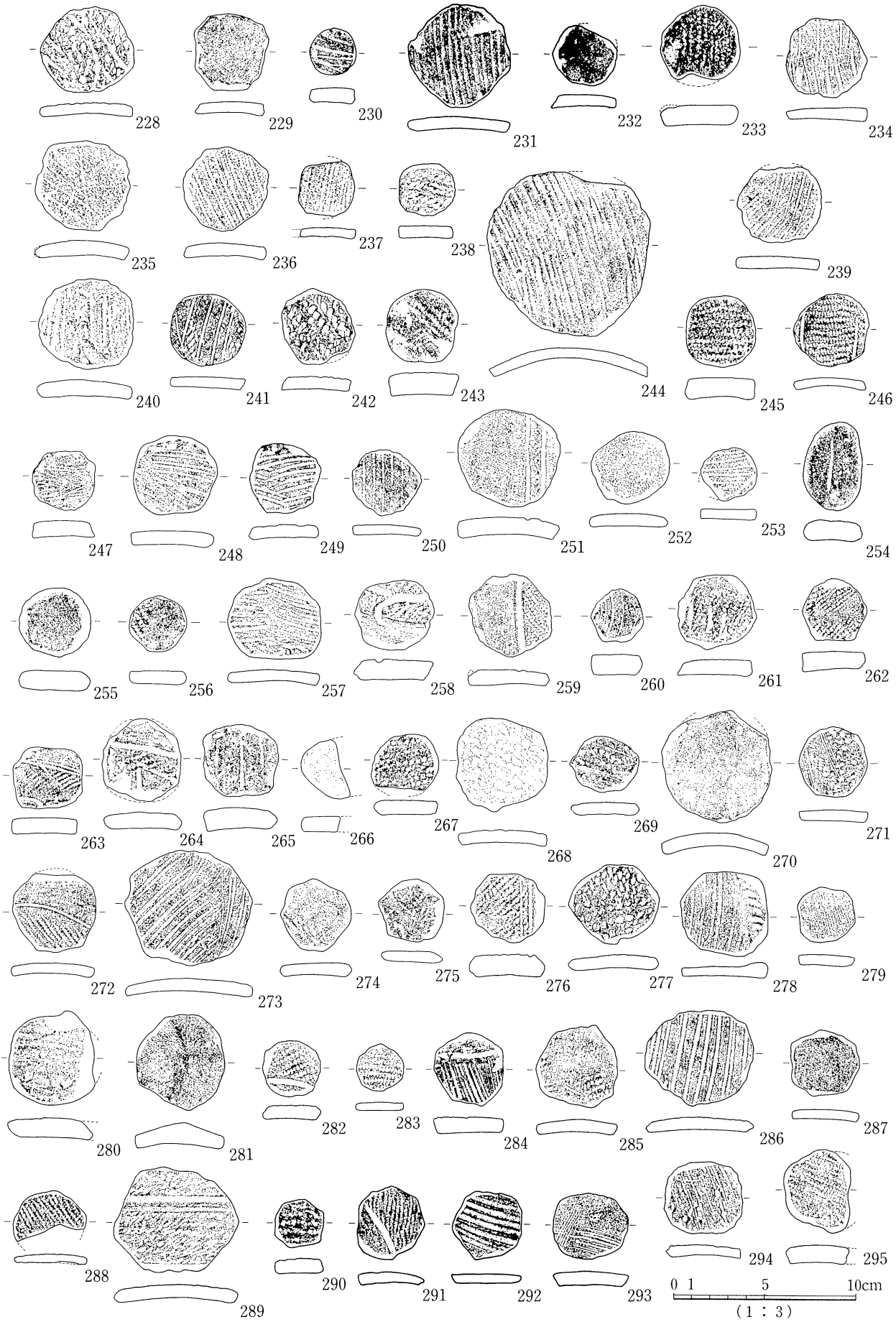
土製円盤



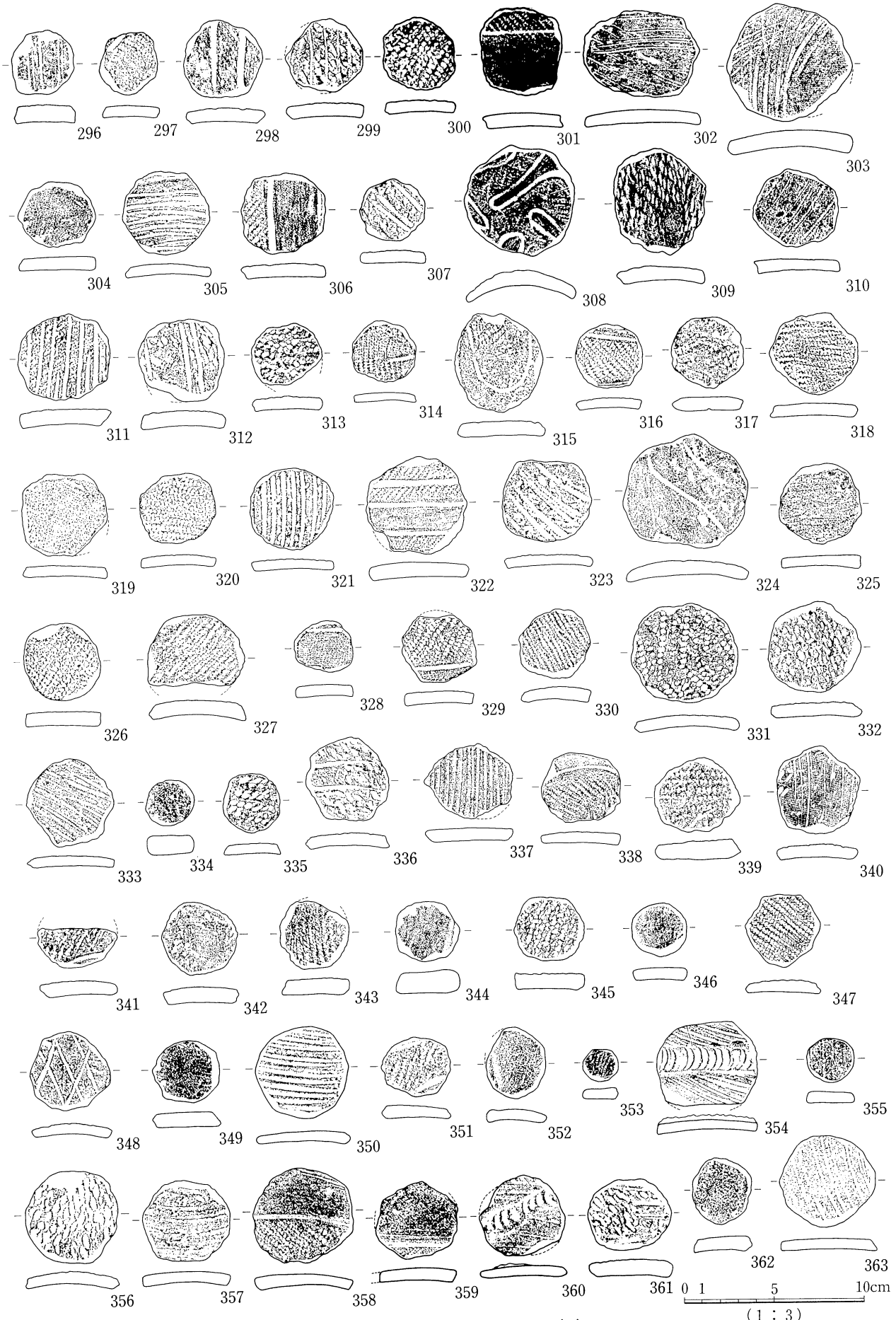
第682図　包含層出土土製品(3)



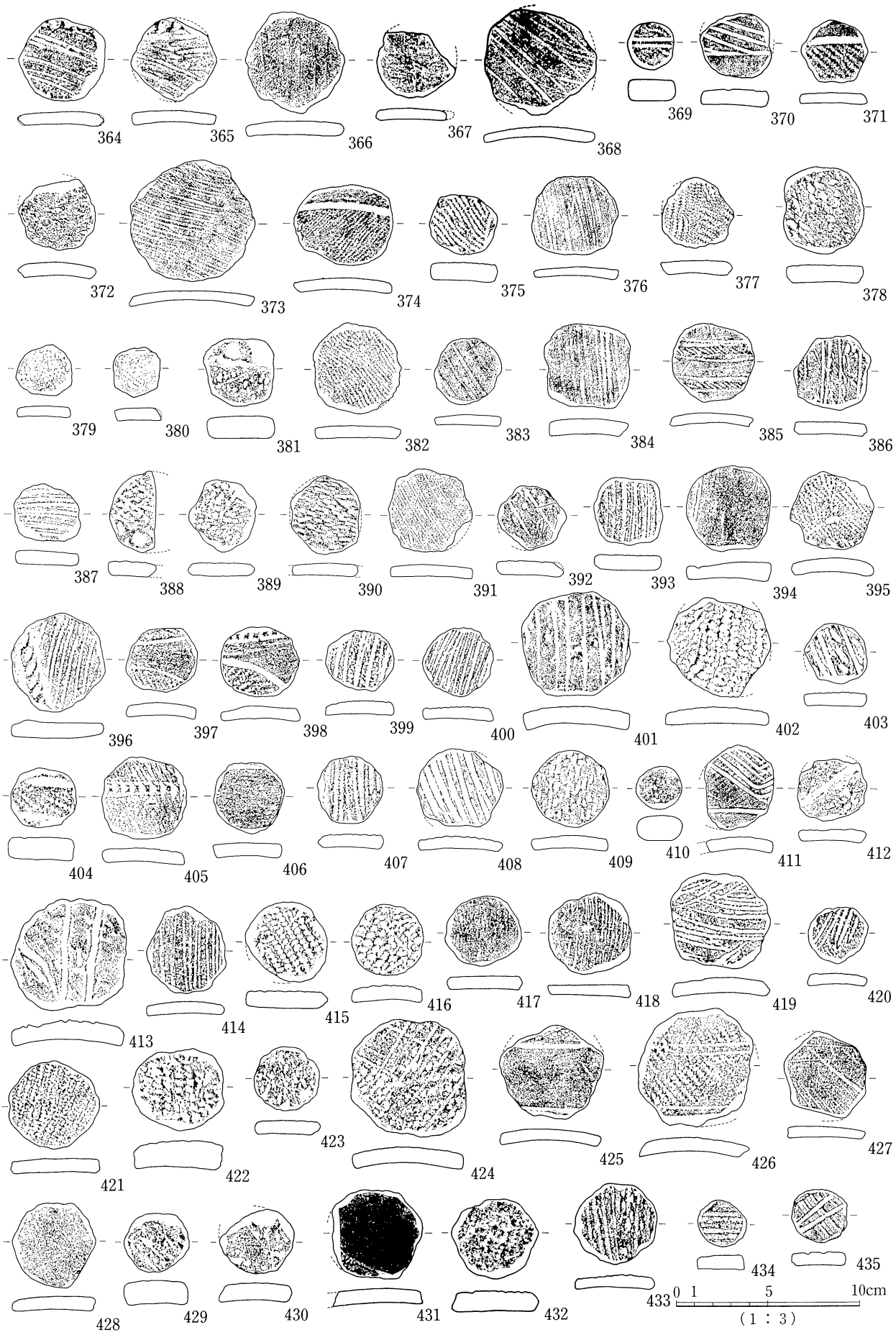
第683図　包含層出土土製品(4)



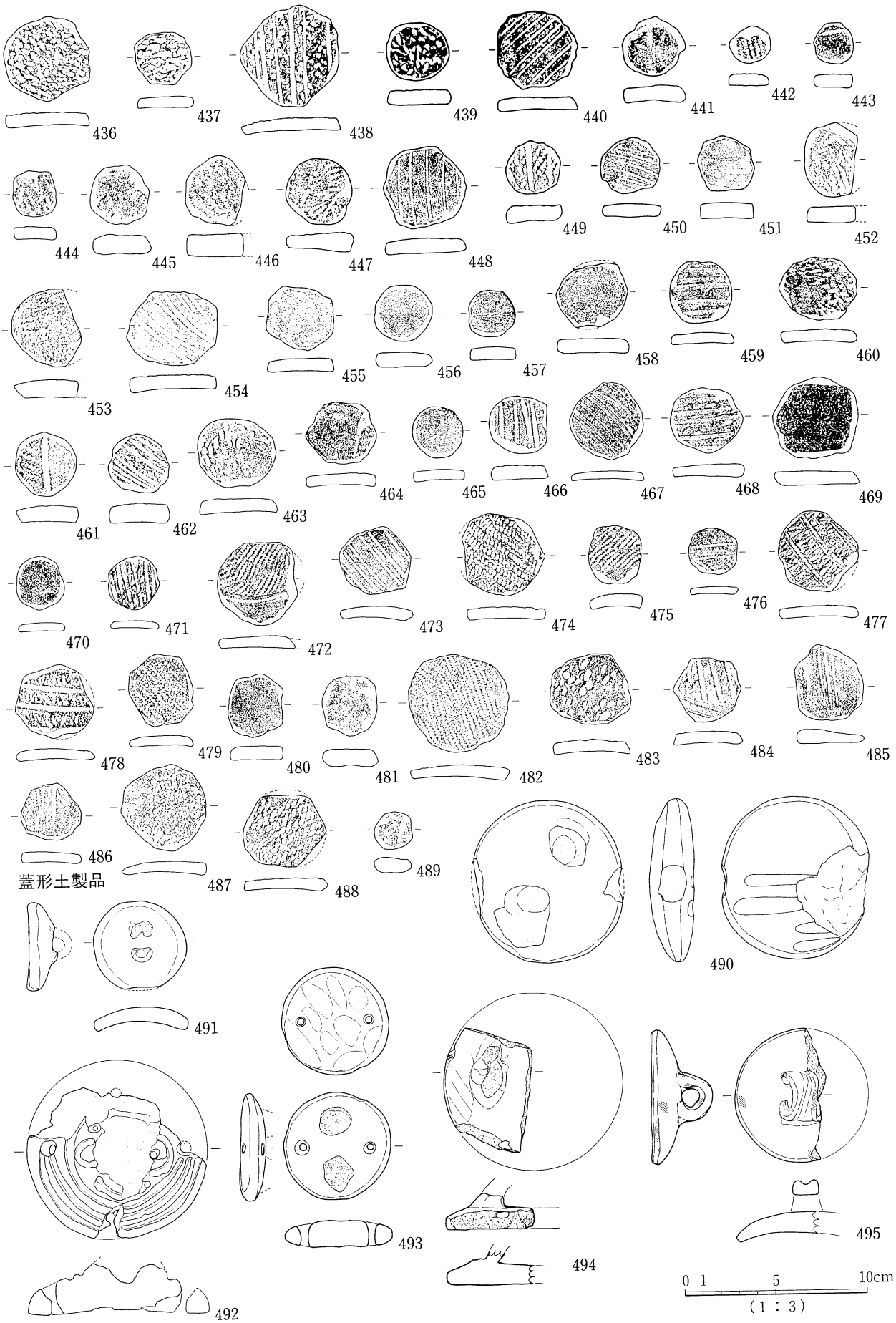
第684図　包含層出土土製品(5)



第685図　包含層出土土製品(6)

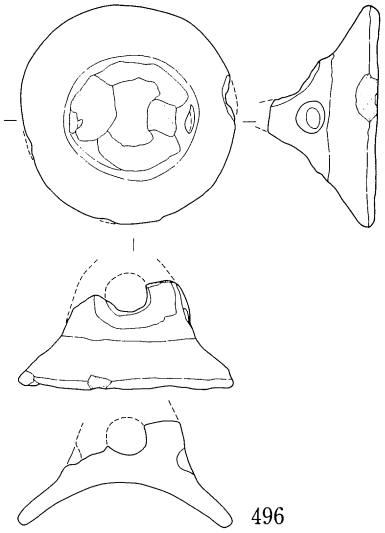


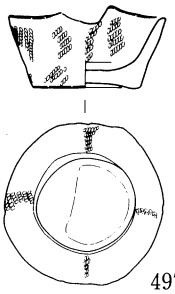
第686図　包含層出土土製品(7)

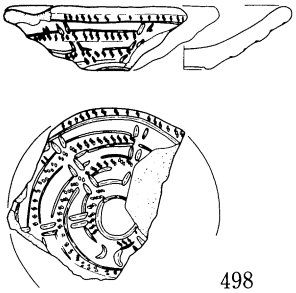


第687図　包含層出土土製品(8)

ミニチュア土器

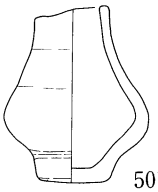

496


497

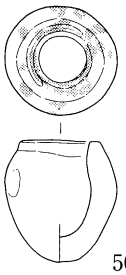

498


499

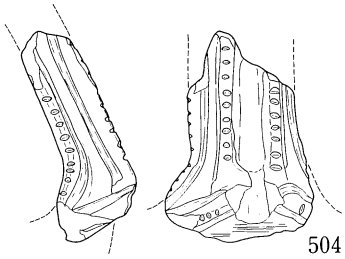

500

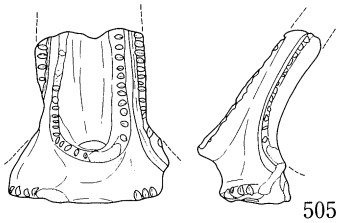

501

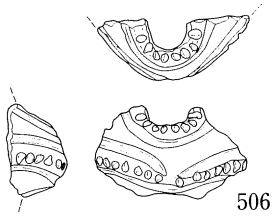

502

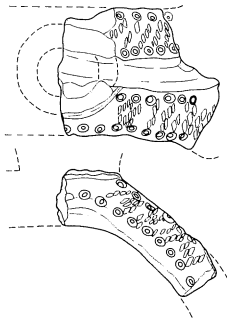

503

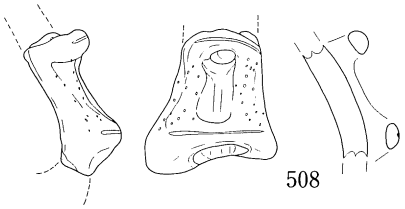
吊手・香炉形土器

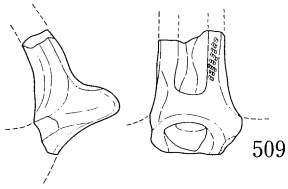

504

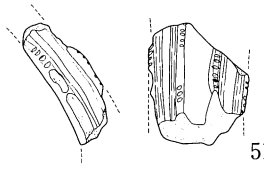

505

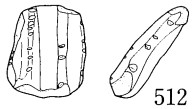

506

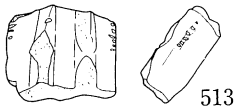

507

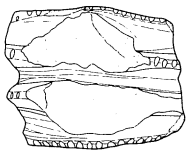

508

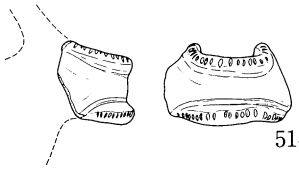

509

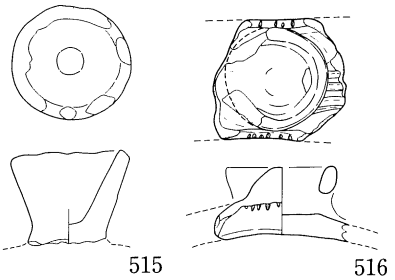

511

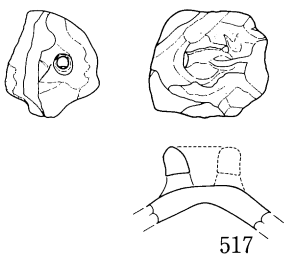

512

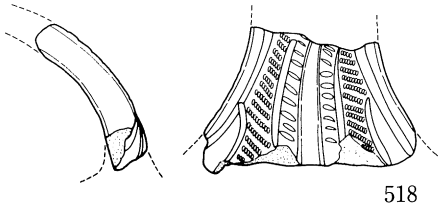

513


510


514

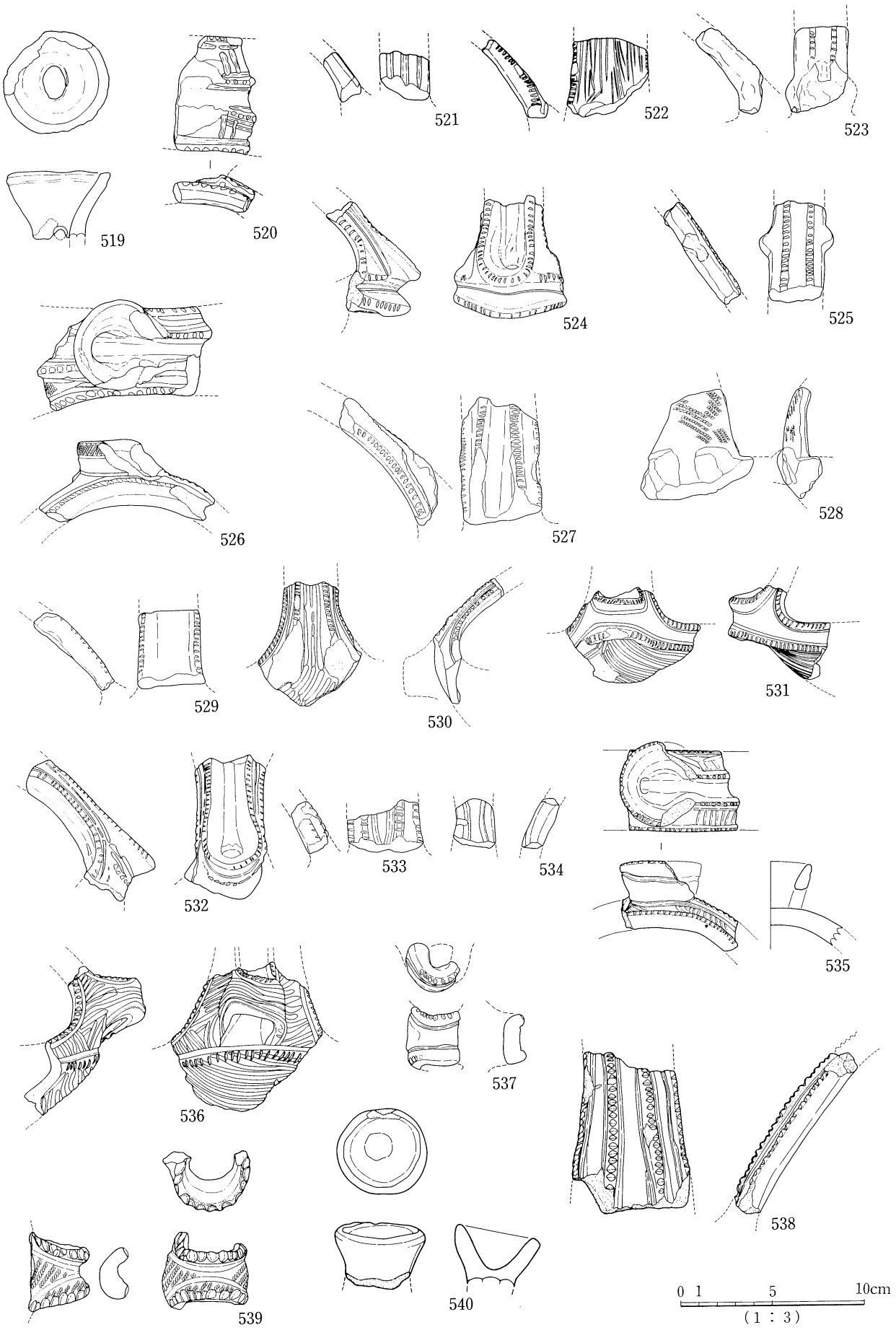

515 516


517


518

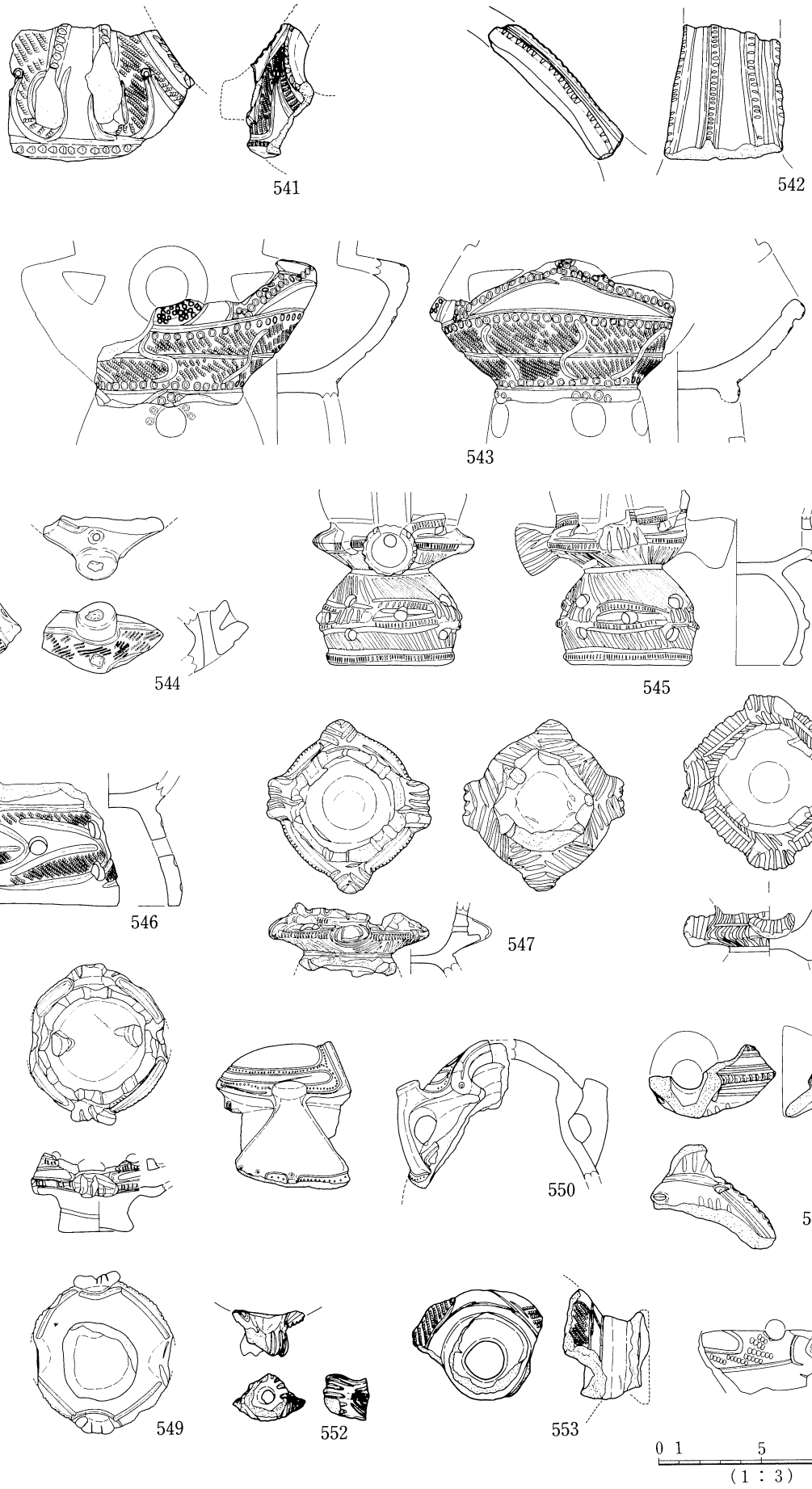
0 1 5 10cm
(1：3)

第688図　包含層出土土製品(9)



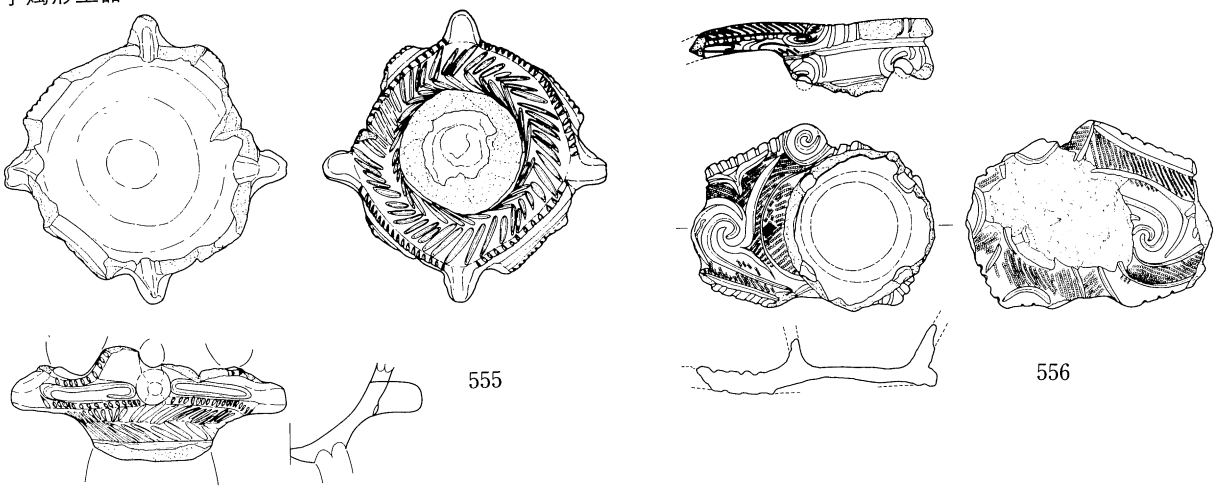
第689図　包含層出土土製品(10)

異形土器

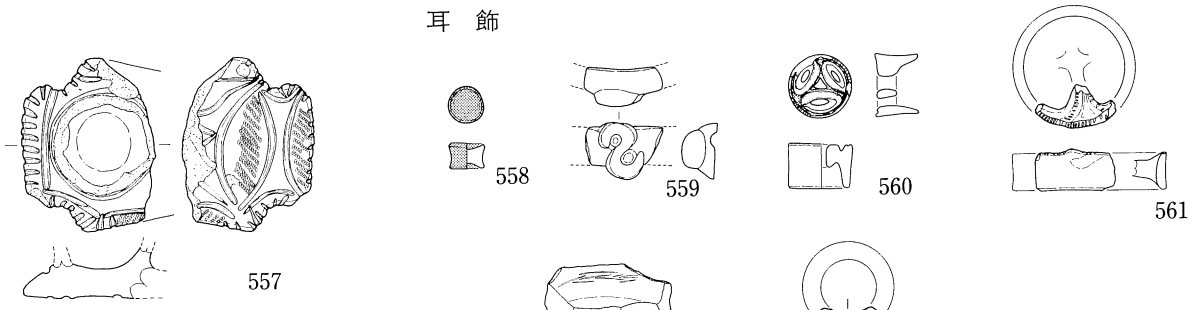


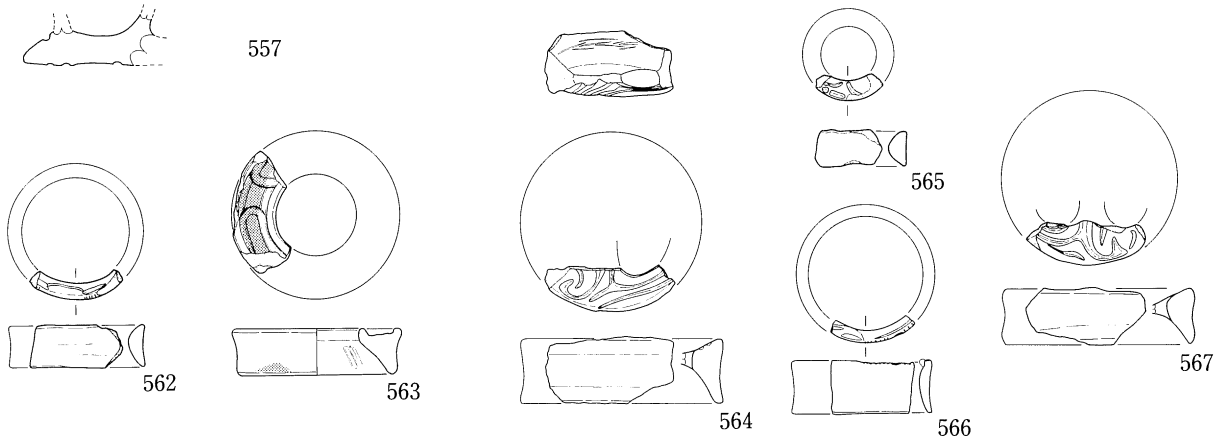
第690図　包含層出土土製品(11)

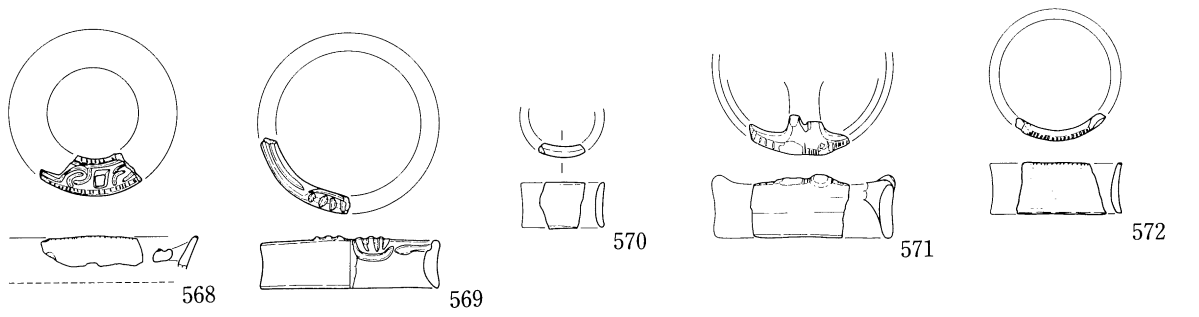
手燭形土器

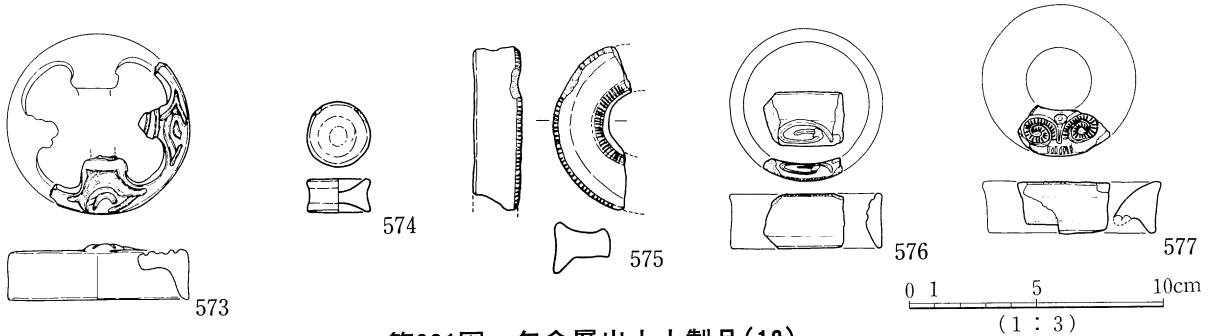


耳　飾









第691図　包含層出土土製品(12)



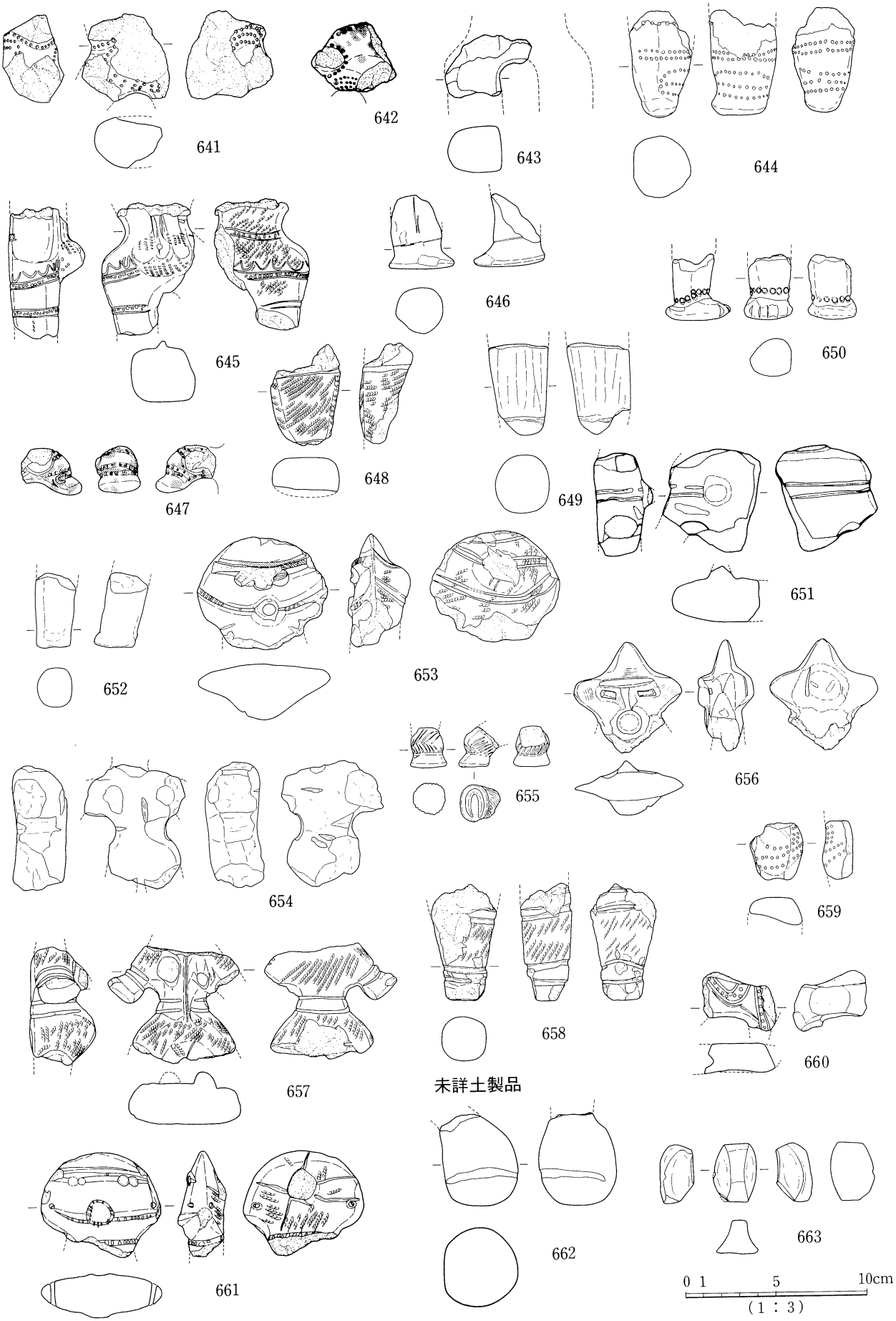
第692図　包含層出土土製品(13)



第693図　包含層出土土製品(14)



第694図　包含層出土土製品(15)



第695図　包含層出土土製品(16)

第165表　土製品集計表

器種 / 時期	土玉	土錘	土器片錘	土製円盤	異形土製品	ミニチュア土器	釣手・香炉形土器	異形土器	手燭型土器	耳飾	腕飾	垂飾	土偶	土版	未詳土製品	小計
称名寺			5			1				1						7
堀之内1・2		1	9	7		1	1					1	2		1	23
加曽利B			9	19			20			7			8	1		64
曽谷・安行1・2				29			12	6		4		1	3			55
安行1～3b				7			1	1		10			2			21
不明			1							2						3
弥生	2		6	3		4	1	1					3			20
古墳	12		1	1				1								15
奈良・平安			1	8			5						1			15
包含層	18		122	349	7	7	43	13	2	29	1	2	72		2	667
総計	32	1	154	423	7	13	83	22	2	53	1	4	91	1	3	890

第166表　遺構土玉計測表

弥生・古墳遺構

No.	調査次	遺構No.	時　期	残存状況	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備　考	挿図No.
1	3	36	古墳前期	完形	2.4	2.4	2.4	13.3		第372図－19
2	3	36	古墳前期	完形	2.6	2.6	2.8	16.8		第372図－17
3	3	36	古墳前期	完形	2.6	2.5	2.3	12.7		第372図－16
4	3	36	古墳前期	一部欠	2.8	2.7	2.9	16.5		第372図－15
5	3	36	古墳前期	完形	2.4	2.4	2.5	13.2		第372図－18
6	3	36	古墳前期	半欠	3.4	(2.3)	3.7	22.1		第372図－14
7	3	36	古墳前期	完形	2.2	2.2	2.2	8.8		第372図－20
8	3	36	古墳前期	完形	2.1	2.1	2.0	8.3		第372図－21
9	3	36	古墳前期	破片	(3.2)	(2.0)	(3.6)	11.7		第372図－13
10	3	37	宮ノ台	破片	(3.4)	(2.0)	(3.5)	14.0		第373図－ 1
11	3	37	宮ノ台	破片	(3.2)	(1.9)	(3.9)	17.6		第373図－ 2
12	3	38	古墳前期	半欠	(3.6)	(2.1)	(3.5)	17.3		第375図－15
13	3	38	古墳前期	完形	3.7	3.5	3.7	40.8		第375図－16
14	3	38	古墳前期	半欠	3.5	(2.3)	3.8	23.8		第375図－14

第167表　遺構土錘計測表

縄文住居

No.	調査次	遺構No.	時　期	時期ｺｰﾄﾞ	残存状況	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備　考	挿図No.
1	2	19	堀之内1	2	一部欠	8.3	2.9	2.6	60.4		第27図－76

第168表　遺構土器片錘計測表

縄文住居

No.	調査次	遺構No.	時　期	時期ｺｰﾄﾞ	残存状況	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備　考	挿図No.
1	2	19	堀之内1	2	完形	4.4	6.1	1.4	40.1		第 27図－ 74
2	4	27	堀之内1	2	完形	5.0	5.5	0.9	30.8		第 43図－ 34
3	3	29	加曽利B	3	完形	6.6	5.0	1.0	47.8		第 49図－102
4	3	29	加曽利B	3	完形	4.8	7.0	1.0	41.8		第 49図－103
5	3	29	加曽利B	3	破片	3.7	(4.8)	1.0	15.6		第 49図－104
6	3	45	堀之内1	2	完形	4.6	5.2	1.0	26.6		第 98図－ 30
7	1	47	加曽利B	3	完形	4.1	5.5	1.1	34.5		第109図－ 53
8	1	50	加曽利B	3	完形	3.7	3.8	1.1	18.7		第157図－612
9	1	50	加曽利B	3	完形	2.5	5.7	0.8	11.4		第158図－646
10	1	50	加曽利B	3	一部欠	4.1	(5.0)	1.0	21.7		第158図－647
11	1	50	加曽利B	3	完形	4.3	4.4	0.9	22.1		第158図－648
12	3	＊51	加曽利B	3	完形	4.2	5.6	1.2	29.6	＊古・新不明	第180図－ 90
縄文土坑											
13	2	59	不明	6	完形	5.1	4.8	1.1	28.1		第199図－ 1
14	4	156	堀之内1	2	半欠	5.1	(6.3)	1.3	38.9		第210図－ 6
15	1	184	堀之内1	2	完形	4.0	5.3	1.3	28.1		第212図－ 15
16	3	222	堀之内1	2	完形	4.7	6.7	1.1	45.7		第218図－ 18
17	3	235	称名寺	1	一部欠	5.4	(6.5)	1.3	51.8		第221図－ 58
18	3	235	称名寺	1	半欠	6.3	(5.8)	1.5	48.1		第221図－ 59
貝層											
19	1・2	32	称名寺	1	半欠	5.1	(4.8)	1.4	28.3		第442図－ 6
20	1・2	33	称名寺	1	半欠	6.5	(3.9)	1.1	23.4		第442図－ 6
21	1・2	33	称名寺	1	一部欠	7.4	(9.9)	1.8	106.3		第442図－ 7
22	＊ 4	44	堀之内1	2	完形	3.9	5.7	1.0	26.6		第444図－ 15
23	4	44	堀之内1	2	完形	4.5	6.0	1.1	31.3		第444図－ 16
24	4	46	堀之内1	2	完形	4.5	3.7	1.3	22.5		第444図－ 12
弥生・古墳遺構											
25	2	3	－	7	完形	5.4	5.9	1.3	53.9		第301図－ 12
26	2	3	－	7	半欠	3.9	(3.5)	1.1	18.9		第301図－ 10
27	2	3	－	7	一部欠	4.5	(4.7)	1.3	25.6		第301図－ 11
28	2	4	－	7	完形	4.7	5.6	1.1	31.2		第304図－ 8
29	1	30	－	7	完形	7.6	9.1	1.4	109.8		第356図－ 41
30	1	30	－	7	完形	4.3	6.2	1.3	39.5		第356図－ 42
31	3	36	－	7	一部欠	4.5	(5.2)	1.2	30.9		第372図－ 25
奈良・平安遺構											
32	1	10	－	8	完形	5.0	4.5	0.9	27.4		第413図－ 28